

日整広報 はつらつ

公益社団法人 日本柔道整復師会・機関誌
www.shadan-nissei.or.jp

VOL. 230
JAN. 2015

1



巻頭言 羊の皮を纏いて…会長 工藤鉄男

◎年頭所感 自由民主党総裁 安倍晋三 / 厚生労働大臣 塩崎恭久 / 日本医師会会長 横倉義武

◎新春インタビュー 専門性を生かして世界に貢献しよう

◎本流 \$6. 塩梅し、和してこそ、一人前 会長 工藤鉄男

◎2014年度第2回日本研修閉講式

◎柔整サロン 真っ直ぐに信じた道を突き進め 真道ゴー

◎第23回日本柔道整復接骨医学会学術大会

◎チンギスハーンの国

●目次

● 巻頭言 羊の皮を纏いて 会長 工藤鉄男	1
年頭所感 自由民主党総裁 安倍晋三	3
年頭所感 厚生労働大臣 塩崎恭久	4
年頭所感 日本医師会会長 横倉義武	8
新春インタビュー 専門性を生かして世界に貢献しよう	11
本流 § 6. 塩梅し、和してこそ、一人前 会長 工藤鉄男	17
● 理事会だより	19
■ 2014年度第2回日本研修閉講式 柔道整復術 大きな森に育てたい!!	21
柔整サロン 真っ直ぐに信じた道を突き進め	26
■ 第23回日本柔道整復接骨医学会学術大会 「みる」(視・観・診・看)を大会テーマに	33
■ 第62回全日本産業別柔道大会に「医療接骨」チーム出場	41
■ 柔道グランドスラム東京大会2014トレーナー活動報告	43
● 連載その④ チングスハーンの国	44
● 会務執行状況	46
● 平成26年度日整主催学術大会	47
● 日整 HP 案内「アンチエイジング講座」	47
● 学術シリーズ (第22回) 主に球技系スポーツにおける膝前十字靭帯損傷予防トレーニングについて	48
● 学術大会会員発表動画配信	51
本の紹介 ホントの腰痛対策を知ってみませんか	52
日整 HP からご覧いただけます	53
ちょっといい話 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」	54
私の夢 「発見」	55
● 日整フォーラム 国民のため、地域住民のため、患者さんのため公益活動をしてまいります	56
北海道 関東地域 群馬県 埼玉県 千葉県 北信越地域 石川県 東海地域 愛知県 三重県 近畿地域 滋賀県 京都府 四国地域 香川県 九州地域 福岡県	
投稿 世界空手道選手権大会の救護活動を体験して	68
現場の臨場感を体験	69
第19回大阪国際親善柔道大会	70
● 日整文芸	72
● 編集後記	73
● 表紙解説	74

●Web Page 日整ホームページ <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

トップページの最新情報、健康情報誌「日整広報はつらつ」VOL.230
または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌を
クリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



羊の皮を纏まといて

公益社団法人日本柔道整復師会

会長 工藤 鉄男



明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては恙なく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は（公社）日本柔道整復師会に多大なるご厚情を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、本年の干支は乙未（きのと・ひつじ）のです。干支の「未（ひつじ）」は、十二支では「羊（ひつじ）」を指し、長く温かい毛を有し、群れを成して暮らす穏やかな動物のことです。争い事

を好まない温和な性格から、平和の象徴としても祀られます。その一方で、文字としての「未」は、枝が伸びきれていない状態の植物を指して、一般に「未だ～せず」というように未完成を示す語として使われます。しかしそれは、「華は散ってこそ実を結ぶ」という自然の傲ならいにあるように、「未完成」は決して「不足」という意味ではありません。志が高ければ、現在の到達点に留まることを善しとせず、更に高嶺を目指すのは当然のことです。未年は更に一段高いところを永遠に目指し続ける改革への思いを乗せた年回りということなのかもしれません。また、この年は、さまざまな抵抗に巻き込まれながら新旧の勢力が衝突する年でもあり、古い殻を突き破っていく年だとも言われています。そして、翌年からの大きな変革期に突入する地均しを行わなければならない年でもあるようです。柔整業界の改革が大詰めへと向かう本年には、正に相応しい干支が廻ってきたと言えます。

そして、柔整業界におきましても今年は正に一大転換期を迎えています。当会は、平成23年9月に「旧社団法人」から「公益社団法人」へと移行いたしました。そして、昨年は当会傘下の各都道府県社団の名称を「柔道整復師会」に統一することを決めました。この二つの大きな変化は、今年になって必ず大きな意味を持つこととなります。というのは、現在、国民にとって「柔道整復師」という名称の認知度は、残念ながらあまり高いものではありません。むしろ「ほねつぎ」や「接骨院」という呼び方の方が遥かに認知度が高い状況です。しかし、我々の国家資格の正式名称は「柔道整復師」です。この名称を冠にしなければ、同じ資格を持つ者をまとめきれないのは道理です。柔道整復師の大量排出、接骨院数の増加、それに伴う負の部分での不正の横行等、問題山積の我が業界にとって、今こそ人任せにせず、業界自らが改革を断行しなければならない時だと言えます。国民に広く「柔道整復師とは何か」を周知し、正しく認知していただくための地均しとして「公益社団認定取得」と「会の名称の統一」を行ったのです。

更に、当会が公益社団法人の認定を受けたという事実は、変わり続ける時代の流れの中で、国が「社団」を「公益社団」へと改め、その公益性を数段高めて国民利益を追求したように、我々

は次世代に向けて、更に国と協力して、この柔整業界を牽引する責務をこれまで以上に担ったことを意味しています。

当会は「公益社団法人」と「柔道整復師会」、この2つを同時に備え持ち、日本全体を統括する唯一の柔整の団体として、その信用は、今後当会が進めてゆく全ての施策を力強く支えてくれるでしょう。そして、何を置いてもまず進めなければならない政策が、これまで繰り返し述べてきた「3つの重点施策」なのです。これをしっかりと遂行し、何としても業界を正しい方向に導かなければなりません。年頭に当たり、今一度その施策の内容を簡潔に述べておきます。

まず、一つ目は、受領委任制度の維持推進を公益目的に掲げて、国の法改正に即して組織を公益社団法人と改めた以上、それに見合うような、今の時代に即した受領委任（協定）を再締結すべきという『協定（受領委任制度）の見直し』です。

二つ目は、公益社団体会員と個人契約者とを区別することなく、全ての柔道整復師を平等に扱う仕組みを新たに創り、地域や保険者ごとにバラついた審査基準をも解消する全国統一審査基準を作成導入することを目指す『統一審査基準の作成』。

そして三つ目は、大量排出される柔道整復師が、開業するために最低限必要なモラルと理念、そして施術技術と知識だけでなく、保険事務技能の習得をも義務付ける『卒後臨床研修制度の確立』です。

これらは、どれも簡単に成し遂げられるものではありません。しかし、同時にどれも早急に確立させなければ、急激な衰退傾向を示す業界の存続自体が非常に危うい状況にあることも確かです。

今後、各方面との交渉に臨む際には、可能な限り明確なエビデンスを示し、粘り強く折衝を重ね、曲げてはならない「業界の芯」を貫かなければなりません。そして“羊”のような穏やかさの内側に、決してブレることのない強く熱い“志”を持ち、永くまもっていたぶ厚い毛皮をも脱ぎ捨てて、全く新たな次元の交渉に臨む覚悟です。そして、今年の改革を地均しだけに終わらせることなく、更に突き進めて新たなステージを切り拓きます。最終的には、我々柔道整復師が正しく施術を行える制度環境を整えることができれば「柔道整復師が社会保障費の削減にも確実に貢献し、必ず国民のために役立つ」ということを、国民・地域住民の皆様にも必ずご理解いただけるようにしたいと考えています。

会員の皆様には、更なるご理解とご協力をぜひともお願いいたします。そして、全ての柔道整復師が、自分のためではなく他者のために業を成す『利他の精神』を常とすることを心から願っています。

最後に、今年一年が我々を必要とされる地域住民の皆様をはじめとする日本国民、そして会員の皆様全員のご健康とご多幸を心より、お祈りして年頭の挨拶とさせていただきます。

【透かし文字に込めた想い】

今回、本文の背景に「統一」という透かし文字を入れました。これは、日整に所属する都道府県社団の「名称」を国家資格名称に統一することで、組織内だけでなく対外的にも、日整が業界を代表する唯一の存在であることを宣言したものです。同時に、当会の重点施策にある「受領委任制度」「審査基準と体制」「実務研修制度」といった明確な業界のエビデンスの基礎を確立し、柔道整復師が正しく施術を行える制度環境をすべて「統一」することを意味しています。

年頭所感

自由民主党総裁 内閣総理大臣 安倍 晋三



新年あけましておめでとうございます。

総理就任から2年が経ちました。この間、経済の再生をはじめ、東日本大震災からの復興、教育の再生、社会保障改革、外交・安全保障の立て直しなど、各般の重要課題に全力で当たってまいりました。さらには、地方の創生や、女性が輝く社会の実現といった新たな課題にも、真正面から取り組んできました。

そして先の総選挙では、国民の皆様から力強いご支援を頂き、引き続き、内閣総理大臣の重責を担うこととなりました。

いずれも戦後以来の大改革であり、困難な道のりです。しかし、信任という大きな力を得て、今年は、さらに大胆に、さらにスピード感を持って、改革を推し進める。日本の将来を見据えた「改革断行の一年」にしたい、と考えております。

総選挙では全国各地を駆け巡り、地方にお住いの皆さんや、中小・小規模事業の皆さんなどの声を、直接伺う機会を得ました。こうした多様な声に、きめ細かく応えていくことで、アベノミクスをさらに進化させてまいります。

経済対策を早期に実施し、成長戦略を果敢に実行する。今年も、経済最優先で政権運営にあたり、景気回復の暖かい風を、全国津々浦々にお届けしてまいります。

今年は、戦後70年の節目であります。

日本は、先の大戦の深い反省のもとに、戦後、自由で民主的な国家として、ひたすら平和国家としての道を歩み、世界の平和と繁栄に貢献してまいりました。その来し方を振り返りながら、次なる80年、90年、さらには100年に向けて、日本が、どういう国を目指し、世界にどのような貢献をしていくのか。

私たちが目指す国の姿を、この機会に、世界に向けて発信し、新たな国づくりへの力強いスタートを切る。そんな一年にしたいと考えています。

「なせば成る」。

上杉鷹山のこの言葉を、東洋の魔女と呼ばれた日本女子バレーボールチームを、東京オリンピックで金メダルへと導いた、大松監督は、好んで使い、著書のタイトルとしました。半世紀前、大変なベストセラーとなった本です。

戦後の焼け野原の中から、日本人は、敢然と立ちあがりました。東京オリンピックを成功させ、日本は世界の中心で活躍できると、自信を取り戻しつつあった時代。大松監督の気迫に満ちた言葉は、当時の日本人たちの心を大いに奮い立たせたに違いありません。

そして、先人たちは、高度経済成長を成し遂げ、日本は世界に冠たる国となりました。当時の日本人に出来て、今の日本人に出来ない訳はありません。

国民の皆様とともに、日本を、再び、世界の中心で輝く国としていく。その決意を、新年にあたって、新たにしております。

最後に、国民の皆様の一層の御理解と御支援をお願い申し上げるとともに、本年が、皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

年頭所感

厚生労働大臣 塩崎 恭久



平成27年の新春を迎え、心よりお慶び申し上げます。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

厚生労働大臣に就任してから約4ヶ月が経過しました。その間、国民の皆様の安全・安心の確保に万全を期すべく努力して参りましたが、引き続き、私自身が先頭に立って、様々な課題に全力で立ち向かう決意を新たにしています。

第一に、東日本大震災からの復興を加速させなければなりません。

東日本大震災の発生からもうすぐ4年経とうとする今もなお、多くの方々が避難生活を送っておられます。昨年、私も被災地を訪問し、被災された方々からお話を伺いました。現場第一主義に立ち、将来を見据えて復興に取り組む思いを新たにいたしました。私自身も復興大臣であるとの強い意識で、対策を進めていきます。

具体的には、避難生活の長期化に対応するとともに、地域の復興を進めるため、被災者の健康確保や心のケア、医療・介護の体制整備、雇用対策等に取り組んでいきます。

また、東京電力福島第一原子力発電所事故への対応も重要な課題であり、発電所での作業や除染作業などに従事する方々の放射線障害防止や食品中の放射性物質の安全対策に努めていきます。

第二に、昨年、消費税率の10パーセントへの引上げについて、安倍総理より、予定されていた今年10月からの引上げを18ヶ月延長する旨の表明がありました。安倍総理のご判断を重く受け止めつつ、今後とも、国民の安心を支える社会保障制度を所管する立場として、世界に誇る我が国の社会保障制度を次の世代にしっかりと引き渡していくため、国民のご理解を得ながら改革を進めていきます。

医療・介護については、住み慣れた地域で継続的に生活できるよう、質が高く効率的な医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築が必要です。このため、昨年6月に成立した医療介護総合確保推進法に基づき、地域医療構想の策定によって医療機能分化や連携を図るとともに、各都道府県に設けた地域医療介護総合確保基金を人材不足対策等への支援に活用していきます。また、在宅医療・介護の連携の推進等によって地域支援事業を充実するなど、地域の実情に応じた医療・介護提供体制の確立に引き続き取り組んでいきます。さらに、平成27年度の介護報酬改定に取り組むとともに、認知症の方が安心して暮らせる社会の構築に向けて、関係省庁とも連携しながら認知症施策を加速するための戦略を策定し、施策を推進していきます。

医療保険制度については、国民皆保険を今後とも堅持するとともに、広く国民の納得・信頼・安心を実現できる制度を構築することが重要です。国民健康保険を始めとする医療保険制度の

財政基盤の安定化、医療費の適正化、国民の負担に関する公平の確保等を推進し、将来を見据えた改革に向けてしっかりと取り組んでいきます。

子ども・子育て支援の充実についてはきわめて重要な施策であるため、幼年期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援の総合的な推進を図る子ども・子育て支援新制度を、本年4月から施行します。引き続き、円滑な施行に向けた準備を進めるとともに、「待機児童解消加速化プラン」に基づき、平成29年度末までの待機児童の解消を目指して取組を進めます。また、いわゆる「小1の壁」の打破に向け、「放課後子ども総合プラン」に基づき計画的な整備を進め、放課後児童クラブによる受皿の拡大に取り組んでいきます。

年金については、国民の老後の安定した生活を支えるセーフティネットであり、将来にわたって制度を持続可能で安心できるものとするのが重要です。

このため昨年から、社会保障制度改革プログラム法に規定された公的年金制度の検討課題等については、社会保障審議会年金部会において、また、企業年金制度の普及・拡大の方策等については、社会保障審議会企業年金部会において、それぞれ検討を行っています。本年早々に議論を取りまとめ、必要な取組を進めます。年金積立金の運用については、運用の見直しとガバナンスの強化は車の両輪であり、改訂日本再興戦略等を踏まえ専ら被保険者の利益のための取組を進めます。さらに、年金記録問題を踏まえ、年金事業を更に国民に信頼されるものとするよう年金記録の訂正手続の円滑な実施や、国民年金納付率の向上、厚生年金の適用促進等に取り組んでいきます。

第三に、持続的な経済成長のためには、女性や高齢者が働きやすく、意欲と能力のある若者が将来に希望が持てる環境を作るとともに、投資の促進や人材力の強化等を通じた労働生産性の向上を図ることが重要です。このため、改訂日本再興戦略に基づき、働き方改革や失業なき労働移動の実現、女性・若者、高齢者等の活躍推進等に取り組んでいきます。

働き方改革については、昨年9月に、私を本部長とする「長時間労働削減推進本部」を厚生労働省内に設置し、長時間にわたる過重な労働が疑われる事業場に対する重点監督の実施等、省を挙げて長時間労働の削減に取り組んできました。その上で、時間ではなく成果で評価される新たな労働時間制度の創設など労働時間法制の見直しや、年次有給休暇の取得促進策の検討など、働き方改革の実現に取り組んでいきます。また、パートタイム労働者の均等・均衡待遇をより一層確保するための取組を行います。

失業なき労働移動の実現については、労働市場全体としてのマッチング機能の強化を図るほか、産業ニーズ等を踏まえた職業訓練の推進、主体的なキャリア形成支援、新たな職業能力評価制度の構築等、職業能力開発施策を積極的に推進していきます。

女性の活躍促進については、急速な少子高齢化の進展や国民ニーズの多様化などの社会経済情勢の変化に応じていくため、「女性の力」が十分に発揮される環境を整備し、活躍の場を充実させることが重要です。このため、各企業における女性の活躍推進に係る取組の着実な推進を図るための仕組みなどを盛り込んだ法律案の再提出・成立に向けて全力で取り組んでいくとともに、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備・充実に向けた取組を進めていきます。

若者等の活躍促進については、若者の円滑な就職支援、企業における若者の活躍促進に向けた取組の支援等、若者の雇用対策の充実にに向けた法的整備を含む検討、「正社員実現加速プロジェクト」により非正規雇用労働者の正社員化を推進します。

また、外国人技能実習制度については、国際貢献を目的とする趣旨を徹底するため、関係省庁と連携して、新たな法律に基づく制度管理運用機関の設置等による管理監督体制の抜本的強化や対象職種の大等の大充を図ってまいります。

このほか、医療・福祉、建設業等の人材不足分野における「魅力ある職場づくり」等を通じた人材確保対策を進めます。

労働者派遣制度については、昨年臨時国会で改正法案が廃案となりましたが、派遣労働者の一層の雇用の安定と保護等を図るため、制度の見直しの必要性についてさらなる理解を求めていきます。

第四に、地方創生については、昨年末にまち・ひと・しごと創生本部でとりまとめられた長期ビジョン・総合戦略に基づき、今後、政府において本格的な取組みが始まります。厚生労働省においても、昨年10月に、私を本部長とする、「まち・ひと・しごと創生政策検討推進本部」を設置し、この問題について省を挙げて対応することとしておりますが、引き続き、国民が安心して働き、希望通り結婚や出産・子育てができ、将来に夢や希望を持てる、魅力あふれる地方の創生に向け、各府省と連携し、総合的な対策に取り組んでいきます。

第五に、国民の皆様の安全と安心の確保に向けた取組についても、迅速に進めていかなければならないことが多々あります。

国民の生命や健康を守るため、感染症対策については、昨年公布された改正感染症法の円滑な施行に取り組むとともに、エボラ出血熱や新たなインフルエンザなどへの当面の対応として、行政機関や医療機関における対応を強化すること、国民の皆様への正確な情報を提供し協力をいただくなど、警戒を怠ることなく万全を期してまいります。

難病や小児慢性特定疾病については、本年1月から、公平かつ安定的な医療費助成の制度の確立等を柱とした難病法等が施行されました。本年夏には国の基本方針を定めることとしており、今後とも、難病等の克服を目指し、相談支援体制の確保など総合的な対策を進めていきます。また、予防接種基本計画に基づく予防接種施策の推進、がん検診の受診率向上やがん登録推進法の円滑な施行に向けた取組をはじめとするがん対策、肝炎、生活習慣病等様々な疾病を抱える方々への支援策や予防策、原爆被爆者の方々への支援を引き続き進めていきます。

心身に重大な悪影響を及ぼし、幼い子供などが犠牲者となる悲惨な事故を引き起こす危険ドラッグについては、厚生労働省は、指定薬物の迅速指定、検査命令・販売停止命令の発動や、販売サイトの削除要請などを強力に推進してきました。その結果、販売店舗の八割を廃業又は閉鎖に、国内販売サイトの約四分の三を閉鎖又は販売停止に追い込みました。昨年11月に成立した改正医薬品医療機器等法に基づき、危険ドラッグの撲滅に向けて取締り等を徹底してまいります。

医薬品・医療機器等については、昨年施行された医薬品医療機器等法に基づく取組を進める

とともに、安全対策や審査の迅速化、薬事戦略相談の拡充等により、世界に先駆けた革新的医薬品・医療機器の創出や再生医療の実用化を図っていきます。

児童虐待については、子どもの命が奪われる痛ましい事件が後を絶たないなど、依然として深刻な状況が続いています。こうした現状を踏まえ、政府としては、「児童虐待防止対策に関する副大臣等会議」を開催し、関係府省庁が連携して検討を進めております。厚生労働省でも、昨年9月に「児童虐待防止対策のあり方に関する専門委員会」を設置し、妊娠期からの切れ目ない支援のあり方など、課題について実効ある児童虐待防止対策の構築に向けて検討し、11月にはこれまでの議論のとりまとめを行ったところです。専門委員会では、引き続き、自立に向けた支援等について議論することとしています。

また、児童養護施設等には、虐待などにより保護者の適切な養育を受けられないことが原因で入所する子どもが増加しています。そうした子ども達に対して家庭的な養育環境の下できめ細かなケアを提供していくため、里親やファミリーホーム、児童養護施設の小規模化・地域分散化等の社会的養護の充実をさらに取り組んでいきます。

社会福祉法人については、福祉ニーズの多様化、複雑化に対応していく中で、その果たす役割がますます重要となっており、高い公益性や非営利性に見合ったガバナンスの強化、透明性の確保、財務規律の確立等、制度の見直しに取り組めます。

福祉人材確保対策については、喫緊の課題である介護人材の確保に向けて、多様な人材の参入促進、資質の向上及び労働環境の改善について、あらゆる施策を総動員し、総合的な確保方策を講じていきます。

生活保護・生活困窮者施策については、昨年施行された改正生活保護法の規定に基づき、不正・不適正受給対策の強化や医療扶助の適正化を図るほか、受給者の自立に向けた就労支援の強化を進めるとともに、生活困窮者に対して包括的な相談支援や就労支援等を行う生活困窮者自立支援制度の本年4月からの円滑な施行に取り組めます。

あわせて、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することがないよう、子どもの貧困対策を総合的に進めていくことが重要です。

援護行政については、戦後70周年を迎える節目の年に当たり、戦没者の遺骨収集帰還事業の一層の推進を図るとともに、慰霊事業、戦傷病者、戦没者遺族に対する支援に着実に取り組んでいきます。また、中国残留邦人等に対する支援策をきめ細かく実施します。

障害のある方への支援については、障害福祉サービス等の報酬改定に取り組むとともに、障害の有無に関わらず活躍できる環境整備を推進し、障害者総合支援法施行後3年の見直しに向けた検討を進めていきます。また、改正障害者雇用促進法の円滑な施行に取り組むなど、障害者の就労支援の充実を進めて行きます。

その他にも、生活衛生関係営業の振興や老朽化した水道施設の計画的更新や耐震化、運営基盤強化のための広域化等を推進していきます。

以上、厚生労働行政には多くの課題が山積しています。国民の皆様には、一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、年頭に当たっての私の挨拶と致します。

年頭所感

日本医師会会長 横倉 義武



明けましておめでとうございます。国民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は各地で天候不順が続き、土砂災害や洪水、更には火山噴火等、各地でさまざまな災害が発生致しました。地球の温暖化による天候不順や火山活動の活発化に対する今後の災害時における支援のあり方、被災された方々への医療提供体制のあり方について、更なる検討が必要であることを強く感じさせられた一年でありました。

折しも、昨年8月1日、日本医師会は災害対策基本法上の「指定公共機関」の指定を受けました。今後、国・地方の防災行政における医療の位置づけの向上を図るとともに、災害医療コーディネート研修やJMAT体制の整備など大災害への備えについて強力に推進して参りたいと思います。

世界に目を移しますと、エボラ出血熱の感染拡大をはじめ、混沌とするシリア情勢など悲惨な戦乱も続き、多くの尊い命が犠牲になっております。こうした報道に接するたびに、人の生命と健康を守るために日々の医療に向き合っている多くの医師は、胸を締め付けられるような思いをされているのではないかと思います。特に紛争や戦乱については、日進月歩の医療によって多くの命が救われている現実が、「生命の大切さ、尊さ」について改めて考える契機とはならないものかと願わずにはおられません。

明るい話題としては、昨年10月、ノーベル物理学賞に3名の日本人科学者が選ばれるというビッグニュースが飛び込んで参りました。今日、われわれが身近に接する電化製品を見るにつけ、青色LEDの発明とその実用化が、どれほど素晴らしい発明であったか、また、どれほど国民を勇気づけ、日本人としての自信と誇りをよみがえらせたか言葉では言い尽くせないほどの受賞であったと言えます。

そして同じ月に、東海道新幹線が開業50年を迎えました。これまでの乗客数は延べ56億人にととのことで、私も頻繁に利用する一人であります。開業以来、列車事故による死傷者はなく、また、車両の改善やスピードアップも続き、今や、全国の新幹線網は2,600kmを超えているそうです。社会構造に与えた影響は計り知れないものがあり、戦後、正にわが国の高度経済成長を牽引してきた代表の一つであると思います。

高度経済成長を牽引してきたものとして、われわれ医療関係者が真っ先に思い浮かべるのは、これより3年早く50年を迎えた国民皆保険（昭和36年制定）と呼ばれる公的医療保険制度です。国民皆保険は、戦後日本における、まだ発展途上であった昭和36年に、生活のインフラ整備のための相互扶助による保険制度として確立されました。決断された当時の政治家、経済界、労働界のリーダーの方々のご労苦と先見の明に対しましては、常々、深い尊敬の念を抱いており

ます。その後、わが国は世界一の長寿国となり、また、2000年にWHOが発表した世界各国における医療制度の比較では、健康寿命においても世界一になりました。これは日本の公的医療保険制度が極めて優れている証と言えるでしょう。そのベースには、お互いを助け合うという日本国民の特有の考え方がしっかりと息づいているのではないかと思います。現在、アメリカで盲腸の手術（1泊2日）をする場合、費用は200万円以上かかると言われていますが、日本では30万円、実際は保険適用により3割負担の9万円で済む現実をもっと多くの方々に知って頂く必要があります。

昨年、私が参加しましたアジア大洋州医師会連合（CMAAO）の会議では、蔓延している多剤耐性結核の対策が大きな問題となっております。これには、日本のように国民皆保険体制が確立されていない状況も、その背景にあるのではないかと考えております。また、医療関係者に対する暴力が増えており、これに対し医師側はストライキ等の措置で対抗しているとの報告もありました。今日、日本においては、昭和36年に誕生した国民皆保険によって、医師も患者もお互いに納得できる医療提供体制が確立されている現実を改めて実感した次第であります。

現在、わが国の医療界は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、病床の機能分化と連携、在宅医療・介護の充実、医療従事者の確保と勤務環境の改善等により、地域の特性に応じた地域包括ケアの推進が求められております。本年4月には改正医療法に基づき、地域ごとに地域医療構想が策定されることとなりますが、その前段階として地域医療構想策定のためのガイドラインづくりの協議が進んでいるところであります。地域医療構想はこのガイドラインが一つの指標となって策定されることとなりますが、国が作成した一律のガイドラインのみに頼って策定されるべきではありません。あくまでも、各地域の実情に基づいた地域医療構想であることが肝要であると思っております。

その一方で、わが国の債務は1,000兆円を超え、経済成長は伸び悩み、将来的に労働力人口の減少が見込まれています。これに加え、社会保障費は高齢化の進展に伴い、医療、介護等を中心に更なる増加が予想され、国家財政上の大きな課題となっております。今後も財政を緊縮しようとする立場から、規制改革や成長戦略の名の下に、公的医療保険給付の範囲を狭める圧力が続いていくものと思われまます。

われわれ医療提供者は、正直なところ、諸々の規制がない状況で自由に医療を提供したいという気持ちもありますが、年々、健康保険の財源が厳しくなる中で、超高齢社会の到来を迎え、限られた国の予算でいかに対応できるかという視点で考えると、ある程度の計画に基づいて医療を提供していかなければなりません。

しかし、いかなる改革が行われようとも、医療という人の生命に直接関わる行為において忘れてならないのは「健康と安全」であり、これを守るためには適切な規制が必要となります。実際、医療における規制のほとんどは、人の生命と健康を守るための規制なのです。規制改革の名の下に、この社会保障の大きな柱である医療を市場原理に基づく自由競争に委ねるべきではありません。ひとたび自由競争に委ねれば、その安全性と平等性が揺らぎ、わが国の国民皆保険は崩壊の一途をたどることとなります。真の国づくりは、国民が健康で安心して暮らせる「まちづくり」であり、医療はその根幹にあります。国家戦略において、成長戦略が極めて重

要な政策であることに異論はありませんが、生命を預かる医療本体の産業化はふさわしくありません。年頭に当たり、改めまして、国民の健康を守るための規制については、その評価のあり方を粘り強く主張していかなければならないと痛切に感じているところであります。

こうした厳しい社会経済情勢の中で、必要とする医療が過不足なく受けられる社会を構築していくためには、「かかりつけ医」を中心に地域の医師会と行政が主体となり、地域の実情を反映した、地域に即した形での「まちづくり」を進めていくことが何よりも重要です。その上で、生活習慣の改善対策や各種健診などの生涯保健事業を推進し、健康寿命を延伸させる等、時代に即した改革を進めながら、国民皆保険を堅持し、持続可能なものにしていかなければなりません。

国民皆保険は、わが国の歴史と国民の固有の価値観に基づき、先人の工夫と努力の積み重ねにより築き上げられてきたものです。われわれは、国民の生命と健康を守るために、世界的に見ても少ない負担で満足度の高い、非常に優れた「国民皆保険」という貴重な財産を、地域医療提供体制を維持する基本的な仕組みとして守り抜き、次の世代に引き継いでいく義務があります。

日本医師会は医師を代表する唯一の団体であり、決して医師の利益だけを追求する団体ではありません。「国民と共に歩む専門家集団」として、世界に冠たるわが国の国民皆保険を堅持し、国民の視点に立った多角的な活動によって、真に国民に求められる医療提供体制の実現に向けて、本年も執行部一丸となって対応して参ります。国民の皆様方の深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年が皆様にとりまして、希望に満ちた明るい年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

新春を寿ぎ謹んで お慶びを申し上げます

平成27年 元旦

公益社団法人 日本柔道整復師会

会 長 工藤 鉄男

副 会 長 木山時雨

副 会 長 萩原正和

監
事

岡本和久
内山富之

富永敬二
伊藤述史

原 正和
大西辰博

高崎光雄
伊藤宣人

山崎健司
市川善章

阿部松雄
萩原 隆

永田官久
松岡 保

三橋裕之
佐藤金一

豊嶋良一

総務部長
経理部長
保険部長
学術部長
広報部長
国際部長

理事
阿部松雄

萩原 隆

永田官久

松岡 保

三橋裕之

佐藤金一

豊嶋良一

新春インタビュー

広報部



専門性を生かして 世界に貢献しよう

2020東京五輪・パラリンピック参画へ

皆様には、よき新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は、柔道整復師業界のリーダーとして国民に一層信頼される業界づくりと発展に全力を尽くしています。

さて、2013年9月7日にブエノスアイレスで開かれた第125次IOC総会で2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決まり、日本中が歓喜に沸きました。日整はこの明るいニュースが報道されると、柔道整復師が専門性を生かして携われるよう「三大会準備本部」を創設しました。日整の公益目的事業の3本柱の一つに「日本独自の伝統医療である柔道整復をもって国際協力および貢献を目的とした事業」があります。そこで国際協力という視点から新年に当たり、工藤鉄男会長、木山時雨・萩原正和両副会長、豊嶋良一総務部長を迎え「2020東京五輪・パラリンピック参画へ」と題し、進捗状況や活動構想などの概要を語っていただきました。

聞き手は、永田官久理事・広報部長

<永田部長>

本日は公私ともにご多忙のところ、工藤会長をはじめ、皆様にお集まりをいただきありがとうございます。2020東京五輪・パラリンピックへの参画に向けて、いろいろとお話を伺いますが、よろしく申し上げます。一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の運営に各界から幅広い助言を得るための「顧問会議」が設置され、この顧問のメンバーに業界を代表して工藤会長が就任しましたが、このことは、本会のどのような部分が評価され推挽されたのでしょうか。まずは工藤会長にお願いします。

—公益法人であるからこそ—

<工藤会長>



皆さん、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。さて、5年後に迫った2020年の東京オリンピック・パラリン

ピック開催に向けた準備作業の中で、柔整業界からも顧問会議に参加させていただけることになり大変ありがたいことだと感じています。そして、医療分野からは医師だけでなく、我々柔道整復師からの意見を聞いていただけることについては、非常に素晴らしいことだと感謝しています。そして、このことは、もしも当会が私的な団体であったなら、この会議への参加自体が叶わなかっただろうとも強く感じています。つまり、己の利益よりも他者の利益を優先するという活動趣旨を持つ公益社団法人であることに大きな意味があったのだろうということです。

オリンピックの精神には「勝つことよりも参加することに意義がある」という有名な言葉がありますが、これは「参加さえすれば、何でも良い」という意味ではなく、目標に向けて真摯に努力することの重要性を説いた言葉だと思います。我々も、日本人として日本で開催されるオリンピック・パラリンピックに協力できる・参加できるというだけでなく、自らが得意とす

る分野において、他の人たちとは異なった視点や協力方法を提案することにこそ、この会議へ招かれた意義があると考えています。

競技に参加されるアスリートたちは、たった一つのことだけに集中して精進する中で、己を知り、己を律し、己に打ち克つことを学びます。そして、自分自身の持っている価値観・考え方を大切にし、そこからブレないで居続けるために「自分自身との戦いだ」という言葉をよく口にします。更には、周囲の価値観や評価にも左右されずに、ひたすら自らの目標に無心になって取り組む姿勢は、スポーツに限らず、どのような立場の者にも重要な姿勢だと思います。

そして同時に、アスリートが自己の体調を厳しく管理し、大会当日にコンディションをぴたりと合わせるように、それをサポートする側としては、開催までの日程を熟慮して、実行可能な体制づくりを進める必要があります。自らそうしたサポートを確実に実行できるようにしなければ、どんな提案や意見も絵空事に終わってしまうでしょう。重要なのは、この東京オリンピック・パラリンピックで「今、日本は何を世界に示すべきなのか？」ということだと思います。そして、我々がすべき提案をしっかりとしたいと思っています。

◆どのようなスタンスで◆

<永田部長>

柔道整復師が東京オリンピックへ参画するには、どのようなスタンスで臨んでほしいですか。

—“利他の心”をもって—

<工藤会長>

昨年10月10日に行われました一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の第1回顧問会議で配布された資料の中にも、医療関係の項目では、当会からの提案である『2020年東京大会を通じて他者の利益に繋げる「利他」という日本の伝統的な考え方を世界に発信していきたい』という文言が「大会ビジョン」として盛り込まれました。我々柔道整復師の源流には「柔道」があります。本来、武道である柔道の究極の目的は相手を倒す「殺法」にありますが、それと対となる「活法」という怪我から復帰させる手当・手技の部分があり、

それが長い時間をかけて発展して現在の柔道整復術になっているわけですから、我々が今、公益社団法人として公益活動を行い、そこに“利他の精神”が脈々と受け継がれているのは、正に柔道の根本に「精力善用」「自他共栄」という自ら沸き上がるような強さで、進んで社会貢献し精進するという考え方があるからに他なりません。

人間は、個人としてどれ程の能力を持っているようにも、全くの単独では成り立ちません。だからこそ、社会を形成する全ての人への敬愛の心を重視して、お互いに助け合い、譲り合う「相助相譲」「自他共栄」が必要であり、周りの人たちの存続に向けて懸命に努力することで、自らも存続し続けることを可能にする。その目的達成（善）のために持ち得る全精力を尽くすということが、我々柔道整復師にとっての、血液の流れであり、神経の伝達そのものなのです。

己のみの単独利益追求を止め、まずは周りの他者の利益を守るというスタンスこそが、我々日本人がこの東京オリンピック・パラリンピックで全世界に改めて示すべきテーマだと私は考えています。それがオリンピック精神にある「健全な肉体を支えるのは“健全な精神”である」に重なることだと思っています。

そして、各国のアスリートがそれぞれの種目で頂点を目指すとき、その途中でさまざまな障害・傷害が発生します。東京での五輪開催に際して、我々柔道整復師は日本の伝統医療の担い手として、長い歴史的な経験知による手技を、国籍や人種で区別することなく、またこの五輪の祭典で日本を訪れる全ての人たちに等しく提供できる体制をつくるべきだと考えています。そして、種目も柔道に限定せず、対応すべき場所も東京だけでなく、日本中の柔道整復師が全て同じように対応を可能するため、今から準備し、五輪前年のプレ大会、更に多くの種目を対象として、各地域をキャンプ地として活用するなど実現すべきだと感じています。

◆進捗状況は◆

<永田部長>

一昨年、2020オリンピックの開催地が東京に決まると、日整は早速準備に取りかかりましたが、オリンピックと日整の関わり方を含めて現

在の進捗状況を木山副会長にお願いします。

—有識者を特別顧問に—

<木山副会長>



現在は、2020東京オリンピック・パラリンピック、2019RWC（ラグビーワールドカップ）、2015WSJ（ワールドスカウトジャンボリー）

準備本部「(略称)三大会準備本部」として組織を立ち上げ、本会の工藤会長を本部長とする25名で結成しています。特別顧問に長野オリンピック冬季競技大会日本選手団本部トレーナーなどを務めた、白木仁筑波大学教授と公益財団法人日本オリンピック委員会の奥脇透医学部サポート部門副部長をお迎えする予定です。2020オリンピックに向け、WHOをはじめ世界に認められている柔道整復術を大いに駆使して職種を活かした形で世界の選手や関係者にこの技術を提供できるようにしたいと願っています。この活動によりよい対応ができるように講習会などを開催し、活動に参加する日本全国の日整会員のスキルを高めていきたいと思っています。

活動に関わることができる国や競技はかなり制限されると思いますが、2014年12月5日(金)～12月7日(日)に「柔道グランドスラム東京2014」が東京体育館で開催され、韓国代表チーム・モンゴル国代表チームのトレーナーとして本会会員が参加しました。このようにモンゴル国、韓国は、現状日整会員が日本での大会ではトレーナーとして活動できていますので、これらの国は活動に参画できる可能性が高いと思います。また、途上国で医療スタッフが不足している国が我々の活動を求めていると思いますので参入できるように働きかけをしていく予定です。

◆活動内容は◆

<永田部長>

木山副会長のお話からは、参画・協力できる可能性は高いですね。競技種目がたくさんありますが、どのようなお手伝いを考えているので

しょうか。

—専門性を活かして貢献—

<木山副会長>

開催地である東京での活動が中心となると思いますが、全国各地で合宿、練習、試合をするケースもありますので活動の場は多くあると思います。日本全国の柔道整復師が、テーピングやストレッチなど専門性を活かし、怪我の処置と予防のケア活動を中心に、世界の選手や関係者にいろいろな形で参画・協力できるようにしたいと願っています。単なるスポーツの祭典で終わるのではなく、この機会をきっかけに、柔道整復術を世界に向けて配信したいと願っています。

◆競技別の専門的知識は◆

<永田部長>

柔道競技へのお手伝いは何とかなると思いますが、しかしほかの競技を担当する場合、その競技特性を知らなくてはならないため各競技内容の専門的習得を行う必要があると思いますが、萩原副会長いかがでしょうか。

—競技に特化した講習会が必要—

<萩原副会長>



永田部長のおっしゃるとおり、各競技の専門的習得を行う機会をつくる必要があると思います。東京オリンピックとはいえ、東京以外の場所で

開催される競技もありますので、特定の競技が開催されるであろう都道府県については、その競技に特化した講習会を開く必要があると思います。日整からも情報を提供するなどしてバックアップをしていきたいと考えてはおりますが、一番重要なのはその都道府県社団の熱意です。各地域において、競技へのサポートをする実際の動きの中心は、当然その都道府県の社団および会員であるため、成功するか否かは、その組織力と熱意に懸かっていると思います。

また、競技が開催されない地域の社団や会員も積極的に参加をしていただきたいと思います。オリンピックには膨大な数の選手が世界中から集まります。外国語を話せる方、競技に精通している方、スポーツ競技でのサポートにたけている方、その他日整のオリンピックサポート体制に参加してくださる方、全て大歓迎です。日整に所属する全ての会員が何かしらの形でこのオリンピックに協力してくださることを期待しております。

◆会員外の柔道整復師の協力は◆

<永田部長>

日本の伝統医療である柔道整復術を全世界から来日する人々に知っていただく絶好のチャンスだと思います。そこで日整会員外の柔道整復師の協力も必要と思われるのですが。

—重要なことはその技術—

<萩原副会長>

柔道整復師をアピールする上で一番重要なことは、その技術です。技術にたけているのであれば、日整会員以外の柔道整復師でも良いと思います。活動を通して日整の取り組みを知ってもらうことで、会員外の柔道整復師が日整に対する理解のきっかけにもなるのではとも思います。

今回のオリンピックのサポートは柔道整復師業界としては日整がリーダーシップをとります。日整の会員以外の柔道整復師が参加する際も、協力しあうことが必要かと思います。

◆プレオリンピックでの活動は◆

<永田部長>

萩原副会長は、前号の「日整広報はつらつ」の巻頭言で2019年に日本で開催されるワールドラグビー大会について触れておりました。柔道整復師が活動することになっているとのことですが、どのようなお手伝いをするのでしょうか。

—怪我の処置を中心に協力—

<萩原副会長>

ラグビーはご存知のとおり、外傷が非常に多いスポーツの一つです。大きささまざまな外傷がありますが、柔道整復師が対応できる怪我に対

して、バックアップをしていきたいと思っております。また、怪我の処置や後療など、柔道整復師特有のものもあります。その地域の医師指導の下、治療を通して日本伝統医療である柔道整復師を世界に向けてアピールできる場だと確信しております。

具体的には、練習や試合への同行を行っていき、柔道整復術を通して、選手やその国との信頼関係を少しでも築けるように努力していく必要があります。人間は大抵、未知のものに対しては拒否反応を示すものです。我々の課題は、それをいかにして取り除くのか、そしていかにして信頼関係を築いていくのかであり、これらが主眼となると考えます。

◆活動の範囲と外国語対策は◆

<永田部長>

実際の活動は東京や関東周辺の先生方をお願いすることが多くなるとのことですが、各国から選手が来るため世界共通語となる英語をはじめ、外国語の習得も必要になると思われますが、豊嶋部長いかがでしょうか。

— 2年前までにモデルを完成—

<豊嶋部長>



オリンピック・パラリンピックの開催期間中は、確かに東京とその周辺が各種目の会場となることから、東京および関東近県の柔道整復師の活躍に期待していますが、プレ大会をも含め、事前の合宿やイベント等を通じて、日本中のすべてのエリアの柔道整復師および各地域の団体組織が、それぞれの地域で何らかのカタチで参画可能だと考えています。そして、むしろ地方の特色を前面に出すことで、種目ごとにスポーツというジャンルや国境を越えた文化交流や人と人との繋がりをつくることのできるのではないかと考えています。そして、人は自分自身が動いて移動することができるわけですから、活動してくれる人をエリアで区切る必要はないと考

えています。

また、外国語への対応についてですが、今から我々自身が外国語の修得をするという積極性はもちろん重要ですが、現場での交流上で想定される「単語」や定型の「会話」を外国語と日本語訳とを併記した資料をあらかじめ作っておき、各現場で配布するといった対応について日本オリンピック委員会等（JOC）へ働きかけ、実現へのコミュニケーションを強めたいと考えています。

まだ5年もあると思えば長いようですが、実際にやらなければならない準備を確実にしていくには、あっという間に過ぎてしまうように感じています。少なくとも次回のラグビーのワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック開会の2年前までには、こういった対応を実施できるのかという確実なモデルを完成させて、当日までに熟成させたいと考えています。

◆我々にできることは◆

<永田部長>

全国の会員の中には、スポーツを通して諸外国との繋がりを持ち、支援協力を希望する会員もいると思われます。思わぬところにヒントを得られることがありますのでアンケート調査を試みては、豊嶋部長にお願いします。

— 新たな連携のネットワークで—

<豊嶋部長>

確かにそのとおりですね。我々の組織は常日ごろから、日々の施術だけでなくさまざまなスポーツの救護や災害時の対応を含めた活動を組織的に行い、現時点においてそれなりの評価をいただいております。更には国内の行政だけでなく国境を越えた世界の国々で活躍されている会員もおります。そうしたマンパワーをしっかりと把握して、目的に応じて一体どういったネットワークや対応が可能になるのかをなるべく早い段階で組み立てていく必要があると思っています。

また、業界の内側からのリサーチだけでなく、各スポーツの現場や国外やWHO等での活動をも通じて視野を広げて「我々に可能な活動は何か!」と「我々がすべきなのは何か?」という2つの方向からの問い掛けで重なる部分を見つ

けたいと考えています。そして、世界中の約190ヶ国の中には、選手団に救護のサポートチームを同行させられない国もあるかもしれません。そういった国々に対して、我々にできることを医師会を中心とした新たな連携のネットワークを創って、この東京大会を通じた信頼づくりを進めたいと考えています。何の計画性もなくただ闇雲に動くことには何の意義もありませんが、先々までのことを考え過ぎて動かないことや、動かないための口実のような停滞は、もう現在の日整では止めなければならないと感じています。

◆オリンピック後の業界は◆

<永田部長>

東京五輪・パラリンピック参画を契機にどのような方向で柔道整復師と業界を発展させることができるのか、工藤会長の指針をお願いします。

—社会貢献一筋に歩む—

<工藤会長>

我々はもともと、骨折や脱臼をはじめとする外傷を扱う専門職として、その奥義を一子相伝的に伝承し、それを広く社会に公開することを得意としない業界でした。そのために「柔道整復」自体が、これまで世の中にあまり認知されていないのが現状です。だからと言って、この東京五輪を機に我が業界を発展させたいというようなことは考えていません。

我々が持つ本来の資質と心から目指している社会貢献や公益性の部分を正しく社会に周知することができれば、今後の地域社会において、我々はむしろ必要とされると確信しています。つまり、利己的な目的で宣伝するという意志は微塵もありません。ただただ真実を伝え、その趣旨をご理解いただくことで、急激な高齢化を迎えた日本という国のため、それぞれの地域社会で暮らす人々のために、この国の社会保障に貢献するために、我々の持つ能力を正しく発揮できるようにすることが本当の目的なのです。

また、この技術の根底では常に、傷んでいる人の「心に触れる」ことによって紡がれる「信頼」を最も大切にしています。このオリンピック・パラリンピックの開催に際し、たとえ国や

民族、文化や宗教が異なっていたとしても、経済的な格差があろうとも、そして何らかの障害を持っていようとも、人と人が同じ場所で触れ合うことで改善できることが必ずあると私は信じています。選手であっても、その随行者であっても、応援する旅行者であっても、そこに我々の柔道整復術は必ず役に立ちます。そのために、あえて我々は「今、ここにいる」と手を挙げて示そうと考えました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、人間がさまざまな「柵」や「壁」で区切られてしまう現在の制度や仕組みの弊害から「互いを思いやる心」によって、もう一度繋がり合うことを再認識し合うきっかけとなる大会にできたらと考えています。

そして、その思いはやがて世界中に広がり、地球を何周も巡って、もう一度、日本中の地域を温かな絆で包み込むことになるかと信じています。そして、そうした「夢」を実現させるため、人任せにせず、柔道整復師自らが最初の一步を踏み出す必要があると思っています。

◆積善の業界として◆

<永田部長>

先生方にはお時間を割いていただき貴重なお話を伺いました。日本の伝統医療である柔道整復術をもって、世界のスポーツ界に貢献するため



「三大会準備本部」を設置したとのこと。その大きなビジョンを達成するためにも、日整の強い組織づくりとともに執行部と関係者が一丸となって取り組む必要性を強く感じました。積善の業界として多くの柔道整復師が参画していただけるよう、ご協力をお願い申し上げましてインタビューを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

本流

会長 工藤 鉄男

§6. 塩梅し、和してこそ、一人前

今回は、未来に向けて次世代に通用する新しい制度を創りあげたいという、柔整業界の大きな夢を実現させる方法について、少し考えてみたいと思います。

例えば、単純に何かの目的を達成しようとしたとき、目的の大小や内容に応じて、実際に何をどうすべきかが異なるのは当然のことです。それは、一人で簡単にできることと、二人で協力の方が良いこと、更にたくさんの人たちが集まらなければできないことなど、方法もさまざまだと思います。中には、自分でできることでも他者に指示して効率的に進めるという考え方がある一方で、何もかもすべて自力でやることに喜びや誇りを感じる人もいます。しかし、目的が異なれば、どれか一つの方法にだけ固執する必要はありません。適時、最善の方法を見極め、それを実現させていくことが最も重要なことだと思います。

さて、日本には「加減」や「塩梅(あんばい)」という言葉があります。どちらも状態を良好に保つための言葉です。しかし、そこには、アレもコレもただ足していったって複雑にするのではなく、余計なものを見つけて、一つひとつ削っていくことで、本質的な部分だけを残すという「引き算」の美学があります。

日本料理では、醤油・味噌・塩などで味付けをする際、それらを加え過ぎてしまったら全てが台無しになるため、この手法が用いられていると聞きます。つまり、「引き算」的思考は、

結論へのアレンジや後出しの追加ではなく、常に現状を細かく確認した上で模索し、創意工夫し続ける姿勢なのです。

更には、米国アップル社の「iPhone」は、正にこの引き算的思考によって創られた逸品です。新しい電話機を作る際に、さまざまな機能を盛り込もうとしてスイッチをどんどん足していったら、電話機の表面はスイッチだらけになり、一体どこを押して良いのか分からなくなってしまいます。そこで発想を逆転して、削りに削ってスイッチを一つにしてしまったのが「iPhone」だと言われています。大きな液晶画面に、そのときに最も必要な項目だけを表示させ、不要なものは表示しない。それを機能ごとに場面転換していくのです。後から聞けば実に簡単な発想ですが、そのシンプルさにこそ重要なヒントがあるようです。当たり前過ぎる程の単純さ故に、そこに真の答えがあることに人はなかなか気付かないようです。

そして、日本には「和」という伝統的な考え方があります。これは、一般的には「仲良くする」という意味合いで用いられることが多いようですが、本来「和」は「足す」という意味です。つまり、独力でなく他力を足すことで、独力ではできないことを可能にする「足し算」の考え方です。この方法は、より大きなことを実現するには欠かせない効率的な方法ですが、複数の者が同じ目標に向かう場合、各自の大まかな方向性は同様でも、細かな着地点や目的を達

成する方法論、その順序などに関する考え方に僅かに食い違いが生じて、参加者個々の目的への思いが不揃いになるという一面があります。それらを解消するためには、全体に「結束力・組織力」が求められるように思います。では、それをどのように創り上げれば良いのでしょうか。

将棋の駒にも、王将だけでなく、金・銀・飛車・角・桂馬・香や歩があるように、人には何か得意なことが必ずあるものです。それを上手く見極めて配置すれば「役割」ができ、作業を「分担」すれば「効率」も上がります。そして、各自がそれを認識して動けば、必ず「結果」も伴う筈です。しかし、重要なのは、全ての参加者が他者から無理矢理に動かされるのではなく、それぞれが自分の意志で自ら動こうとすることです。その思いが、参加者全員の最も中心のところで共通していなければ、目的達成への執着が薄れ、結局、他者に頼る気持ちが勝ってしまいます。それでは何か問題が生じて、他力本願となって自分自身で本気で解決しようとはしなくなってしまうでしょう。他者を頼り過ぎれば、本人の「やる気」は育ちません。それではまともな結果が出せる筈もなく、「夢」は絵に描いたままとなります。

また、日本の伝統的な基準の考え方には「一人前」というものもあります。これは、自分ですべきこと、できる筈のことを、他者の手を借りることなく独力できちんとこなせるようになることで、技術などが他者から求められている水準に達しているといった意味です。しかし、その評価はもっぱら他者がするもので、自分がいくら「もう一人前だ！」と思っている、他者からの評価がそれに達していなければ「未熟者」のレッテルを貼られてしまうという厳しいものです。複雑な目的を達成するためには、そこに参加する者同士が相互に協力し合って分担する必要があり、他者の得意な作業に対して互いを一人前であると認めて「信頼」する必要があります。強い組織力を発揮するには、この信頼は不可欠なものなのです。

同様のことは、我々柔道整復師にも必ず通用すると私は思っています。今、我々が心から望む柔道整復療養費の制度改革という大きな目的の達成に向けて、「塩梅」し「引き算」してから、

「和」し「足し算」をして、「一人前」となる落とし所は一体どこにあるのでしょうか。これまでの柔整業界で塩梅すべきものはいったい何でしょう。それは、何よりも「自分自身」だと私は思っています。自分本位な目線・考え方を一旦まっさらな白紙に戻して、純粹に、自分は他者から求められているのか否か？一体何を求められているのか？それはどうしてなのか？という疑問に対し、自分の対極にいる人たちの目線に立って考える必要があると思います。

今、柔整業界に必要な改革は？と訊けば、『アレもコレもできるようにしたい。医療も、介護も、さらには福祉までも…』という声はすぐに上がりそうです。しかし、それでは「柔整版iPhone」は産み出せません。我々に本当に必要な「和」と「足し算」は、活躍できる分野を幾つも跨いで重ねることだけではないと思います。一番の問題は、その手前の「今何ができていないのかを我々自身が知る」ところにあります。その改善のためにこそ、柔道整復師全員が「和す」必要があるのです。

そして、柔整療養費では、現在年間に延べ5千万人の通院患者がいるという事実から、「国民から求められている」のは確かだと思います。では、国民は我々に何を求めているのでしょうか？そして、それは何故でしょうか？まだ明示できていないその答えは、確実に日々の施術の中にあります。誰もが感じている当たり前のこと、あまりに当然過ぎて今はまだ気付いていないけれど、必ずそこに答えがあります。我々はそれが一体何かを探し出さなければなりません。そして、誰が見ても納得するエビデンスを手にして、柔道整復師全員で和し、国民が望む柔道整復術とその制度を、この時代に最も合った仕組みに創り変えるのです。

ただ待っていても誰も柔整の制度を正しく理解して、国民のために変えてくれることなどあり得ません。我々の目の前には、独りではできないことが確実にあります。現在、柔道整復師は、社団会員と個人契約者、勤務者をも加えれば約6万人にもなります。やるべきことを塩梅して引き算し、それを達成するために和して足せば、「一人前」どころか6万人以上の力となって、目的を達成させることが可能になります。

理事会だより

総務部

<平成26年度 第6回理事会>

開催場所	日本柔整会館2階理事会室
開催日時	平成26年9月25日(木)午後1時 ～午後3時40分
理事現在数 及び定足数	現在数18名 定足数10名
出席者	理事18名中17名出席 工藤、木山、萩原(正)、豊嶋、 佐藤、松岡、永田、萩原(隆)、 市川、山崎、伊藤(宣)、三橋、 高崎、大西、原、伊藤(述)、 富永
理事外の出席者	内山監事、岡本監事
司 会	豊嶋総務部長
開会の辞	木山副会長
議 長	工藤会長
閉会の辞	萩原副会長

<会議の概要>

冒頭で議長が司会進行を総務部長に依頼し会議が開始された。最初に定足数を確認し、議事録署名人は定款第38条に基づき工藤鉄男会長と内山富之・岡本和久 両監事であることを確認した。

<議 題>

第1号議案『三大会(2020東京オリンピック・パラリンピック、2019RWC、2015WSJ)準備室について』

総務部長より三大会(2020年東京オリンピック・パラリンピック、2019年ラグビーワールドカップ、2015年世界スカウトジャンボリー)準備室の設置・組織図・体制図について説明があり、審議の結果、承認可決した。

第2号議案『定款施行細則等について』

総務部長より議案について説明があった。日整登録勤務柔道整復師の位置付けなどを定めた「定款施行細則」についておよび役員選任委員会を選挙管理委員会に名称変更したことに伴い当該規程の名称を「選挙管理委員会規程」に改

めることを審議し、提案どおり承認可決した。
第3号議案『日整データ管理室の新設について』

総務部長より日整データ管理室の新設について説明があり、審議の結果、承認可決した。

第4号議案『柔道整復研修試験財団 委員について』

総務部長より議案について説明があった。柔道整復研修試験財団の卒後臨床研修委員会委員として、吉田充孝先生逝去に伴う欠員に対する推戴の人選を検討し、三橋裕之理事を推薦することを承認可決した。

第5号議案『各地区・都道府県での学術大会ならびに柔道大会における祝電について』

総務部長より議案について説明があった。審議の結果、各地区・都道府県での学術大会ならびに柔道大会において、今後は各社団からの祝電披露を取りやめることを承認可決した。

第6号議案『国立図書館からの依頼について』

総務部長より議案について説明があった。日整がインターネット上で公開している情報を、収集・一般公開したいという国立国会図書館からの依頼について、審議の結果、承認可決した。

第7号議案『愛知県社団法人設立50周年記念式典における表彰申請について』

総務部長より議案について説明があった。審議の結果、愛知県から申請のあった愛知県社団法人設立50周年記念式典における表彰について審議し、会長表彰1名、永年会員表彰10名の表彰を承認可決した。

第8号議案『公認私的研究会の登録申請について』

学術部長より議案について説明があった。審議の結果、新潟県からの標記登録申請を承認可決した。

第9号議案『その他 災害見舞申請について(京都：床上2名)』

総務部長より議案について説明があった。災害見舞規程に基づき、京都府(床上浸水2件)からの災害見舞申請を承認可決した。

第10号議案『その他 リラクゼーション業について』

総務部長より議案について説明があった。ヘルスケアビジネス（リラクゼーション業）について経済産業省の公表資料を確認した。

〈報告事項〉

① 職務執行状況報告について

会長（工藤鉄男）、副会長（木山時雨・萩原正和）、理事（豊嶋良一・佐藤金一・三橋裕之・松岡 保・永田官久・萩原 隆・市川善章・山崎健司・伊藤宣人・高崎光雄・大西辰博・原 正和・伊藤述史・富永敬二）より、前回報告以降の事業計画に沿って行った自己の職務の執行状況について報告があった。

② 日整全国少年柔道大会・日整全国少年柔道形競技会・日整全国柔道大会の進捗状況

③ 産業別柔道大会について

④ 日整登録勤務柔道整復師 追加登録

⑤ 第2回 DJAT 全体会議開催について

⑥ 台風、大雨等の被災状況（会員施術所）

⑦ 理事会議事録について

⑧ 帰一功労賞 物故者への表彰について

⑨ 柔道整復師賠償保険事故データについて

⑩ 変更届出書 吉田理事逝去に伴う変更（内閣府提出書類）

⑪ 平成26年度税務経営実態調査について

⑫ 予算管理月報

⑬ 経理部会報告書

⑭ 12月までの国際部 日程について

⑮ モンゴル国立医療科学大学提案の「伝統医療国際学会（仮称）」及び看護大学内の「柔道整復コース設立」に関する会議開催について

⑯ 普及プロジェクトの経費確定について

⑰ モンゴル国講師派遣 活動報告

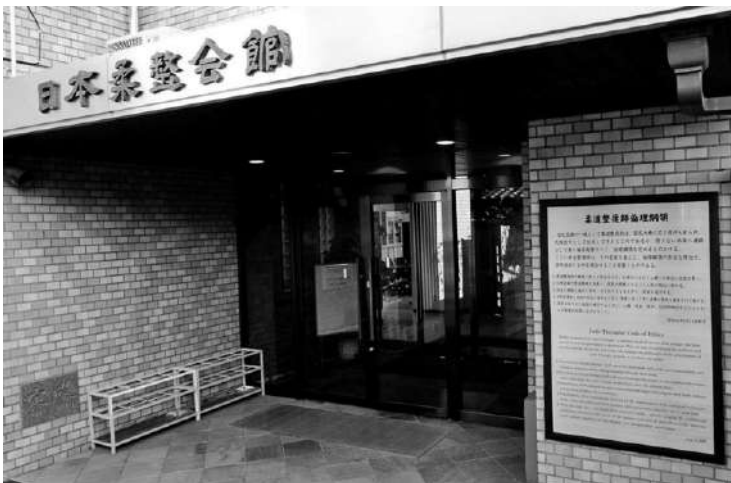
⑱ 国際部からのお知らせ

⑲ NHK 国際放送動画の日整 HP 掲載について

⑳ 各部からの報告

柔道整復師倫理綱領を掲示（総務部）

日本柔道整復師会は上野公園に至近であることから、日本人はもとより外国の観光客の散策ルートに位置しています。そのため日本柔整会館の玄関わきに、外部に向けて（アピールも含めて）、柔道整復師倫理綱領を掲示しました。



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一環として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承されてきたところであるが、限りない未来へ連続として継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

1. 柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁徳の心を以て人々への奉仕に生涯を費す。
2. 日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
3. 物事に専断と協力の心、分らざるまじき法を守り、職務を遂行する。
4. 学業を専重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
5. 業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、種族、性別、社会的地位などに拘わらず患者の回復に全力を尽くす。

昭和62年6月11日制定

Judo Therapist Code of Ethics

Widely recognized as a part of Japan's national medical system, Judo therapy has been passed down from generation to generation. With the aim of continuing the tradition and practice into the future, the following code unifies the philosophy of the practitioners of Judo Therapy, as well as its ideals and goals.

1. Practitioners of Judo therapy shall carry out their work with pride and responsibility, persisting in conscientiously aiding humanity through their work.
2. Practitioners of Judo therapy shall endeavor to nurture the people as noble models of the nation, while cultivating the spirit of Judo, as they have since the ancient times.
3. Practitioners shall endeavor to show cooperation and respect towards their work without straying above or below their positions.
4. Practitioners, while continuously striving for the improvement of the sciences of techniques in the study, they will treat their patients with earnestness, sincerity, and in good faith.
5. With this code, they will honor their entrusted duties, strictly keeping the confidential information obtained in the course of this business, and with all their effort, in the necessity of the patient regardless of race, religion, sex, and any other social status.

June 11, 1987

柔道整復術 大きな森に育てたい!!

モンゴル人准医師 研修成果を報告



公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は、2014年度日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトの第2回日本研修閉講式を平成26年12月14日（日）、関係各機関から来賓を迎え上野精養軒において厳粛な雰囲気の中で開催した。本プロジェクトは、2011年9月から5年計画によりモンゴル人のみで柔道整復術普及活動が行われる体制づくりを目的として、日本においてモンゴル人指導者候補の人材育成のため年2回実施している。

研修を終えたのは、ムンフバートル・ボロルチメグ准医師、バトムンク・アルタンエルデネ准医師、オユンバートル・ダリンチュルン准医師の3名。研修生は、この事業に理解を示していただいている病院と整形外科医院および日整会員の接骨院で2ヶ月間にわたり、骨折や脱臼、捻挫、靭帯損傷などの臨床所見や鑑別診断、治療法について学んだことを報告した。その高い習得力には称賛の拍手が送られた。

研修生には、独立行政法人国際協力機構東京国際センターの佐々木十一郎所長と工藤鉄男日整会長から受講証明書が授与され、記念品として解剖学書が贈呈された。代表してオユンバートル・ダリンチュルン准医師は謝辞の中で、柔道整復術の指導者育成を木の成長に例え、日本でいただいた苗を母国で植え、木から林にそして大きな森になるまで大切に育てることが感謝と恩返しになるとの旨を語り、会場全体が感動に包まれながら閉式となった。

この後、日整の合同部会懇親会が開かれた。日本の文化が生み出す武士道精神を持った柔道整復術の発展を担い、併せて柔道の教育的価値も世界の人々に広めるようとする高邁な日整の公益事業に対し、来賓の皆様から心温まる多くの祝辞をいただいた。





技術と精神を 世界の人々に

本日は年末の大変お忙しい中、ご来賓の皆様をはじめ多くの関係者の皆様にご臨席をいただき、誠にありがとうございます。モンゴル国の準医師の皆さんには日本の各地域で柔道整復の技術と技能を病院や整形外科医院、接骨院で学んでいただき、母国に寄与できる研鑽の成果が大いに得られたことと思います。日本に来て素晴らしい先生方に出会い、高めた技術と技能をモンゴル国民のために必ず寄与していただくことをお願いします。

この事業は柔道整復師だけで築き上げられるものではありません。外務省ODAとJICAの皆様をはじめ、多くの方々のご協力より遂行されていることを忘れないでいただきたいと思えます。

最近、ノーベル賞をいただいたパキスタンの女性・マララさんのことがNHKテレビで紹介されていました。世界では教育を受けられない人たちが5,500万人以上いるようです。“教育を第一”と主張し、その思いを貫こうとしているマララさんの不撓不屈の精神に深い感銘を受けました。まさに我々の方向性を

導いてくれたスピーチであったと思っています。柔道整復術は発展途上国においてもまだまだ必要とされています。そして柔道を一緒に持っていくことによって健全なる精神と肉体をつくり上げた中で、柔道整復術が役立つように広めていくことは教育に繋がる活動です。

柔道整復術が世界の国々に認められるようにするためには日本柔道整復師会がどのような方向に進めばよいか、47都道府県のリーダーの方々にはその思い共有していただき、このプロジェクトの継続と成功を期して、アイディアを出していただくことをお願い申し上げます。

柔道整復術の普及とともに「精力善用」「自他共栄」「相助相譲」「利他」を根本精神とした柔道の教育的価値も併せて世界の人々に広めるために、外務省ODAそしてJICAの皆様、マスコミならびに関係各位をはじめ多くの方々に一層のご支援とご指導を切にお願い申し上げます。

閉講式は午後3時から国際部の本間琢英部員の司会で始まり、木山時雨副会長の開式の辞により厳かに進んだ。挨拶に立った工藤会長はご来賓に対して深甚なる感謝の意を表した後、研修生に対して「日本に来て素晴らしい先生方に出会い、高めた技術と技能をモンゴル国民のた

めに必ず寄与していただくことをお願いします。この事業は柔道整復師だけで築き上げられるものではありません。外務省ODAとJICAの皆様をはじめ多くの方々のご協力により遂行されていることを忘れないでください」と趣旨を述べた(要旨別掲)。

【国際部報告】

柔道整復術 モンゴル語テキスト完成



本プロジェクトの表舞台に立っている国際部の萩原隆部長が皮切りに2つの活動トピックを紹介した。

一つ目は、柔道整復術のモンゴル語テキスト

『Clinical Judo Therapy』と『Hand Book』が完成したことについて「既にモンゴル国内の医療従事者へ無料配布を行っております。同国において保存療法のバイブルとなることは間違いないものと思います」と述べ、大きな期待を込めた。

二つ目は、モンゴルでの日整の活動がNHKワールドに取り上げられたことについて「10月18日に「Judo Therapy Cures Mongolia」(柔道整復術がモンゴルを救う)と題し、全世界に向け放送されました。柔道整復術の有効性とそれを担う柔道整復術の精神を全世界に向け発信することができました。この意義は非常に深いものがあると考えています。今後は、モンゴル国営放送および日本国内での放送が実現できるよう、さまざまな方面に働きかけを行っております」と更なる豊富を語った。

【来賓祝辞】

リーダーの役割果たして



最初に来賓の挨拶としてJICA東京国際センターの佐々木十一郎所長は、この事業に対する関係者の尽力と協力にお礼を述べられた。また、研修生に労いの言葉を掛け「今回皆様は、それぞれ3回目、4回目に当たる第2のふる里、日本に戻られて研修に励まれたということだと思います。モンゴルの自然は雄大ですが、地方に行きますと日本とは全く違って近代的な医療設備というものは全くございません。

私も太平洋のフィジー、パプアニューギニアといった国に滞在した経験があります。昔の

明治以前の日本のような形態がまだ残っています。そこにはCTスキャンとかX線、MRIなどの検査機器がないわけです。その中で伝統的なこの日本の柔道整復術の技術、基本の心が生かされることは本当に素晴らしいことだと思います。

今回、3名の皆さんは、それぞれ高度な技術を身に付けられたと思います。その高度な技術が近代的な医療にアクセスできない方に対して実りある形で生かされることをお分かりなされたと思われま。ぜひ、遠方から来られる皆様にそして遠方に巡回指導に行つてそのような方々を治していただき、同僚や部下の方々にリーダーとしてご指導いただければと思います。このプロジェクトも残すところあと2年弱になりました。皆さんはモンゴルに戻つて更に研修に努めながらプロジェクトを引っ張つていくリーダーとしての役割が残つております」と述べられ、研修生を激励した。

地道な積み重ねが大切



続いて来賓の挨拶に立った外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第1課の藁谷栄上席専門官は、関係各位に日ごろの感謝を述べた後「この指導者育成・普及プロジェクトは“継続は力なり”と考えさせられるプロジェクトです。ずっと地道な成果の積み重ねの努力をされ、人間と人間とのネットワークを非常に大切にしている、モンゴルの方に大変良いプロジェクトとだと確信しております。外務省JICAが預かっているわけですが、何らかの形でサポートして継続していくことが大切だと思います。

モンゴルの研修生も毎回変わるわけではなく、コアとなる人が育ち、その人が今回の研修でも技術の向上を目指し、モンゴルに帰つてどのようにこの技術を活かせるだろうと研修されたことと思います。日本でも受け入れた病院、接骨院の先生方がネットワークを組んで開校式、閉講式ごとに集まつて確認し合つています。

日本人とモンゴル人が仕事を通して、どれだけ強く結び付くか、これが外交の基本だと思つ

ております。このプロジェクトは今後も継続されて地道に努力された結果が、それぞれの国で染み透っていき目標達成に至るのではないかと思います。これからのご活躍を祈念します」と述べられた。

日本と更なる友好のために



次に来賓挨拶に立った駐日モンゴル大使館のL.エルデネダワー参事官は「モンゴルと日本の関係は、最近非常に飛躍的に発展しています。外交官として思っていることは、外交関係の発展はもともと、いろいろな団体の援助があり、素晴らしい関係があって、外交関係があるんだなと思っています。モンゴルの若者たちを呼んで研修していただき、何らかの交流を深めていることに対して心から感謝しています。これからもたくさん実施していただき、モンゴルと日本の友好のため、頑張りたいと思います。今後とも皆様のご協力とご活躍をお祈り申し上げます」と述べられた。

研修成果報告

准医師

ムンフバートル・ボロルチメグさん（3回目）

研修の目標達成度は90%



今回で3回目のムンフバートル・ボロルチメグ准医師は、研修目的をモンゴルで多く発生する捻挫（靭帯損傷）と骨折の鑑別診断および治療法の勉強であると述べた。前半の10月23日から11月15日までは愛知県のさとう接骨院・佐藤泉先生の下での研修成果を報告した。足関節捻挫（前距腓靭帯と前脛腓靭帯損傷）と腓骨遠位端骨折の臨床所見の違いを実際の症例で確認できたこと。膝関節後十字靭帯損傷の症例も診ることができたこと。また、モンゴルの遊牧民は毎日の治療が困難なため、リハビリテーションの必要性が大事であ

り、足関節捻挫に対しての足底板の作製とその療法を学び理解できたこと。などをスライドで説明した。

後半の11月18日から12月13日までは埼玉県栗原整形外科医院・栗原友介先生の下での研修成果を報告した。膝関節内血腫の症例で、穿刺した血液中にギラギラした脂肪滴が含まれる場合は骨折が疑われ、脂肪滴がない場合は靭帯損傷などを疑うことなどを学んだ。研修の目標達成度は90%理解であり、習得能力の高さを示した。モンゴルで困っている患者さんへの対応の準備と今回学んだ鑑別診断を学生に講義したい、と目標を語った。

准医師

バトムンク・アルタンエルデネ（4回目）

問診・視診・触診術を向上させたい



今回4回目のバトムンク・アルタンエルデネ准医師が働く地方の病院では、骨折や脱臼の患者さんが多い。しかし、検査機器が整っていない環境であり、正確な診断ができない症例がたくさんある。そこで、今回は外傷の正確な鑑別と診断を研修目的に掲げた、と話した。

研修先の森川接骨院では、コーレス骨折に対して徒手整復の助手をできたため骨折の判断ができた。栗原整形外科医院では、モンゴルでもよく見られる高齢者の脊椎圧迫骨折の体幹ギブス固定を学んだ。この骨折は特に原因がないこともあり、レントゲン撮影をしても見逃がされるケースが多い。同医院で圧迫骨折特有の症状を学び、体幹ギブスで痛みが和らぎ、治療成績が上がるのが分かった。

怪我の状態を観察、触診、さまざまなテスト法を用いて鑑別診断。なおかつ他の病気がないか、神経や血管の損傷がないか、などを確認することが重要であることを再認識した。これからも問診、視診、触診術を向上させ、レントゲンのない病院で鑑別診断ができるように努め、帰国してから同僚や地方医師に指導したい、と強調した。

全身を診る大切さ学ぶ



今回4回目のオウンバートル・ダリンチュルン准医師は、モンゴルでは原因が分からず適切な治療が施されないまま腰と膝の問題を長い間抱えている人が

多いことを懸念。このため検査法・診断法を学び適切な治療法を身に付けることを目的に掲げた、と話した。研修先の前半は、加藤接骨院の加藤彰一先生から「構造医学理論」を教えていただいた。痛みはどこからきているか、どうして発生するかについて学び、関節の整復法もたくさん勉強した。ウォーキング指導にも参加して患者さんの歩き方や姿勢などを観察し、いろいろなことを習得した。

後半は、世田谷区池尻の古畑病院でたくさんの先生の下で勉強したことを報告した。患者さんと先生の会話を聞いて、診断には問診がとても大事であることが分かった。その中で考えられる疾患に対する検査法が勉強になった。下腿骨開放性骨折、大腿骨頸部骨折の手術も見学させてもらった。また、理学療法の先生と一人の患者さんを一緒に診ることができて、診察・治療法・考え方を勉強できたのは大変貴重な経験となった。

今年も接骨医学会に参加し、たくさんの発表を聞いて勉強した。今回は腰と膝がテーマであったが、診断のときに膝と腰だけを診るのではなく全身を診て触って行う診察の大切さが分かった。これからは患者さんの怪我の治癒まで観察する機会を多くつくり、たくさんの症例を診て経験を積むことを課題としたい。また、帰国後に勉強会を開き柔道整復師をもっと知ってもらうよう努めたい、と目標を語った。

【受講証明書授与】

記念品の解剖学書を添えて

研修成果を報告後、JICA東京国際センターの佐々木十一郎所長から研修生3名に受講証明

書の授与が行われた。次に工藤日整会長からは、受講証明書と記念品の贈呈があった。記念品は、研修生の希望により解剖学書の目録が贈られた。

代表してオウンバートル・ダリンチュルン研修生は、今回の日本研修では栗原整形外科、古畑病院、森川接骨院、さとう接骨院、加藤接骨院でたくさん勉強ができたこと感謝の意を表し、柔道整復術の指導者育成を木の成長に例え「1

本の木の苗をくださった先生方に対して心から感謝いたしております。私たちは、この木を育て、林に、そして大きな森にするよう頑張っていきます」と謝辞を述べ、感動の余韻に浸る中、萩原正和日整副会長の閉式の辞により終了した。



研修中のことが掲載された新聞記事を見た愛知県の遠藤亮右会員が、帰国してからも役立つよう、子ども用から大人用のものまでモンゴルでも手に入る材料を用いて作製。解説付きの手作り固定具が贈呈された。

（日整合同部会懇親会席上）

柔整サロン

真っ直ぐに信じた道を突き進め

第5代 WBC 女子世界フライ級チャンピオン
第2代東洋太平洋フライ級チャンピオン

しんどう
真道 ゴー氏に聞く

聞き手 公益社団法人和歌山県柔道整復師会会長 原 正和
司 会 公益社団法人和歌山県柔道整復師会広報部長 出崎 素之

和歌山県初の女子プロボクサー世界チャンピオンとして、活躍中の真道ゴーさん。

一昨年、本会の講演会で講演していただき、その講演内容が素晴らしく、真道ゴーさんにボクシングにかける思い、情熱、世間一般に伝え聞くハードなトレーニング・減量内容などをはじめ、男子・女子ともに世界チャンピオンは、東京・大阪・首都圏のジム所属の選手が多い中、和歌山県のジム所属でいかにして世界チャンピオンまで登りつめたのか、もっと深く知りたくなり、防衛戦を控えたお忙しい中、今回お話しを伺った。

出崎 本日は、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。昨年は、ご講演をお引き受けくださりありがとうございました。昨年の講演内容と重複するかもしれませんが、今回は全国の皆さんに読んでいただくもので

すので、よろしくお願いいたします。

◆「ボクシング」とは

原会長 本日はよろしくお願いいたします。
まず、真道さんにとってボクシングとはどの



▲左から原会長、真道氏、出崎広報部長



【プロフィール】

真道 ゴー

- ・1987年7月18日生まれ
- ・中学生時代 バasketボール 和歌山代表
- ・高校生時代 バasketボール 2年生から和歌山代表
- ・大学生時代 天理大学にてBasketボール一部リーグでプレイするもボクシングに転身
- ・プロボクサー時代
2011年5月16日 第2代 OPBF (東洋太平洋) 女子フライ級チャンピオン
2013年5月19日 第5代 WBC 女子世界フライ級チャンピオン
- ・現在 戦績 16戦14勝 (9KO) 2敗
世界チャンピオン防衛中
スポーツジム G-SPORTS 代表

ようなものでしょうか。

真道選手 ボクシングは自分にとっての居場所、ありのままの自分を表現する場所、何か必死になれる全てですかね。

原会長 昨年当会でご講演いただいたときに、学生のころに違うスポーツをされていたと伺ったのですが、ボクシングに転向されたきっかけをお話いただけますか。

真道選手 子供のころに車にはねられ、医師からもスポーツをするのは難しいと言われる中、バスケを続けてきました。大学で苛められたこともあり、自分自身から逃げてしまった。バスケから離れて葛藤している時期に、何か頑張るものを見付けようと模索していたんです。そのときにレスキュー隊員になろうと思い、身体を鍛えるために近所のボクシングジムに通ったことがきっかけです。

原会長 多くの人たちがいろいろなスポーツに熱中されていますが、その中でボクシングの素晴らしさを読者の皆さんにお伝えください。

真道選手 いろいろなスポーツ、どのスポーツも素晴らしいと思います。でも、ボクシングは特別です。殴り合いという特殊なスポーツで、皆さんには、ただ殴り合っているだけと見えるかもしれませんが、その中にはすごい“かけひき”があります。



また、団体競技は誰かが助けてくれるが、ボクシングはリングに上がっている自分との勝負で、誰も助けてくれない。やるか、やられるか命も掛っている。自分の身体を張っているスポーツです。だからこそ人に感動を与えられる。そして何かを感じてもらえるという思いが強いです。

◆信頼している人の声は聞こえます

原会長 バスケに比べると観客席が近いですね。応援や歓声は、はっきりと聞こえてくるものですか。

真道選手 初めのころはよく聞こえませんでした。自分が冷静に戦えるようになってくると、いつも聴いている声は聞こえてくるようになりました。

出崎 それはトレーナーの声ですか。セコンドの声は特別聞こえるのですか。

真道選手 そうですね。信頼している人の声はよく聞こえます。不思議なことですね。

◆嬉しかったこと

原会長 ボクシングをされていて嬉しかったことを教えてください。

真道選手 レスキュー隊員になりたいと思ってボクシングを始めていたころ、当時は非公認のプロはありましたが、女子のJBCプロ団体はありませんでした。女子のプロボクシング協会が2ヶ月後に立ち上がると聞き、タイミングも良かったのですね。

初めてのプロデビュー戦の対戦相手は、アマチュアのチャンピオンでした。ボコボコに打たれても前に出て打ち合いをしましたが、結局は1ポイント差で負けてしまいました。でも、リングから降りた瞬間に、全く知らないおばちゃんたちが涙を流して近くに来て「感動した。私、あんたの打たれても打たれても前に出ていく姿に勇気もらったわ。明日からあたしも頑張るわ」と言っていたとき、この場所で極めたいと思いました。嬉しかったです。

すごくハイレベルの人たちばかりでしたが、自分にとっては誰がすごいのかというのも分からなかったのが、それが逆に良かったと思います。

原会長 観客に感動を与えながら、ご自身のモチベーションを上げるのですね。

真道選手 必死で自分が頑張ることによってお客さんから声援が返ってくる。必死に頑張れば評価をしてもらえる。個人競技ってすごいな、しんどさも味わうけれど素晴らしいさもあり、自分だけにスポットライトが当たって不思議な感覚ですね。

◆つらかったこと

原会長 ボクシングをされていてつらいと思ったことを教えてください。

真道選手 アメリカでの初めての世界戦。挑戦者という立場で、ボクシング界では男子より人気者でトップレベルのメキシコのマリアナ・ファレスと戦ったときでした。自分の中ではレベル的にどこまでできるか分からな

ったのですが、事前に動画やDVDを観ても、みんなことごとくマリアナ・ファレスに倒されていく。周囲が挑戦は危険だと言う中、自分では自分の方が強いのではと自信があったんです。やはり自信がなければリングには上がれない。おどおどしていると相手に見抜かれるので、自分は勝つつもりでアメリカへ渡りました。実際、入場したときは、まさにアウェイの洗礼でブーイングの嵐でした。でも、試合が始まったら自分のパンチの方が当たりました。向こうのセコンドは「何してんのや」とラウンドごとに怒鳴っているし、確実に自分が優勢だと思っていました。ラストラウンド「世界チャンピオンになれるぞ」とセコンドに送られて「よっしゃ〜」となりましたが、結果的に、1人は4ポイント差で自分の勝ち、他の2人は1ポイント差と2ポイント差で負けてしまいました。



でも、退場するとき観客の反応は真逆で、負けた自分は「ウインウイン」と写真をせがまれ、勝った向こうは肩を落として出ていった。結局、世界チャンピオンにはなれなかったのが、帰りの飛行機では納得がいかないというか、悔しいという感覚とはまた違う、理不尽を受け止められない気持ち。つらかったです。**出崎** あるのですね。やはり。ノックアウトでないと勝てないですね。

真道選手 1ラウンド2ラウンドでダウンを奪っていたらね。自分が少し勝っているぐらいだったので、それではダメですね。悔しかったです。逆に、それが自分を一步も二歩も成長させてくれました。帰りの飛行機では何

とも言えない虚しさでしたが。

◆厳しい練習と減量

原会長 ボクシングは走ったり縄跳びをしたりと、すごく厳しい練習を思い浮かべますが、普段の練習はどのくらいのペースでどのようにされているのですか。

真道選手 以前、西岡利晃チャンピオンに「お前どれくらい休養取ってる？ボクシングは他のスポーツと違って、試合までにすごく過酷なスパリングをしていて、100~150ラウンドもすると脳に負担がかかる。その上、厳しい減量と食事制限をし、試合となればヘッドギアなしで10ラウンドを戦う。他のスポーツと違いダメージが大きい。ダメージを回復しないままトレーニングを始めると怖い」と言われ、試合後の1週間、2週間は何もせず、3週間目からロードワークを始めて、フィジカル系なトレーニングをし、3ヶ月前から走り込み合宿、2ヶ月前からミット打ちや実戦練習、スパリングをするというような感じで進めていきます。

原会長 ボクシングと言えば、まず思い浮かぶのが減量ですが、普段何kgぐらいの体重を維持しながら、最終的に何kgぐらいまで、どのくらいの期間で落とすのですか。

真道選手 自分は普段60kgくらい。フライ級のリミットが50.8kgなので、50kgまで落とします。

原会長 50kgまで10kgも落とすのですか。期間はどのくらいで落とすのですか。

真道選手 1ヶ月半ぐらいですね。

原会長 主に食事制限とトレーニングですか。

真道選手 そうですね。朝昼晩で500kcalずつ、1,500kcalしか摂らない。それから1日3,000kcalを消費するトレーニングをして、1週間で1kgずつぐらい落ちていきますが、ある程度までいくと落ちなくなる。後は水分切りに入ります。ボクシングの厳しいところは、減量しながら過酷なトレーニングをすることなんですよ。

原会長 お風呂に入っても身体が水分を吸収し、体重が増えると聞いたことがあります。

真道選手 そうです。毛穴から水分が入ってしまう。この前の試合のときも3日前にお風呂呂屋さんで岩盤浴に4時間いました。でも、100gも落ちず、50gしか落ちませんでした。

出崎 汗が出ない。

真道選手 汗は出ているのですが、でも、シャワーから水分吸収しちゃうんですよ。

原会長 減量しているときに思い浮かぶ食べ物は何でしょうか。

真道選手 お肉です。お肉大好きで。

原会長 闘争心という意味では、肉が嫌いなボクサーはいないのでしょね。

真道選手 そうですね。最後3日で100gしか食べられないのならお肉を食べます。

原会長 タイトルマッチ前日に体重を量りOKとなり、次の日にタイトルマッチを行う。その24時間の間でどれぐらい食べられるのですか。

真道選手 体重クリアすればOKなんですけれど、試合前の当日計量で5、6kg増えていると階級を上げた方が良くと警告されます。

原会長 タイトルマッチまでは増えていいのですか。

真道選手 自分は1日で4kgぐらい増えます。

原会長 ずっと減らし続け、1日で一気に4kg増えるのですね。

真道選手 そうです。

原会長 プロではなく、我われ一般人がダイエットする際に注意する点をアドバイスしていただきたいのですが。

真道選手 確実に言えるのは、1ヶ月に10kg減量してはダメです。身体に悪いです。目安としては1ヶ月に1kgぐらい。そうでないとリバウンドします。

原会長 このようにすれば良いということはありませんか。

真道選手 適度な運動ですね。摂取カロリーより消費すれば痩せていくので、カロリー計算し、1日に自分がどれだけ食べているのか把握し、それ以上消費することで必ず痩せていく。

妥協せずに継続していくことですね。無理をしてはずっと続きません。できる範囲で体

重を減らしていく。どんどん基礎代謝を上げて、食べても太らない身体にしていくことが理想です。

原会長 運動をしながらということですね。

真道選手 身体の筋肉量を増やしていくということですね。

原会長 今まで減量しているときに、思うように減量できずに追い込まれたことはありませんか。

真道選手 それはないですね。

原会長 では、減量しやすい体質ですか。

真道選手 いや、いつも苦しいです。でも、苦しいことに慣れています。また、それが仕事ですし、プロなのでつらいとは言えません。食べたければ身体を動かし汗をかく、食べながら落とさないとトレーニングもできないので、少しずつ地道な作業を毎日続けます。

◆セコンドとの信頼関係

原会長 まさに精神力ですね。ボクサーの場合は、セコンドやトレーナーは切っても切れない相棒と思うのですが、そのような信頼関係とセコンドやトレーナーの指示や指導は絶対ですか。

真道選手 以前、試合中に減点を取られたことがあり、セコンドの「全然気にしないでいい。まだリードしてるから焦らなくていい」という言葉が聞こえた瞬間、減点を取られた不安な気持ちが一気になくなりました。セコンド、トレーナーとの信頼関係がなければ成り立ちませんね。ボクシングは。

原会長 常に一緒にいるのですか。

真道選手 今のトレーナーとは常に一緒ですね。自分の行くところに付いて来てくれますね。サポートしてくれる人たちの信頼関係の基でトレーニングをしています。いくら高い目標や、自分が成し遂げたいことがあっても人間365日、自分だけの気持ちでモチベーションを持ち続けるのはかなり難しい。毎日、頑張りを続けることはしんどい。つくづく自分だけじゃできないと、ボクシングをしていて

思います。

原会長 スポーツは心技体と言いますよね。メンタル的なサポートは、普段どのようにトレーナーはしてくれるのですか。

真道選手 今のトレーナーは自分を裏切らないですね。何が自分であろうと、強くしたい自分と一緒に頑張っていきたいという気持ちを伝えてくれる。自分一人では世界チャンピオンにはなれない。同じ方向を向いて、ボクシング以外のことも相談して、そんな信頼関係があるのでやっていけます。トレーナーのサポートは大きいですね。

原会長 フィジカル的なサポートとメンタル的なサポートは、それぞれ別の方がいいのですか。それとも、やはり絶対的な方が一人のほうが、やりやすいですか。

真道選手 理想は、野球のように専門分野でそれぞれ組めることですね。

◆ケガと接骨院

出崎 ボクサーはケガが多いイメージがあるのですが、試合中に大きなケガはありますか。

真道選手 ケガは多いですね。脱臼する選手も多いです。ケガをしないのがプロといわれますが、ボクシングには付きものですね。子供のころに車にはねられて、足首が機能しない状態で、そのころから接骨院で治療していただいています。

出崎 接骨院へ通われていたとのことですが、どんなところが良いのですか。

真道選手 病院は行きにくいし好きではないですが、接骨院は親しみやすく、治療やいろいろなアドバイスもしていただけるので自分にとっては「かけ込み寺」じゃないですが、なくてはならない存在ですね。

原会長 対戦相手に知られるとまずいですが、今痛めている所はありますか。

真道選手 足首ですね。爆弾をかかえている状態です。

原会長 フットワークにも影響が出てくる状態ですか。

真道選手 靱帯がないので人工靱帯を入れており、足も変形してきています。10km以上走ると熱を持ちかなり腫れるので練習が終わった後は、アイシングし接骨院へ行って治療していただきます。

原会長 それでもランニングはできるものですか。

真道選手 いや、痛いときはスイミングなどに変更しています。踏ん張りが必要なスポーツなので、足との付き合いはずっと続いています。

原会長 普段は、主に接骨院で治療されているとお聞きしたのですが。

真道選手 そうです接骨院ですね。数ヶ月に1度は手術していただいた整形の先生にレントゲンを撮っていただき、アドバイスをもらいながら、治療は接骨院へ通っています。

◆試合後に眠らない

原会長 ボクサーは試合後に眠らないと聞いたことがあるのですが。

真道選手 眠れないのです。

原会長 興奮で眠れないのですか。

真道選手 そうですね。アドレナリンが出すぎると身体が痛すぎて。緊張と練習、減量の疲れなのか、しんどすぎて眠れません。

原会長 腫れを引きやすくするために寝ないとも聞いたことがあります。

真道選手 寝たら腫れやすいとも聞きますが、寝付けません。あと、負けたときほど眠れませんね。試合の2日前が一番眠れません。究極にお腹が空くと眠るエネルギーもないのでしょうか。

原会長 そうですねレベルは違いますが、私も一食抜いただけで眠れませんね。映画や画像などでボクサーの減量やトレーニングは大変と分かるのですが、今、こうして究極の話をしていただくと本当に極限まで追い込んでいくのですね。

真道選手 まず自分に勝つことですね。人間、

食べ物ではなくて水分を切ることがどれだけつらいことか。いろんなことを勉強させていただき成長させていただきました。何もかもが当たり前ではない。ボクシングを始めて食べ物の好き嫌いがなくなりました。

今、何もかもが豊かな時代になって、本来あるべき姿を見失っていたんですね。今は、たとえ一滴の水が舌に付くだけでも感動します。

◆二足の草鞋

原会長 なかなか体験できないことですね。365日ボクシングだけされている人もいると思うのですが、普段、ライフワークの中での仕事を話していただけですか。

真道選手 スポンサーがいてボクシングだけの時期もありましたが、最近障害を持っている子供たちにスポーツの指導をしています。今日も何人か体験に来てくれました。みんなには二足の草鞋と言われるのですが、自分ではそんな感覚はなくて、女子ボクシングだけでは食べていけないのです。



世界チャンピオンがアルバイトしてたんじゃ、やっぱり夢がないと思いました。

なので、自分で何かしていこうと思い、今の仕事を選んだんです。自分にとってすごく

プラスで、原点を見せられるという感じですね。無邪気な、特に障害を持っている子供たちの前では、世界チャンピオンである前に一人のただの人間なんですよね。我に返るといふか、子供って特に素直なのでこの人嫌って思ったら、すぐに嫌ってなりますし、子供たちと向き合う中で「あっ、もっと自分、練習頑張らなあかん」といろんな気持ちにさせられます。ボクシング漬けだったころより充実しているし、練習にも集中できる。疲労感はあるかもしれないですが、メンタル的なサポートになっていますし、自分にとってはそれがあっての自分かなと思います。

原会長 男性とスパーリングするケースはないのですね。

真道選手 いや、自分の相手は常に男性です。女子は一切ないです。女子は相手になる選手がいないです。

原会長 軽すぎて弱すぎてですか。

真道選手 階級的な問題もありますけど、日本では自分が一番強いと思っていますし、男子のA級のランカーとスパーリングさせていただいています。

原会長 強い相手としないとなんの意味もないですからね。練習ですから。

真道選手 はい、そうですね。

◆今後の試合

原会長 次の試合のことをお聞きして大丈夫ですか。これから迎える試合のスケジュールなど、お話しただければ。

真道選手 次はランキング1位との指名試合で、アレリー・ムシーニョというメキシコで有名なマリアナ・ファレス級のすごく人気のある選手とメキシコで戦います。

原会長 メキシコで、これはまた完全アウェイですね。

真道選手 完全アウェイです。倒さなければベルトは守れないかもしれないですね。

原会長 そうですか。外国で試合をされるケースは向こうの興行主ですか。

真道選手 そうですね。今回、いろいろな問題があり入札期限も切ってしまったので、日本ではできなくて敵地なんですけど、自分はそれでいいんです。メキシコはボクシングの名地ですし、自分の中で守りというのはないですよ、人生においても。世界チャンピオンであり続けたいという思いもありませんし、ベルト以上に大事なものがあると思っているので、とにかく自分より強いとされる相手と戦いたい。その相手に勝ってこそ価値があるし、やっぱり必死でトレーニングをして、自分以上に強い本物の選手と戦って勝つから意味があると思う。その試合が終わったら、ドイツのスージーというWBAの世界チャンピオンからオファーをいただいているので、自分はぜひドイツに行って戦いたいと思います。

原会長 ということは、統一戦ですか。

真道選手 はい、この次は統一戦をと自分の中で思っていますし、新しいジムの会長さんに自分の気持ちを伝えて「お前の思いどおりにすればいい」と言ってもらったので、自分の中で防衛とかという気持ちはなくて、攻めに転じて、はい…。

原会長 男子もメキシコは非常に強いですが、女子のボクサーもやはりメキシコは強いのですか。

真道選手 はい、強いです。

原会長 敵地での防衛戦をしっかりとKOで勝っていただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

第23回日本柔道整復接骨医学会学術大会

「みる」(視・観・診・看)を 大会テーマに



第23回日本柔道整復接骨医学会（以下、接骨医学会）の学術大会が平成26年11月29（土）・30（日）の両日、大田区産業プラザPiOで盛大に開催され、全国から医師、柔道整復師、学生、一般、関係者ら延べ2,542人が参加し8会場が埋め尽くされた。

今大会は、『みる』(視・観・診・看)を大会メインテーマに掲げ、大会会長講演と教育研修セミナーが一般公開された。この一般公開講演をはじめ、特別講演、シンポジウム、各セミナー、フォーラム、インターナショナルセッション、一般発表、ポスター発表など総演題数は260題にのぼり参加者は熱心に学んだ。大会会長講演では会場が溢れんばかりの盛況ぶりで、特に実践スポーツ医科学セミナーや口頭発表のスポーツ外傷の人気の高かった。

主な講演とその要旨

大会会長講演（公開講座）

医療者に求められる4つの「みる」

公開講座として行われた大会会長講演は、帝京平成大学学長の沖永寛子先生が『内科医の立場から「みる」(視・観・診・看)を考える』と題して講演された。

内科医である先生は、本大会のテーマである「みる」について、受診者を観て(観察して)情報を得る「視診」は、診察・診断の第一歩、と述べ先生が専門としている内科、特に内分泌代謝領域の疾患を中心に、話された。



「視診」が病名診断に結びつく

内分泌疾患は「視診」が病名診断に結びつくものが多数あると述べ、その例として柔道整復師の教科書にも記載のある、下垂体性巨人症、先端巨大症、バセドウ病、その他の甲状腺疾患、クッシング症候群、アジソン病、脂質代謝異常症などをスライド写真で示しながら解説された。

内科全般に範囲を広げて考えると、柔道整復師が扱う疾患と関連性のある重要な「視診」所見として「紫斑、内出血、出血傾向」が挙げられる。例えば「捻挫」の患者にみられる内



▲座長を務める接骨医学会 櫻井会長

出血の状態は、軟部組織損傷の程度を推定する指標の一つといえるが、外傷以外の内臓疾患や服用薬が内出血の程度に影響している場合も考慮に入れる必要がある、と述べ血液凝固系の概略と、それに影響を与える病気や薬について説明された。

4つの「みる」

先生は4つの「みる」について次のように話された。

- ◇「視る」「とめる+見」まっすぐに目を向けてみる。視診は紀元前5世紀の医学の祖であるヒポクラテスの時代から中心的に行われていた。臨床観察は重要であり基本である。
- ◇「観る」「めぐらす+見」「観察」「観光」「見物」として見る。仏教においては真理を観察する。医療現場においては、さまざまな状況を想定しながら観察し診断に導く。
- ◇「診る」「言葉+調べる」言葉で尋ねて調べる。病気の様子をみて調べる。これまでの視診、観察とともに、言葉で尋ねて調べる。現代においては検査を行い、更に調べ、診断まで導く。
- ◇「看る」「手+見」気に掛かる、世話をする。「看護」「看病」という意味で用いる。
care 気に掛ける・世話をする。
「ケア」とは「気に掛ける」・「世話をすること」で、「看る」の概念に相当する。

患者さんの全体を「看る」

ケアの観点について、神経障害や血流障害を合併する糖尿病患者を例に挙げ、足部病変は悪化しやすいため「フットケア」が重要。靴擦れ、巻爪、水虫など、ありふれた足の病変に日常的に気を配るよう患者自身に指導し、外来診療では足部の視診を行い、病変の予防と早期発見、早期治療に努めることが大事である。また「がんの緩和ケア」について、患者さんの身体的苦痛と精神的苦痛を取り除くことを第一に考えた



ケアで、患者さんのQOL（どれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出しているか）とチームで取り組むことを最も重要視していると説明した。

今までの医療では、治すことに重点を置いていたが、今はケアということに重点を置き、患者さんの病気だけではなく患者さんの全体を「看る」世話をすることが医療者に求められている。患者さんをこの4つの「みる」でみるのが今後のあるべき医療の姿勢であると、締めくくった。

特別講演1（公開講座）

「高齢者の急性腰背部痛に対する有効な体幹ギプスの巻き方」



医療法人社団宏友会 栗原整形外科院長の栗原友介先生は、最近増えている脊椎圧迫骨折について講演された。まず治療法の選択には、手術療法と保存療法とがあり手術療法は種々

あるが、保存療法についてはどの方法が有効であるか検討され、先生が実際治療されている方法を分かりやすくスライドで説明された。

診断について

単純レントゲン像にて明らかな圧懷を認めないものや、陳旧病変との鑑別が困難なものでも高齢者で伊丹指数1度以上の骨粗鬆症があり、起床時動作で激しい痛みを伴うものは、初検時に新鮮圧迫骨折と診断した。

このエビデンスとなるものは労災病院での統計で、体動困難となり入院を必要とした50歳以上の患者78例中、単純X線検査、MRI、骨シンチグラフィなどの画像検査を行い脊椎圧迫骨折と診断されたものは74例（95%）であり、脊椎圧迫骨折と診断された74例中35例（47.3%）は単純X線像では骨折と判断できなかったとの結果からである。このことから逆に推測すると、50歳以上で強い腰背部痛があればこの

検査をやらなくても圧迫骨折と診断しても大まかに95%が脊椎圧迫骨折と診断できる。

問診が重要「画像検査に頼らず臨床所見を優先」

我われ開業医や接骨院には患者さんは歩いて来院されるため、問診で、必ず起床動作の痛みを聞くことが大事となる。痛みが激しくても一回立ち上がると歩ける症状は経験されていると思うが、起床時のつらさについて聞くと「すごく痛い」「全く起き上がれない」との言葉を聞くことができる。これをしっかりと聞いて判断することが大事であると強調された。骨粗鬆症が疑わしい高齢者で、起床動作での激しい腰背部痛があれば、これだけで骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折と診断し、画像よりも臨床症状を優先した診断の見解を示された。

次に実際のプラスチックギプス作成手順をビデオにて説明された。このギプスは体型（ウエストのくびれ）によく適合させ、特に工夫としたところは「前開き」とすることで、この体幹ギプスの速やかな装着により高い疼痛緩和効果、圧潰進行抑制ができることを示された。

会場からの質問も大変多く、先生は脊椎圧迫骨折だけでなく全ての腰痛に対して有効であることの見解を示された。

また、このような症状は今後増えてくることは間違いないことを踏まえ、講演に入る前、柔道整復師が体幹を取り扱うに当たり肋骨骨折は療養費に組み込まれているが、体幹そのものが認められていない我われの問題点を語られた。それは、1、柔道整復師が取り扱ってよいか。2、療養費は算定できるかの2点で日整にも厚労省と折衝して検討していただきたいことも付け加え、これからはこのような症状の患者さんが増えてくると、柔道整復師も扱わざるを負えなくなるため柔道整復師も脊椎圧迫骨折を扱えるようになることを望んで「柔道整復師の手に



骨折治療を取り戻していただきたい」とありがたいお言葉で結ばれた。

特別講演2（公開講座）

「重症外傷診療の進歩と課題」



帝京大学医学部救急医学講座主任教授の坂本哲也先生は、一般の診療所、その後の機能回復のため接骨院で治療される方さまざまであるが、その外傷の中で生命の危険に及ぶ重

症外傷が我が国でどのように治療が行われているかについて救急医療の専門的なことを述べられた。

人口動態統計によると、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患・肺炎・老衰・不慮の事故・自殺、この中で若年者が占める割合が多いことがポイントとなり、高齢者になって寿命を全うして亡くなるのではなく、まだまだ若いこれからの人が不慮の事故で亡くなるケースが多い。また、整形外科領域の外傷では交通事故はだんだん減少傾向にあるが、高齢者における転倒・墜落は徐々に増えていて外傷死亡原因と損傷部位に触れ、外傷死亡交通事故34%、転倒・墜落30%その他15%、自殺16%、その他1%。損傷部位は、頭部49%、頸部5%、胸部7%、上肢1%、下肢8%、他部位14%、不明4%。交通事故、転倒・転落が多いため頭部外傷が半分を占めていることや入院患者と外来治療症病名などをスライドで示した。

また、救急車の搬送に触れ特に交通事故の患者は重症者が多いかというところでもなく地域によって違いはあるが、2人に1人は歩いて帰れて、8割の人が入院を必要としない。では、なぜケガをしていなくても救急車で運ばれる患者がいるかというところ、自賠責保険を考えるとすぐ分かる。どんなに軽くても救急車で運ばれた方が安心で、後になって自分で病院に行き手遅れだったら困る。また、現場で110番して警察官が到着したら警察官はちょっとでも痛いところがあれば救急車を呼んで診断書をもってきてくださいと伝える。自分でもらってきても法



的には何も問題ないが、警察官の処理上救急車で運ばれた患者さんの診断書は証明が付くから警察官は好む。決してケガをしていないわけではないが、医学的に必要のないものでも賠償問題とか警察官が進めることでこうした搬送は多くなる。我われ自賠責保険を取り扱うに当たり、施術においても注意が必要であるのではと感じた。

防げる外傷死

3人に1人、5人に2人は「もっと早く手術ができれば」「もっと早く救命救急センターに運ばれたら」「着いた先の病院できちんと手術ができていたら」ということが分かり大規模なセンターと小さな病院ではマンパワーに差がある。このため「外傷に対する病院前医療の標準化」「アンダートリアージを回避するためのオーバートリアージを容認した搬送基準」「医師に対する標準化した外傷診療教育」等の提言の中の外傷診療の標準化で、JPTECガイドブックは日本の救急隊員、救急救命士が可能な処置についてJPTECの研修コースを紹介された。医師に対しては、DSTCコースがあり外傷外科手術に対する経験不足を補うトレーニングコース、ブタを用いた血管縫合、血圧をコントロールするための手術手技の習得やアプローチ方法などを学ぶ3日間コースを日本にも導入しことなどもアピールされた。

最後に座長からの質問で先生は、JPTECの資格は看護師・放射線技師いわゆる医療職で外傷に関わる方たちは受講でき、現場に当たるといことでなく柔道整復師として大事なのは災害時のとき救護所でのトリアージのときに役に

立つのではないかと考えていただければと、受講を即された。

シンポジウム

それぞれの立場から「みる」を探る



標記のテーマで行われたシンポジウムは柔道整復師の資格以外に理学療法士、鍼灸師、アスレティックトレーナー（以下、AT）、ケアマネジャーなどの各種資格を重複所有する

それぞれの立場の先生が講師となって行われた。

はじめに座長を務めた、帝京平成大学地域医療学部の安田秀喜先生は、自分が所有する資格から柔道整復師の業務を再検証していただき、医療人としての基礎教育・臨床教育や臨床実習をいかに行うか、また今後に必要な教育、臨床経験の伝達法、重複資格取得の意義などをこのシンポジウムで討論していただきたい、と述べた。

理学療法士の立場から

柔道整復師業務の「みる」を探る

公益社団法人東京都柔道整復師会の辰野正和先生は、理学療法士の立場から、次のように理学療法士と柔道整復師の違いを説明した。

	理学療法士	柔道整復師
対象者	障害者・障害発生が予測される者	外傷によるケガをした者
目的	完全・不完全機能回復、残存機能の引き出し、疼痛軽減	完全機能回復、疼痛軽減
診断	不可（医師の指示書が必要）	可（骨折・脱臼は医師の同意が必要）
対象疾患	整形外科疾患、中枢神経疾患、呼吸器系疾患、心疾患、内科的疾患、障害予防	運動器系外傷（スポーツ外傷）（骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷） 外傷予防
業務上	理学療法	柔整施術（整復・固定）

高齢者社会に突入した現在、疾患を重複しているケースはまれではない。本来の単純な骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷を想定すると同時に、予想される内科疾患などの重複または障害



者の外傷などを想定し、伝承医療をしっかりと継承しつつ、独学・他業界との連携を深め現時代に沿った知識、技術の向上をすることが大切。このことは、柔道整復師の業務範囲の拡大はもちろんのこと、業界の発展に繋がると考える、と述べた。最後に三角巾の応用した固定で首の痛くならない、固定力のある方法をスライドに示し薦められた。

鍼灸師の立場から
柔道整復師業務の「みる」を探る



帝京科学大学医療科学部東京柔道整復学科准教授の二神弘子先生は、柔道整復、鍼灸はすぐれた伝統医学であり、日本における補完・代替医療の中心的な存在であるといっ

てよいと考える。近年、世界的な高まりをみせる総合医療の重要な役割を担うことが期待される、とはじめに述べ、鍼灸師免許を持つ柔道整復師として主に教育に関わる立場から平素感じていることを述べられた。

治療技術の面で、柔道整復と鍼灸は相性が良い。外傷を中心とする柔道整復と、その他の範囲を施術することのできる鍼灸技術が組めば、より広い範囲を「診る」ことができる。

患者さんを全人的に「診る」鍼灸の診断法を柔道整復の教育に取り入れることで、より豊かな医療従事者の育成につながることが期待されるのではないかとということで、全人的な鍼灸の診察技術を柔道整復にも取り入れたい。

まだまだ柔道整復の認知度は低い。国内外の多くの人々が柔道整復を知ることによって今までの技術の検証が進み「診る」の精度が上がることを期待されるので、日本の優れた伝統医学である柔道整復の技術を世界に発信したい。取り組みとして効果の科学的検証を進め、国内外にコマーシャルをすることが重要、と締めくくった。

ATの立場から 柔道整復師業務の「みる」を探る



東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科准教授の小山浩司先生は、ATの立場から話された。ATの役割は、スポーツドクターおよびコーチとの緊密な連携・協力のもとに、競技者の競技活動を支えること。

ATの特徴として他の資格を同時に所有する方が多く、JASA-ATマスタープランの報告（平成20年9月）では、約15%（78/505）が柔道整復師の資格を有していたと報告している。スポーツ現場でATとしてアスリートのサポートをする際、特に試合中に発生する外傷に対しての評価や応急処置の場面で、柔道整復師としての技術が大いに活かされていることを痛感する。AT養成ではスポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導を修得するためにカリキュラムが組まれている。柔道整復師はアスリートの競技復帰を素晴らしい技術をもって導いてきているが、これらのカリキュラムの知識が加わることにより、より良いアスリートのサポートが可能となる。このことは柔道整復師の業務の「みる」に対して、活かせる技術の一つだと考える、と述べられた。

ケアマネジャーの立場から
柔道整復師業務の「みる」を探る



公益社団法人富山県柔道整復師会の酒井重数先生は、福祉分野、介護分野の視点から柔道整復業界を眺め、高齢化社会における柔道整復師の役割、社会資源について話された。

日常生活における自由な自己決定の積み重ねが「尊厳ある生活」の基本である。だからこそ、多くの方は自宅での生活・在宅での医療・介護を望む。しかし、現在の地域医療福祉環境では、病気や介護が必要になったときに、在宅生活を



継続することは困難である。

柔道整復師が提供する地域医療サービスは、医療や介護が必要になっても、在宅生活を送りたいという高齢者の願いに応えること。病院への入院、入所は最後の選択肢と考え、最期まで在宅生活を継続できる環境を提示することである。

その実現のためにはケアマネジャーの視点を持つ柔道整復師が、地域包括ケアに組み込まれた「接骨院・整骨院」を活用することが最適であり、その役割を柔道整復師自らが理解し啓発する必要がある。

超高齢化社会に対応できる地域医療を再構成するためには、歴史的背景、環境、知識、技術において柔道整復師が適任である。地域医療の専門家に加え、ケアマネジャーの視点を持った柔道整復師による「接骨院・整骨院」の活用は、地域社会に貢献でき、感謝される業務を遂行できる可能性を大いに秘めている。

地域包括ケアに、柔道整復師業界が参画できるよう全国の柔道整復師の先生方と共に前進して参りたい、と熱く訴えた。

■教育研修セミナー

死者が急増している危険ドラッグ



公開講座として行われた教育研修セミナーは、昭和大学薬学部生体制御機能薬学講座（毒物学部門）教授の沼澤聡先生が「危ない！知っておきたい危険ドラッグ」と題

して講演された。

先生は、本日の講演で危険ドラッグは本当に危ないということを知っていただきたいとはじめに述べ次のように説明された。

危険ドラッグとは

我が国では危険ドラッグの乱用が急速に広まり、乱用者自身の健康被害に止まらず、交通事故や傷害事件など一般市民を巻き込む深刻な社会問題となっている。

危険ドラッグ(デザイナードラッグ)とは、規制を免がれるために「デザイン」された類似の薬物で1970年代後半からフェンタニルの類似薬物として初めて乱用目的に使用、ヘロイン様の中毒死がアメリカで多発し、1979年から1980年に17例の死亡事故があった。ヘロイン中毒死に症状は類似するがヘロイン・モルヒネは検出されず麻薬取締局 (DEA) の検査によりメチルフェンタニルが同定とされた。フェンタニルの類似体の進化がその後も他薬の類似体として続々と出現した。

規制するも乱用者増加

現在主に乱用されている危険ドラッグは、ハーブなどと称する乾燥植物片に薬物を加えた製品、賦形剤を加えた粉末状の製品、着色水溶液の製品の3形態に分けられる。これらの製品は、販売時に人体に適用しないように謳っているものの、実際には吸引や摂取を前提として取引されている。国は乱用される薬物の基本化学構造を指定して類似物質を一括規制する「包括規制」を導入、更に、規制対象となっていなかった「所持」「使用」を規制することにより、販売者だけでなく乱用者の規制逃れの根絶を図った。これにより、店頭販売は激減したが、乱用者は増加しており売買が見えないところで行われている状況が危惧される。

我が国の合法・脱法・違法ドラッグの変遷は、第1期（1998年～2006年）ケミカルドラッグで



始まり、第2期（2009年～現在）は植物片にケミカルドラッグを混入した「ハーブ」が登場し違法ドラッグの流通形態は、ハーブ：精神抑制作用と幻覚作用を持つ大麻成分と類似する物質（合成カンナビノイド）、アロマリキッド：幻覚性物質（トリフタミン系）、パウダー：覚せい剤に類似する興奮性物質（カチノン系）になった。

このような異なる作用を持つ化合物ブレンドがどのような精神作用を引き起こすかは全く分からない。また、危険ドラッグ成分はしばしば多くの合成中間体等の不純物を含んでおり、予期せぬ健康被害が危惧される。

死者が9ヶ月で74人

危険ドラッグによる救急搬送された患者は（H21年～H26年・6月）ワースト1位の東京が1130回、ワースト2位の大阪府が536回と異常な多さである。平成25年まで全国での死亡例は1年間で数名だったが、平成26年は1～9月で74人（警察庁調べ）と急激に増えている。ハートショットと呼ばれている製品においては1ヶ月で10人の死者が出ており健康被害は深刻である。また、先生は危険ドラッグの依存症から抜けられないその怖さを新聞記事で示し説明された。

実践スポーツ医科学セミナー

サッカーにおけるスポーツ障害 —特に膝関節について—



JIN整形外科スポーツクリニックの仁賀定雄先生は、浦和レッドダイヤモンズメディカルディレクターとして長年プロサッカー選手の診断・治療・復帰に携わってきた経験談を語った。その中で全ての競技プロ選手が、試合における勝敗や出場の有無が自分の生活に直結する。特にサッカー選手の診断、治療、復帰は安全性を確保しながらスピードが要求されること。可能性を限界まで追求するプロ選手の治療の特殊性を一般的治療法に還元できるノウハウを掴むことができるとして、一般的スポー

ツ選手にも役立つ診断治療について説明された。

まず、浦和レッドのクラブハウスは芝生のないイメージのグラウンドで、海外に比べるととても小さなクラブである。その中で、トレーニングルームには鍼灸マッサージ師の資格者がフィジカルなどを担当する。また、医者といえども個人で医薬品を購入することはできないので病院からメス・医薬品等を持ち出してきたが、2003年に保健所の認可を受け自由診療の診療所を設けることができたため幅広い診療ができることは非常に良いことであると所属先のアピールを述べた。

何故、痛みが発生するか

運動選手では、ケガというものはスポーツをして生じたことで、リビングでテレビを観ているだけで発生することはなく体の使い方の結果生じる機能不全で起きると説明し、もともとの原因を治しても、なおかつどこから発生するものなのかを治さなければならない。これは全ての疾患について役立つものとして、スライドでその運動のやり方を示し、結果機能不全に至った経過を遡って行けば診断・治療・予防ができることを述べた。

現場で求められること

医療機関で治療して時間と共に治り復帰していくのは当たり前のことであるが、現場においては「どれだけ早く」「どれだけ確実に再発することなく」「元のレベルに戻すか」が問われるため、医師とトレーナーの協力が不可欠である。トレーナーにも病院に来てもらい、医師もトレーナーに付きお互いの仕事を見て、共通の理解と表現法を得ることが必要である。また、プロチームにおける障害管理についてもスライドで示した。

前十字靭帯損傷

前十字靭帯を断裂した人は、同じ膝を5%の人が再断裂を起こし、逆膝は10%の人が再断裂を起こすと述べ、断裂の瞬間のビデオを流して説明された。

前十字靭帯は切れやすい競技と切れやすいタイプと男女差も関係する。スポーツ選手であれば手術後メディカルリハビリテーションで4週間までADL復帰を目指し、アスレチックリハビリテーションによりスポーツ復帰をする。この期間は競技種目別に違いがあることをスライ



ドで説明した。

また、前十字靭帯が切れたままプレーをしていた中高年者のX-P写真を示された。手術をして膝崩れを予防し変形を防ぐということは一般的に理解できているが、何も困っていない人が、年老いてきたら歩けなくなったり痛くなったりしませんか、変形しませんかと質問する場合があります。それは大きな間違いで、手術というものは靭帯を損傷するより大きなダメージを受けるため確実に早く変形を起こす。前十字靭帯はどん

なに筋肉を付けても捻りで断裂する。

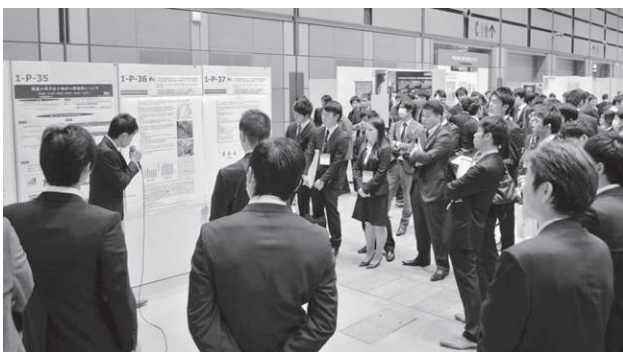
後十字靭帯損傷

ダッシュボード損傷膝下を強打することで断裂する。どういうときに機能不全が生じてどういうときに困るのか、靭帯が切れているから手術をする、切れているから治さなくてはいけいではなく、患者さんが困っていることを治療する。

後十字靭帯は、空中で非荷重のとき屈曲をするとぐらつく。荷重時には何も問題がないが、階段で着地して引き上げるときが困る。また、先生の作製したプレースの裏には厚さ2cmほどのパッドが装着してあり、これを装着すると手術をしなくてもしっかりと断端が再生されたことをスライドで示した。この症例報告は、厚さ2cmのパッドを断端部に当て圧迫固定する柔整独自の工夫を考えて真似をすればそれなりの結果が出るのではないかと感じ、我われ日常施術でも膝関節損傷は多いため、明日から活かせる大変興味深い講演であった。



▲大田区産業プラザPiO



▲ポスター発表会場



▲一般発表



平成26年11月23日（日・祝）、標記大会が講道館大道場において10業種の監督・コーチ・選手ら総勢252名が参加し、盛大に開催されました。

この大会は、企業の枠を越え柔道を通して互いの交流と親睦を深めることを目的に繊維、鉄鋼、石炭といった当時の基幹産業が中心となり、昭和28年に発足し今日に至っています。

主催は、全日本実業柔道連盟、主管が東日本実業柔道連盟、後援として（公財）全日本柔道連盟・（公財）講道館および朝日新聞社などが名前を連ねています。

試合方法は、10部門の業種別チーム（1チーム12名）をA・Bの2ブロックに分けてリーグ戦を行い、各ブロックの1位同士が対戦し優勝・準優勝を決し、2位同士が対戦し3位を決定するものです。

我が「医療接骨」チームは、11連覇中の「繊維」チームをはじめ、「JR」「エネルギー」「建設・電機・機械」の強豪ひしめくAブロックで戦うことになりました。

初戦は、「エネルギー」チームを相手に接戦の末6勝6敗となり、試合内容で辛くも勝利。2試合目は「建設・電機・機械」チームに5勝4敗3分と勝ち越し、続く3試合目は「JR」チームに8勝3敗1分で快勝しました。最後の「繊維」チームには残念ながら、1勝9敗2分で敗れてしまいました。結果、Aブロック3勝1負の成績で2位となり、昨年同様3位決定戦へ駒を進めました。いよいよ3位入賞をかけBブロ

ック2位の「鉄鋼」チームとの試合に臨みましたが、奮闘むなしく2勝9敗1分で敗れました。

決勝戦は、Aブロック1位の「繊維」チーム対Bブロック1位の「食品・印刷・サービス」チームで行われ、6対3で「食品・印刷・サービス」チームが勝利し「繊維」チームの12連覇を阻止しました。

試合に先立ち、神奈川県坂本周作会員に功労賞（選手として8回以上出場）が贈られました。全国の強者が出場する本大会において8年の長きにわたり活躍されている坂本会員には心より敬意を表します。試合後の表彰式では、京都府のガンバートル・フデレムンフ会員が優秀選手として表彰されました。次回に向けて「医療接骨」チームの更なる飛躍を期待します。

「医療接骨」チームの選手・スタッフおよび戦績は次のとおりです。

医療接骨

選手別	段位	氏名	所属
監督		和田 秀樹	日本柔道整復師会
助監督		高橋 政夫	日本柔道整復師会
コーチ		徳安 秀正	東京有明医療大学
コーチ		湊谷 知幹	日本柔道整復師会
選手	6	岡本 雅信	岡本接骨院
〃	5	坂本 周作	整骨院やわらぎたまプラザ院
〃	4	軽部 友和	整骨院やわらぎ厚木院
〃	5	岡本 栄治	おかもと接骨院
〃	4	和田 雅史	和田接骨院
〃	5	杉本 秀人	世田谷中央整骨院
〃	3	大村 昌弘	手あてん下井草
〃	4	横尾 大悟	工藤総合接骨院
〃	5	城宝 忠信	城宝接骨院
〃	5	田中 寿人	田中接骨院
〃	5	奥川 賢一	くじら接骨院
〃	4	吉田 卓実	よしだ接骨院
〃	2	ガンバートル・フデレムフ	京都医健専門学校附属接骨院
〃	3	三浦 広光	日本柔道整復専門学校
〃	2	村本 良太	日本柔道整復専門学校
〃	2	佐久間与裕	日本柔道整復専門学校
〃	2	淵上 幹斗	福岡医健専門学校
〃	3	廣重 雄己	福岡医健専門学校
〃	2	原 進太郎	臨床福祉専門学校
〃	2	八木 克敏	京都医健専門学校
〃	3	瀧花 大志	京都医健専門学校

決勝戦

	Aブロック 1位	Bブロック 1位
部門/順位	繊維部門 3	食品・印刷・サービス部門 ⑥

3位決定戦

	Aブロック 2位	Bブロック 2位
部門/順位	医療接骨部門 2	鉄鋼部門 ⑨



▲優秀選手 ガンバートル・フデレムフ



▲功労表彰(8回出場)坂本周作

リーグ戦

Aブロック	繊維	JR	エネルギー	医療接骨	建設・電気・機械	勝敗	順位
繊維		⑪	⑥	⑨	⑩	4勝0敗	1
JR	1		⑥	3	⑤	2勝2敗	3
エネルギー	2	5		6	5	0勝4敗	5
医療接骨	1	⑧	⑥		⑤	3勝1敗	2
建設・電気・機械	2	5	⑦	4		1勝3敗	4



柔道グランドスラム東京大会2014 トレーナー活動報告

国際部

日 時：平成26年12月4日(木)～7日(日)
場 所：東京体育館
派遣者：金井英樹・田澤裕二(国際部)
田澤俊二(神奈川県柔道整復師会)
浪尾敬一(香川県柔道整復師会)

国内で行われる年内最後の国際大会のグランドスラム東京大会において、モンゴル国、韓国の柔道選手の救護、およびコンディショニングを行った。両国ともに世界で活躍する選手が来日し、今回も上位獲得の兆しを感じた。試合前日から両国の選手を治療したが、世界各地を駆け巡り連戦、連戦による負傷および関節や筋肉などの不具合が多数の選手に見られ、まさに満身創痍での参加であった。

今年はモンゴル国から選手の体組成を調べたいとの要望があり、伊藤超短波のご協力を得て体組成計(in-body)を宿舎に設置しボディーチェックも行った。簡便かつ詳細なデータを調べることができ、出場するほとんどの選手が計測を行い、自らのデータに関心を持っていた。

体重もひと目で分かるため、計量前のチェックにも役立ったようだ。また携帯用治療機器も2台お借りすることができ、試合中、試合後も効率よくボディーケアができた。

モンゴル国、韓国ともにテーピングの普及により多用する選手が多かったが、テクニックも着々と身に付け自分自身でもうまく巻ける選手が少なくなかった。テーピングに限らず我われが選手のケアをしていると、帯同しているコーチや選手が関心を持ち、我われの手技やストレッチの方法など動画で撮影したりノートにメモ書きをしていた。試合前、試合後のコンディショニングの仕方は選手のニーズが優先されるため、必ずしも日本でのルーティーンワークが適用されないこともあるが、最高のパフォーマンスが演出されるように良いものは伝えていければと考える。今後も両国をサポートしていく予定だが、スポーツ現場を通して我われが日常的に使っている技術が海外の選手に少しでも伝えることができれば、この活動も意義があることだと思う。



▲東京体育館



▲試合後のケア

チンギスハーンの国

国際部 本間 琢英

地方への移動

モンゴルでは地方への移動手段は主に車である。国内線エアーもあるが、車の方が安全だといわれる。列車は路線が少なく、そしてとても遅い。車に簡単に抜かれている。政府高官や大使館員も移動するときは主に車を使うらしい。この夏、再講習会のため、ホブド県を訪れた。ホブドはモンゴルの西端、辺境の地だ。首都から約1,500km、半分以上はまだ道路の整備がされていない。今回は、NHKワールドの取材もあり、ランドクルーザー3台で出発したが、到着までに3台合計で12回パンクした。そのくらいまだ道は良くない。

ドライバーはいつもプロを雇っている。チーフ格の「ミャンバーさん」は元教師で英語を話す。最近買い替えたばかりの新しいランドクルーザーを褒めると、親指を立て照れくさそうに笑った。モンゴル人には珍しくシャイで温厚な性格だが、強引に割り込んでくる車などには、窓を開け、大声で激しく抗議する、頼もしいチーフだ。

移動の楽しみの一つは、風景の変化だ。同じ場所でも季節により全く別の顔を見せる。夏は草原がきれいで、家畜たちも生き生きしていて一番いい季節だが、私は冬が一番好き

だ。マイナス30～40度でも人びとは平然と日々の営みをしている。馬も白い息を吐きながら雪の草原を疾走している。私はそこに驚きと強い生命力を感じる。

夏に渡るときはボンネットまで水がかぶるような水深の川も、冬場は完全に凍り付き、その上を100km以上のスピードで疾走する。下からバリバリという氷の割れる音がするが、運転手は「大丈夫」と言ってさらにスピードを上げる。休憩で外に出ると、切るような寒気が体と心をシャキッとさせてくれる。自分の吐く息が凍りキラキラと輝きながら飛んでいく。「セルフダイヤモンドダスト」ともいうべきか。あっという間に鼻の中が凍り、まつ毛がくっつく。ダウンジャケットの縫目から寒気が入り、その縫い目に沿って皮膚が赤くなる。日本では体験できないこれらのことが私には非常に新鮮でとても楽しい。だから現地の人びとから「本間バクシー（先生）はモンゴル人だね」と言われるのかもしれない。



ソロンゴ（虹）

ホブドへの道中、珍しく雨が降ってきた。雨はモンゴルでは幸運の印だ。そしてモンゴル人は雨が降ることを事前にみごとに言い当てる。どうして分かるのかと聞いてみると、降る前に「雨の匂いがするからだ」と言う。

そしてそれは「とてもいい匂いだ」とも言う。今まではこの感覚は全く分からなかったが、今回少し理解できた気がした。雨が降る前には大抵冷たい風が吹く。その風は雨が降った地域から吹いてくる風だ。雨が少なく乾燥し

た大地が多いモンゴルでは、雨が降ると、雨に叩きつけられた土や草木から湯気か埃か分からないが何か舞い上がっているように見える。その舞い上がったものは土や植物の匂いを含み、そして風に流され、ほかの場所の人たちに「雨の匂い」となって感じられているのではないかと思った。

通り雨が止んだ後、後部座席の一人が叫んだ。「すごい虹だ!!」その声に振り向くと空いっぱいにとてつもなく大きくそしてはっきりした虹ができていた。運転手もこんな立派な虹は珍しいと驚いていた。虹はモンゴル語で「ソロンゴ」これも幸運の印だ。我われの新しいジャージにもソロンゴが描かれている。

両国の「架け橋」の意味だ。車を止め全員大はしゃぎで虹をバックに思い思いの写真を撮った。運転手も大はしゃぎだ。このようなときは日本人もモンゴル人もない、言葉は通じなくても気持ちは十分分り合える。一人ひとりの心を繋ぐ「架け橋」が次から次へと生まれる瞬間だ。



亀甲状土

ホブドはモンゴルでは珍しく、川や湖が多い所だ。夏の時期は特産のスイカが有名で、我われもさまざまな形のスイカを毎日食べた。メロンもあった。甘くてとても美味しい。そして何よりも安い。

中心街から離れると、すぐ深緑の綺麗な草原がある。そして、異様な地表をした「亀甲状土」が続く。亀甲状土は、その名どおり、亀の甲羅のような模様をした地表をいうが、大地に含まれる水分の凍結融解作用によって起こる「周氷河現象」の一つといわれ、日本では南アルプスなどの高山の一部に見られる。しかし、ここは草原で、しかも見渡す限り、1m四方、高さ50cmくらいの小山が規則正しくどこまでも続いている。ここでは車は走れない。馬が唯一の交通手段だ。羊や山羊がこの亀甲状土に生えた草を食べながら歩いている。地表がデコボコしているので、歩きづらそうだが、逆にそのヒョコヒョコ歩く姿が可愛い。

この亀甲状土の中に立つ遊牧民のゲルを訪ねた。羊追いをしていた家長が我われに気付くまで近づいてきた。馬から降りると跛行している。聞くと子供のころに馬から落ちケガをしたそうだ。この亀甲状土では落馬も多くなるだろうと容易に推測される。モンゴルでは下

腿骨骨折が非常に多い。原因は落馬のほかに、馬に直接蹴られることがあるようだ。あの蹄で脛を蹴られたらと想像するだけで恐ろしい。肉体労働で生計を立てる人が多いモンゴルの地方ではケガは非常に大きな問題だ。日本の柔道整復術を早く定着させなければならないと、改めて思うことが地方では特に多い。

ホブドは以前訪れたときより、街が大きくなり、活気を感じた。地方の主要な街でも再度訪れると、以前より発展した所もあれば、逆なケースもある。ウランバートルへの人口移動が止まらないモンゴルにおいて、医療だけではなくほかのさまざまな面でも地方をどのようにしていくかが、現在この国の抱える大きな問題の一つであることを地方に行くと否が応でも考えさせられる。



会務執行状況

(10月～11月)

日 整 関 係

平成26年10月

日付	曜日	会 議 等	出 席 者
2	木	山野医療専門学校 (業界説明会) 部長連絡会議	春、辰
4	土	日本健康医療専門学校 (業界説明会)	新、深
5	日	全国保険部長会議	
7～11	火～土	モンゴル国立医療科学大学記念式典 (モンゴル国)	萩、萩隆、富、本
10	金	広報部会 2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 第1回顧問会議	工
		1964東京オリンピック・パラリンピック 50周年記念祝賀会	工
11	土	学術部会 保険部会 (介護対策課)	
12	日	国際部会 学術・生涯学習講習会	
13	月	日整全国少年柔道大会 日整全国少年柔道形競技会 日整全国柔道大会	
16	木	明治東洋医学院専門学校 (業界説明会)	安、増
		仙台接骨医療専門学校 (業界説明会)	萩、櫻
18～19	土～日	第39回近畿学術大会滋賀大会	工、木、萩、松
21	火	モンゴル指導者日本研修開講式	
22	水	経理部会	
23	木	総務部会	
29	水	第11回国民医療推進協議会総会	工、豊
		常葉大学 (業界説明会)	水、森上
30	木	臨床福祉専門学校 (業界説明会)	橋、深

平成26年11月

日付	曜日	会 議 等	出 席 者
4	火	ミクロネシア連邦独立28周年記念祝賀レセプション	工、三
6	木	部長連絡会議 近畿医療専門学校 (業界説明会)	徳、川
8～9	土～日	第8回大阪学術大会	工、木、萩、松
10	月	履正社医療スポーツ専門学校 (業界説明会)	徳、川
		第1回三大幹部会議	工、豊、原、橋、春
11	火	育英メディカル専門学校 (業界説明会)	大、田
12	水	東京有明医療大学 (業界説明会)	橋、新
14	金	近畿医療専門学校 (業界説明会)	徳、川
15	土	第2回 DJAT 全体会議	
		福島県整骨師会後期研修会 帝京短期大学 (業界説明会)	三 辰、深
15～16	土～日	第49回東海学術大会静岡大会 第4回 JIMTEF 災害医療研修	工、木、萩、豊、松
17	月	日本研修中間報告会 総務理事者会議	
18	火	信州医療福祉専門学校 (業界説明会)	内、高
		専門学校白寿医療学院 (業界説明会)	鈴、岩
19	水	北信越柔整専門学校 (業界説明会)	木、嶋
20	木	理事会	
21	金	甲賀健康医療専門学校 (業界説明会)	仁、田中
		朝日医療専門学校岡山校 (業界説明会)	富岡、山
22	土	日本工学院北海道専門学校 (業界説明会)	萩、加
23	日	全日本柔道形競技大会 全日本産業別柔道大会	工、豊
26	水	第4回コンプライアンス PT	
		首都医校 (業界説明会)	橋、森
27	木	経理部会	
28	金	保険部会 (医療)	
29～30	土～日	第23回日本柔道整復接骨医学会学術大会	工、木、萩、豊

※出席者の名前と役職
を列記します(表中で
は頭文字のみを使用)

工-----工藤日整会長
木-----木山日整副会長
萩-----萩原日整副会長
豊-----豊嶋日整総務部長
三-----三橋日整保険部長
松-----松岡日整学術部長
萩隆-----萩原隆日整国際部長
原-----原日整理事
富-----富永日整理事
本-----本間日整国際部員

加-----加藤北海道副会長
櫻-----櫻田宮城県会長
大-----大藤群馬県会長
田-----田村群馬県専務理事
橋-----橋本東京都副会長
春-----春原東京都理事
森-----森本東京都理事
新-----新井東京都理事
辰-----辰野東京都理事
深-----深井東京都理事
内-----内山長野県会長
高-----高田長野県副会長
嶋-----嶋谷石川県副会長
鈴-----鈴木静岡県副会長
水-----水野静岡県理事
森上-----森上静岡県理事
岩-----岩澤静岡県監事
仁-----仁科滋賀県副会長
田中-----田中滋賀県理事
安-----安田大阪府会長
徳-----徳山大阪府副会長
川-----川口大阪府副会長
増-----増井大阪府副会長
富岡-----富岡岡山県会長
山-----山崎岡山県副会長

周年記念式典の開催日

都道府県	式典名称	開催日・会場
(公社) 石川県柔道整復師会	石川県社団設立40周年式典開催予定	11月29日(日) ホテル金沢

平成26年度 日整主催学術大会

ブロック	担当都道府県	学会名称	講師・演題	開催予定日
関東	(公社) 神奈川県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第37回関東学術大会 神奈川大会	聖マリアンナ医科大学横浜市西部 病院副院長・整形外科部長 笹 益雄先生 演題「手外科領域の外傷と疾患」	3月8日(日)

※学術大会はどなたでもご参加いただけます。

※日整広報はつらつ229号p.20のトーナメント表において、第1会場3回戦 広島対富山の勝ち上がり線の表現が逆になっていました。深くお詫び申し上げます。

日本柔道整復師会のアンチエイジング講座

日本柔道整復師会のアンチエイジング講座がHPでご覧になれます。

平成26年3月28日から、自分らしく人生を仕上げる終活情報サイト「産経デジタル終活WEBソナエ」のアクティブライフのページに「日本柔道整復師会のアンチエイジング講座」の連載が始まりました。約3週間に一度更新されます。ぜひご覧ください。

日整ホームページ (<http://www.shadan-nissei.or.jp/>) にアクセスし、「広報関連」→「アンチエイジング講座」をクリックすることで今まで掲載された記事が表示されご覧いただけます。

主に球技系スポーツにおける 膝前十字靭帯損傷予防トレーニングについて

石川県 濱 亮輔

はじめに

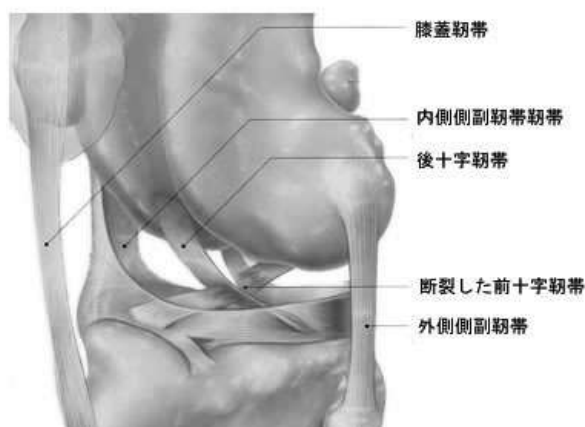
サッカーやバスケットボール、スキーなどの急激な方向転換を伴うスポーツや、ラグビー、アメリカンフットボール、格闘技など、コンタクトスポーツにおいて、膝関節損傷、特に膝前十字靭帯損傷は多発します。特に男性と比較して若年層である女性の競技者に多く見られることが報告されております。

また、膝前十字靭帯完全断裂においては観血的療法（靭帯再腱術）が選択されることが多く、競技復帰までに約8ヶ月から1年間の長期間を要する場合があります。そこで今回、幾つかの中学・高校女子バスケットボール部でのトレーナー活動において導入した膝前十字靭帯損傷を予防するためのトレーニングメニューの中から、プライオメトリックトレーニング（ジャンプトレーニング）を一部ご紹介させていただきます。

目的

球技系スポーツにおいて発生する膝前十字靭帯損傷のほとんどが、誰とも接触することなく受傷する非接触型損傷であります。女性に多発する要因については、X脚や反張膝、靭帯の強度や構造に影響を及ぼす可能性が高い女性ホルモンに要因があるといわれています。また、股関節・膝関節周囲筋における神経筋コントロール機能が低下することも一因として挙げられます。バスケットボール競技中において女性は、ジャンプ着地やカッティング動作においてKnee-in Toe-out（膝が内側を向き、つま先が外側を向く状態）現象を発生させ易く、大臀筋・中臀筋およびハムストリングスの活動量が低下するのに対して、大腿四頭筋が単独で収縮する力が強くなり、靭帯断裂に至るケースが高く想定されます。このような筋活動量の差が、神経筋コントロール機能を低下させる大きな要因と

前十字靭帯断裂



なり、非接触型損傷によって多発する最大のリスクファクターであると考えられています。このことから、正しい下肢動作的アライメントを習得させることを目的に膝前十字靭帯損傷予防トレーニングを取り入れました。

プライオメトリックトレーニング （ジャンプトレーニング）

- ①両脚を前後へ交互に入れ替えるシザースジャンプ
- ②前後方向への両脚着地によるダブルレッグホップ
- ③左右方向への片脚着地によるクロスオーバーホップ

※注意点：着地姿勢は上体をしっかりと起こし、



股関節は十分に屈曲させ、Knee-in Toe-out状態をつくらないようにする。

最後に

近年、膝前十字靭帯損傷は再腱術の確立や後療法の進歩などにより、受傷前とほぼ同等のパフォーマンスレベルでの競技が可能にはなりました。しかしながら、競技復帰までに長期間を要するため、3年に満たない競技生活を送る中学生や高校生にとっては、心身ともに重篤な外傷であることに変わりありません。このトレーニングによって膝前十字靭帯損傷を完全に予防することは難しいですが、日々の練習メニューの中に取り入れて継続することにより、少しでも損傷リスクを減らすことができれば幸いです。



機関誌「日整広報はつらつ」掲載向け 「学術シリーズ」の原稿募集について

日整学術部では、柔道整復師の優れた技術を幅広く国民にも分かりやすく紹介する目的で、機関誌“日整広報はつらつ”とホームページに「学術シリーズ」を掲載しております。

論文形式にとらわれないで、一般の方々にも分かりやすい内容で、皆様が日々の施療で活用され「これは効果がある！」と思われる技術などを下記要項にてご応募ください。

記

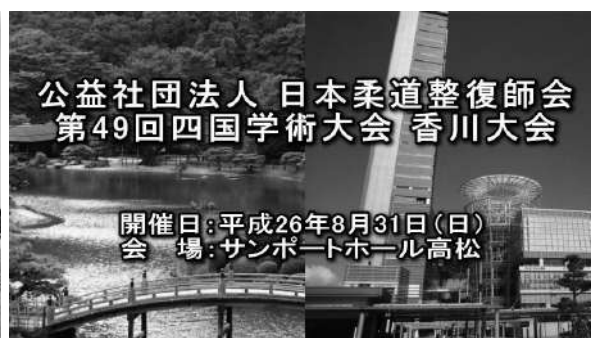
機関誌“日整広報はつらつ”「学術シリーズ」の投稿規程

1. 投稿原稿の内容 日々の施療で活用している有効な施療方法で、早期回復の技術や疼痛の緩和方法など、患者様の訴えや日常的な問題をタイトルにさせていただいて結構です。
(日整広報はつらつ掲載)
 - ・原稿はA4版で横書き、ワードなどで作成する。
 - ・文字数は2,000～2,500字程度。(日整広報はつらつ2ページくらいを限度に)
 - ・スライド(写真)数は5枚以内(ホームページ掲載)
 - ・原稿はA4版で横書き、ワードなどで作成する。
 - ・文字数・スライド(写真)数は制限しません。
2. 投稿資格 公益社団法人日本柔道整復師会会員に限る。
3. 投稿原稿の採択 公益社団法人日本柔道整復師会学術部において決定する。
4. 応募締切 第28回選考 平成27年2月末日
第29回選考 平成27年4月末日
第30回選考 平成27年6月末日
第31回選考 平成27年8月末日
5. 送付方法 原稿およびデータを郵送またはメールにて送信ください。
6. 送付先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会 学術部宛
電話 03-3821-3511 FAX 03-3822-2475
E-Mail Address : gakujutu@shadan-nissei.or.jp
7. 著作権 “日整広報はつらつ”に掲載された著作物の著作権は公益社団法人日本柔道整復師会に帰属する。
8. その他 ご不明な点は日整学術部までお問い合わせください。

公益社団法人日本柔道整復師会 第43回九州学術大会 佐賀大会 第49回四国学術大会 香川大会 会員発表（ハイライト）動画配信

日整学術部では、ホームページ上におきまして全国各ブロック学術大会発表の動画を配信しています。

今回は、平成26年7月21日（月・祝）に唐津シーサイドホテルで開催された九州学術大会佐賀大会と8月31日（日）にサンポートホール高松で開催された四国学術大会香川大会の会員発表を配信いたします。



（動画再生期間 2015年2月1日～2015年3月末）

【動画の見方】

日整ホームページ（<http://www.shadan-nissei.or.jp/>）にアクセスし、の後

学術部→学術大会会員発表動画 または

→第43回九州学術大会 佐賀大会

→第49回四国学術大会 香川大会

をクリックしていただくことでご覧いただけます。

ユーザー名・パスワードは日整事務局（電話 03-3821-3511）にお問い合わせください。

本の紹介

ホントの腰痛対策を知ってみませんか 秘訣は「これだけ体操」と「ストレス対策」

学術部 松岡 保

腰痛は、認知度の高い疾病の一つです。一生のうち一度は経験する腰痛。そのうち「ぎっくり腰」「腰痛症」等原因の分からない非特異的腰痛が85%を占めていることをご存知ですか。最近、ストレスと腰痛の関係も分かってきました。

本書の著者松平浩先生は、整形外科医としての臨床経験と腰痛に関する研究成果に基づく多くの著書、論文を世に出しています。

本書は、松平先生のこのような長年の臨床経験と業績を凝縮し、しかも医学専門的内容になりがちなテーマを分かりやすく、読みやすくまとめられています。

著者は、本書を読むに当たって「腰痛に対する今までのあなたの常識やイメージを一度忘れ去ってほしい」と述べています。それはなぜか。皆さんが頭に思い浮かべる治療や予防対策が意義ある優れたものなら腰痛はきっと減っているはずですが、現実のデータはそうありません。多くの腰痛が病因を突き詰めることが難しいため、治療や予防対策を確立できない現状が続いていることが一因です。そこで、腰痛に対する認識を見直す必要があるのです。松平先生は「21世紀型の捉え方」と称し腰痛の新たな考え方を提唱しています。

本書は、まず「椎間板ヘルニア」等の診断が可能な特異的腰痛の見極めチェック表を示し、診断や治療方法を図や写真で分かりやすく解説しています。

次に、腰痛の多くを占める非特異的腰痛に関し、最近の研究から分かってきたストレスと腰痛の関係を踏まえた腰痛の解釈と予防対策を丁寧に説明しています。

究極の予防対策である認知行動療法も臨床医ならではの視点から解説し、第三世代の認知行動療法にも言及し腰痛対策を理論的、実践的に学べるようになっていきます。

また「どうすれば予防できるか」といった疑問には、椎間板の中にある髄核をキーワードに、これを中心に戻すというシンプルなイメージを思い浮かべながら行う「これだけ体操」、腰痛持ちになってしまった場合の「スペシャル体操」「スペシャル体操番外編」もイラストで紹介されています。

表紙の「スペシャリストが贈る腰痛対策の指南書です！」という名に恥じない専門性と実用性を兼ね備えた内容で、ぜひお勧めしたい1冊です。



著者：松平 浩
 (東京大学医学部附属病院22世紀医療センター特任准教授)
 小西 宏昭
 (長崎大学臨床教授、長崎労災病院副院長)
 三好 光太
 (横浜労災病院脊椎脊髄センター長・脊椎整形外科部長)
 笠原 論
 (東京大学医学部疼痛医療センター助教)
 出版社：(公財) 労災保険情報センター
 A5版 148頁
 定 価：本体1,429円＋税

日整HPからご覧いただけます

[学術部]

1. 日整主催学術大会一覧
 - ・平成26年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧
2. 学術大会会員発表動画一覧
 - ・平成25年度日整主催学術大会会員発表ダイジェスト動画一覧
3. 富山大学寄附講座
 - ・富山大学寄附講座活動報告 Vol.6
 - ・富山大学寄附講座大学院修士課程入学案内
4. 「柔道整復学」専攻区分「学士」を目指す方へ
 - ・独立行政法人大学評価・学位授与機構について
 - ・科目等履修生制度の開設大学一覧 ほか
5. 「学術シリーズ」原稿募集
6. 生涯学習単位取得報告
 - ・平成25年度生涯学習・ボランティア活動単位取得報告
7. 「骨継ぎの知恵袋」アイデア募集
8. 公認私的研究会
 - ・公認私的研究会一覧

[国際部]

1. 学術大会における国際部活動報告
 - 草原に架かる虹を追って—モンゴルでの記録—
 - 第49回 四国学術大会 香川大会【動画配信】
2. 「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」情報
 - ・平成26年度 第2回 日本研修 開講式（10月21日）
 - ・平成26年度 第2回 日本研修 閉講式（12月14日）
3. 柔道グランドスラム東京2014トレーナー派遣報告
 - 2014年12月5日（金）～12月7日（日）に「柔道グランドスラム東京2014」が東京体育館で開催され、韓国代表チーム・モンゴル国代表チームのトレーナーとして本会会員が派遣されました。
4. チングスハーンの国④
 - 柔道整復術を指導する講師としてモンゴル国を訪問した体験をご紹介します。紙面に入りきらなかった写真も掲載しております。

【日整HP「会員ページ」へのアクセス方法】

日整ホームページ（<http://www.shadan-nissei.or.jp/>）にアクセスし右下の **ログイン** をクリックすることでご覧いただけます。

パスワードは所属社団名と氏名を告げて、日整事務局（03-3821-3511）にお問い合わせください。



世界遺産 「紀伊山地の霊場と参詣道」

公益社団法人和歌山県柔道整復師会 出崎 素之

皆さん、和歌山ってご存知ですか？県名は知っていても、場所は定かでないと言われる方も多いかと思います。和歌山と言えば「みかん」「梅」「柿」「南紀白浜」「和歌山ラーメン」といったところでしょうか。最近では「世界遺産の熊野古道」が、ちょっと有名かと思います。2004年ユネスコの世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録されて、昨年の7月で10年を迎えました。登録後は、熊野古道を散策する観光客、特に外国の方が多く訪れるようになりました。

紀伊山地は本州最南端、紀伊半島に位置し、和歌山・奈良・三重の三県にまたがり、標高1,000～2,000m級の山脈が縦横に走り、年間3,000mmを超える豊かな降水量が深い森林を育む山岳地帯です。

このような特有の地形、気候、植生など自然環境から育まれた多様な信仰の形態を背景として、修験道の拠点である「吉野・大峯」、熊野信仰の中心地である「熊野三山」、真言密教の根本道場である「高野山」の三つの霊場とそれらを結ぶ「参詣道」が生まれ、都をはじめ全国から人々の訪れる所となり、日本の宗教・文化の発展と交流に大きな影響を及ぼしました。また「紀伊山地の霊場と参詣道」には、国宝、重要文化財の建造物をはじめ合計41件にのぼる多種多様な文化財があります。しかし、これら文化財の多さだけに意味があるのではなく、1,200年以上にわたる宗教的営みや沿道に展開する集落に住む人びとの日々の営み

が、霊場と参詣道を通じて、紀伊山地という豊かな自然と一体になって形成された文化的景観が重要であり、それが評価され世界遺産に登録されることになりました。

つまり「霊場や道」が持つ空間、それらに作用されて作り出された文化的景観が世界遺産にふさわしく、世界遺産「熊野古道」を守るためには、寺社や観光資源としての価値のある「物」を保存するよりも、前述した文化的景観という「もの」を守り続けることが重要であると思います。

どこの世界遺産にも共通することですが、地元の方から「違法駐車が多くなった」「観光客がごみを捨てていく」といった声が聞こえてきます。観光する方も、人としてのマナーを守っていただきたいものです。

世界遺産登録10周年イベントがいろいろ開催されていますので、和歌山にお越しの際は、ぜひ「熊野古道」にお立ち寄りいただき、先人たちに思いを馳せながら、自分なりの熊野古道、文化的景観を感じていただきたいと思います。



私の夢

『発見』



明治東洋医学院専門学校 柔整学科3年 石割 譲

私の小さなころの夢は「発明家」でした。生き物の図鑑が好きだった私は、よく図鑑を眺めて幼少のころを過ごしました。カブトムシの足が木につかまりやすくなっているとか、サメの歯が生え変わるとか「へえ〜凄い！」と興味津々に何度も見ていました。

同じように本棚に置いてあった子供向けの本の中には過去の偉人たちの伝記もあり、自分の知らない昔の人が「この人はこんなことをしました、だから偉いんです」というようなことが書いてありました。当時の自分はその人が考え付いたこと、

実行したことよりも、その人がなぜそんな考えを導き出したのかに興味を持ち「いつか自分もこんな新しいものを発見したり、発明してみたい。」と思うようになり、折り紙やヨーグルトの容器などで何かを作るといったことが好きな私は、将来「発明家になる」と考えました。

小学校に入学し、学年が上がると自分が好きな科目は理科、嫌いな科目は社会の歴史だと分かるようになり、同じころ友人に勧められてソフトテ

ニスを始めました。それから高校まではずっとソフトテニスに浸りっぱなしで勉強もろくにしない毎日でした。中学までは何とか付いていけたものの高校の練習量は凄まじく体が付いていけなこともあり、そのときに近所の鍼灸整骨院で治療を受け、こんな仕事があるのかと感動し「自分もこんな仕事が見たい」と、この世界へ飛び込むことを決意して、明治国際医療大学の鍼灸学科へ入学しました。

入学試験の面接の際「勉強は難しいと思うよ。大丈夫？」と聞かれ不安になりましたが、いざ勉強を始めると図鑑を眺めていた自分と同じように、「昔の人が見つけ、その人の名前が付いている」とか、「この骨は何のためにこの角度が付いている」とか「へえ〜凄い！」の連続でした。自分の中では新しい発見が続いている理科。でもそれらは昔の人が先に見つけた過去のものであって、それを学ぶのは全て小学校のころから苦手だった歴史だということを最近考えるようになりまし

ります。

大学を卒業するころ、自分はスポーツの分野に興味があったので、もっと外傷について勉強したいと思い、姉妹校である明治東洋医学院専門学校柔整学科に入学し、今は近所の鍼灸整骨院で働きながら学校に通っています。今まで全く知らなかった柔道や整復術。新たな発見が多く自分もまだまだだと実感します。

患者さんは何かしらの愁訴を持って来院されます。その愁訴の原因は何なのか？どうすれば良くなるのか？を考え模索する毎日です。良くなれば患者さんは喜んでまた来院されます。効果がなければ来院されません。シビアな世界です。そんな中、小さな子供が「こんなことができるようになった！」と喜びのと同じく、「前はできなかったことが今はできるようになりました！」と仰って来院される方もいます。誰しもができるようになることは嬉しいことなのだと思います。

やはり勉強でもそうですが、治療するにも治療されるにも意欲を持って行うと成果が大きくなると思います。原因を見つければ、治療法を見つければ、患者さんの喜びを見つけ、どうなりたいかを見つければ、小さなころの「発明家」という夢が今は「発見家」となっています。これから、もっとたくさん発見に繋がるよう、日々勉強や技術研鑽に励んでいきたいと思っています。

日整フォーラム

Nissei Forum

国民のため、地域住民のため、患者さんのため公益活動をしてまいります

北海道

北整特別学術講演会

平成26年9月21日(日)、午前10時から北整会館4階大講堂にて、会員・研修員・一般参加合わせて166人の参加のもと標記講演会が開催された。

『脊椎外科医による脊椎脊髄疾患の診断と治療について』

北海道整形外科記念病院 室田栄宏先生

【解剖と診察のポイント】

「脊椎の縦方向には脊柱管、横方向には椎間孔という空間があり、いずれも脊髄神経が入っています。椎体は骨皮質という固い組織で覆われていますが、中は海綿状の骨梁構造のため骨皮質より若干弱く骨折はここに発生します。

我われ脊椎外科医の役割は、病状の原因が脊椎管や椎間孔部での神経圧迫によるものであるのか、また筋肉的な疼痛や内科的な疼痛であるか診断し、保存療法・薬物療法・リハビリ・手術療法が適用するのかを判断することです。

頸椎のレントゲンを見るポイントは①アライメント②椎体のすべりの有無③椎体の変形④椎間板高⑤脊柱管前後径（正常は14mm）⑥前後屈の動き⑦椎間孔の形態です。

またMRIでは①脊柱管狭窄の有無②脊髄圧迫の有無③椎間孔圧迫の有無④神経根圧迫の有無⑤椎体・椎間板変性などを見ますが、重要なのは脊柱管狭窄による神経の圧迫があるかどうかであり、レントゲンで狭窄が確認されてもMRI画像で実際に神経圧迫がなければ問題は

ありません。

胸椎は12椎あり、その内1～10番胸椎と肋骨、胸骨で胸郭を形成しますから、頸椎や腰椎よりも安定しており重篤な症状を呈することは少なくなっています。しかし11・12番胸椎は籠状構造をしていないため、圧迫骨折を起こすと台形状に変形し脊髄を圧迫することが多くなります。以前は圧迫骨折により神経圧迫が発生すると処置のしようがなかったのですが、ここ数年は治療方法も開発され良好な状態を作れるようになりました。腰椎のレントゲン写真の観察ポイントも頸椎とほぼ同様です。

これらの所見から、痛みの原因が脊椎管や椎間孔部での神経圧迫によるものであるかを判別し、またそれは急性的に生じた疼痛であるか慢性疼痛であるのか、更に癌性疼痛なのか非癌性疼痛（侵害受容性疼痛か神経障害性疼痛等）であるのか診断をすることが重要で、癌性疼痛の場合は専門科による治療が最優先になります。これらを踏まえ病態から治療法の選択を行います。

【疼痛の分類と適応する薬剤】

痛み止めの薬の種類は①NSAIDs（非ステロイド性消炎鎮痛剤）②オピオイド③Caチャンネル・ $\alpha 2\delta$ リガント④抗うつ薬⑤抗てんかん薬⑥SNRIなどがありますが、③～⑥は補助薬として併用されます。例えば打撲の疼痛の信号は脊髄の後角に入り、延髄・中脳を通り大脳へ到達しますが、その際中脳・延髄・脊髄は痛みの信号を抑えるシステムがあります。

オピオイドは癌性疼痛の抑制に使用されましたが、適用範囲が広がりNSAIDsが効かない場合処方できるようになり、この薬は痛みを



▲室田先生

感じる脳と、更に後角にも作用し痛みの伝達をブロックする力を活性化させます。NSAIDsは疼痛部位に直接作用し痛みを感じさせる物質であるプロスタグランジンの生成を抑える作用があります。沈痛補助薬としてCaチャンネル・ $\alpha 2$ δ リガンド・SNRIは神経障害性疼痛に有効で、痛みを伝える後角に作用して痛みを和らげる作用があり、ほかに抗うつ薬・抗てんかん薬が有効な場合もあります。このような作用の違いを考慮しながら治療に用います。

疼痛の分類として

- ①組織への有害刺激による“侵害受容性疼痛”
(多くの外傷で見られる皮膚・筋・骨・靭帯部の損傷やOAによる疼痛)
- ②組織炎症や感染、全身性の炎症性疾患等に起因し、炎症に伴い放出される内因性化学物質が侵害受容体を刺激して起こる“炎症性疼痛”
(感染症、膠原病、関節リウマチ、化膿性骨関節炎など)
- ③神経組織自体の損傷や遷延する有害刺激により疼痛物質に関わる神経システム自体に異常をきたす“神経障害性疼痛”(末梢性の神経根障害、脊柱管狭窄による神経圧迫、脳卒中後の疼痛、癌の治療のための放射線照射による炎症など)
- ④社会的な問題などによる“心因性疼痛”などがあります。

①②にはNSAIDsが良く効きます。

痛みの持続時間の観点から定義すると、痛みが3～6ヶ月以上持続するものを慢性疼痛と言いNSAIDsの効果はあまり期待できません。痛みの持続時間の観点以外から、組織損傷が治癒、または神経圧迫を取り除いても継続する痛みは侵害受容性疼痛や神経障害性疼痛に該当し、心因性疼痛もこれに含まれます。神経障害性疼痛には特殊な薬を選択したり、慢性疼痛にはオピ



▲会場風景

オイドを選択したり、主軸となる薬と他剤のコンビネーションが重要になりますが、最終目標はdrug free (薬の使用がなくなること) です。

【脊椎疾患疼痛治療のアルゴリズム】

私の脊椎疾患疼痛治療のアルゴリズムは、症状がしびれのみの場合は軽度ですから経過観察か外用薬の処方にとどめます。痛みを伴う場合はNSAIDsが第一選択肢です。更にMMTの結果、脱力のある方は神経圧迫の可能性がありますので重症と見なし、画像診断でも神経圧迫のある場合は手術適応を考慮し、神経圧迫がない場合はほかの原因となっていると思われるため専門の診療科へ紹介します。

手術適応となるのは当院の場合、年間6,000～7,000人の外来患者さんの1.8%でほとんどの方は保存的治療で軽快されています。

【Case Presentation から】

- ・頸椎の狭窄を疑われる例はMIR撮影の際、いきなり後屈位を取らせると脊髄圧迫を起こし麻痺を起こすことがあるため注意が必要。しかし後屈位で撮影することで初めて神経圧迫が描写されることもある。
- ・頸髄に圧迫のある方は必ず枕を使用し軽度前屈位で眠ることが推奨される。
- ・日本人は脊柱管が狭いため手術例が多く、技術も世界で一番進んでいる。
- ・四肢の筋力がMMT2以下の場合手術を行っても良好な結果を得られることは難しく、MMT3～4の状態のうちが望ましい。
- ・術後の経過について楽観的な人ほど良好な結果となることが多く、脳科学でもその理由が証明されている。
- ・腰椎のレントゲン写真を撮る際は座位前屈位と立位後屈位で行う機能写を行うことで手術

の必要性を判断することも重要。

- ・最近MRIに非常に優れたものができ、頸椎・胸椎・腰椎を3回に分けて撮影して全てを合成した画像を作成できるようになり、腰椎の手術をしても下肢のしびれが取れない方はかなりの確率で頸椎や胸椎での狭窄があり、これらの判断にも役立つようになった。更に椎間関節の包内に水腫や、椎間孔狭窄、脊椎分離症の画像描写も鮮明になり確定診断に役立つようになった。
- ・MRI撮影を行う際T1とT2撮影を行うことで圧迫骨折が新鮮例か陳旧例か判別でき、治療の参考になる。
- ・PTH製剤（副甲状腺ホルモンを遺伝子組み換えしたホルモン）の投与で骨の形成が進み圧迫骨折の術後に他の椎体が骨折を起こすことを予防できるようになった。
- ・ビスフォスフォネートなどの骨粗鬆症製剤は長期投与で椎体骨折予防効果があるが、利用者は少なく啓蒙が必要。海外では服用で大腿骨頸部骨折が減少しているが、日本では増加しているのが現状である。

以上、Case Presentationの中でMRI、レントゲン写真と手術方法や症例ごとにトピックも交え、スライドを用い丁寧に説明した。

終わりに精神状態が正常であれば楽観的に痛みに向き合えるため症状は軽快していくが、病気に対する潜在的恐怖、ネガティブな感情、思い込み、医療者の不適切な態度や言葉などにより痛みの破局的思考に陥った患者さんは薬物療法では症状の改善は見込めず、メンタル面でのケアが必要になることも多く、患者さんと対峙した際の言葉や態度の大切さにも言及され講演を終了した。
(広報員 高山訓正)

関東地域

群馬県

いかに読者へ伝えるか

「紙面作りの基本・編集の仕方・記事の書き方」を学ぶ

平成26年8月24日(日)、午後2時から群接会

館で平成26年度広報部研修会を開催。講師に上毛新聞社編集局次長兼編集本部長の横山敏也先生を迎え「紙面作りの基本・編集の仕方・記事の書き方」と題して講義をいただいた。新聞記事における決まり事や基本的な紙面構成、読者を引き付けるための紙面作りに欠かせない大切な要素を解説した。

充実した紙面作成のため

本会は、昭和44年に月刊会報「ぐんせつ」第1号を創刊以来、一度の休刊もなく毎月発刊し続けてきた。現在は「公益情報月刊ぐんぱる」も同時に送り出しており、当研修会は広報紙の内容充実を図るため毎年開催している。

講師の横山敏也先生は、上毛新聞社で多忙を極める中、講師として登壇していただいた。新聞の作り方、紙面に対する思いを伝え「会報紙の充実を図るため、新聞における決まり事などを踏まえ、どのような紙面が読者に伝わるかを考えていきましょう」と挨拶。まずは上毛新聞を例にして、紙面構成について説明。夏の全国高校野球選手権大会において県内の高校が好成績を収め、紙面上でも大きくフォーカス、一面に掲載することもあった。果して高校野球でここまで紙面を割いていいものだろうかという議論もあるが、読者が何を求めているかを考える必要があるだろう。

トップ記事の扱いについても解説。紙面のどの位置に載せるかで重要度が変わってくる。新聞では基本的に重要度の高い記事は右上側に置くことが多いが、場合によっては左に置く場合もある。記事の重要度によりレイアウトを考える必要がある。

講義は紙面構成の説明にとどまらず、編集者



▲講師の横山先生

としての苦労話も紹介。今年には富岡製糸場の世界遺産登録も世間を賑わしてたこともあり、世界遺産登録勧告の号外を出したときのエピソードなども披露した。

伝えたいことにフォーカス

後半は、過去一年分の「ぐんせつ」、「ぐんぱる」、「協同組合ニュース」について高批。「より読者を引き付けるために、まず最初の段落にまとめを持ってくるべきです。感想なども最初に書いておく方が良いでしょう。とにかく、つかみとしてキャッチーな言葉を使用することで読者を引き付けます。余分な情報はなくとも、伝えたいことにフォーカスして記述することで、より理解も深まるでしょう」とまとめた。

一つひとつ丁寧な説明と批評を加えた横山先生の講義。今回学んだことを生かし、紙面の向上を図りたい。
(広報員 永井 毅)

埼玉県

第7回市民公開講座

平成26年10月18日(土)、鴻巣市文化センター「クレアこうのす」において標記講座が行われました。

この事業は本会が公益社団法人として県民を対象にした市民公開講座を開催しているもので、今回は工藤公康氏(元プロ野球選手・野球評論家)に《僕の野球塾》の演題で講演していただきました。

当日は少年野球チーム、選手、父兄、一般の方がたなど約700人の参加者がありました。

主催挨拶として渡邊寛会長の挨拶に続いて原口和久鴻巣市長に挨拶をしていただきました。

講演の前半はスライドを使って投球での肘・肩の障害の説明があり、特に少年期は自分自身の体重を使ったトレーニング(逆立ち、けん垂、手押し車など)が重要であり、骨端線が閉鎖するまでは無理なトレーニングはやらない方が障害予防になる。また、食事は練習の直前は控えた方が良いとの指導がありました。

後半は実技指導となり、少年野球チームから代表で選ばれた選手にボールの握り方、正しい投球フォームなど、また股関節の使い方や動作

時の頭の位置など、子供たちに分かりやすい指導をしていただきました。



少年期は憧れの選手の“まね”をすることや、プロ野球観戦が将来にいい効果を表すとの話もあり、子供たちが持っている「無限の可能性」を伸ばし「ケガや故障」をしないことが何より大切であるなど、子供たちのスポーツに対する工藤公康氏の「想い」を述べられました。

(広報員 吉田幸作)

千葉県

平成26年度 学術講演会・学術研究発表会

平成26年10月19日(日)、本会接骨師会館において会員多数参加し、標記の会を開催した。

講演に先駆けて岡本会長は挨拶の中で「本日の白木先生の講演は、業務の中で発生するアスリートのサポートや、我われに与えられた機能訓練指導員という公的資格を生かす場合にも、非常に役に立つ内容と考えますので、しっかりと勉強し、厳しい環境におかれた我が業界ではありますが、その資格を生かした介護事業への参入も多角的に考えていただきたい」と話しました。

学術講演会

演題「股関節のトレーニング」

講師 筑波大学大学院 スポーツ医学教授

白木 仁先生

先生はアスレティックトレーナーとしてさまざまなプロスポーツ選手、オリンピック選手のコンディショニングを行い、野球では工藤公康投手、ゴルフでは片山晋吾選手、スピードスケ



▲講演する白木先生

ートの清水選手、アテネオリンピック・シンクロナイズドスイミングデュエットの立花・武田の銀メダリスト、などのトップアスリートのサポートを行いました。

現在は日本ゴルフ協会の男女ナショナルチームのフィジカルコーチを行っています。

また、先生は柔道整復師の免許もお持ちで、その資格と経験が選手をケアする際に直接体に触れることができるため、ドクターとの連携に非常に役に立ったと話されました。

講演

アスリートを対象としたスポーツトレーニングで、パフォーマンスを高めるために、いかに体調を整えながら上げていくか、その中で重要視しているものの一つが“股関節”です。

股関節は体の中で最も大きな関節で、上体と下肢をつなぐ^{かまめ}要のような存在で、その機能を高めることで、関節などの痛みが消えたり体の動きが良くなったりするのです。

しかし反対に股関節の機能が低下すれば、思わぬ所に痛みが出たり体調が優れなかったりします。いわば体の要であるとともに、健康の要でもあるのです。股関節が健康を維持する上でいかに大事か、それはインナーマッスルが大きな鍵を握っています。

一般的なトレーニングの多くは、アウトーマッスルを鍛えるものです。しかしインナーマッスルは関節をしっかりと固定する役目があり、これを鍛えておかないと関節の機能が低下するのはもちろんのこと、怪我や障害の原因にもなりかねません。

日本では肩関節インナーマッスルに比べ、股

関節のそれは10年ぐらい前まではあまり重要視されませんでした、しかしドイツでは20数年前から既に注目されていたのです。その股関節の機能を高めるための効果的な方法が「股割り」です。相撲の稽古の「四股」「すり足」はその最たるもので、日本でも古来から既に重要視されていたといえるでしょう。

もう一つが、両足を前後に開き、前に出した足の膝をゆっくり曲げて行く「レッグランジ」です。同じ股関節に関係する筋を鍛える運動に「スクワット」がありますが、それは膝に負担が掛かります、しかし「股割り」は膝への負担があまり掛からず機能を高めることができます。そして実際のトレーニングを、先生自らデモンストレーションしていただき、具体的なトレーニングメニューも提示していただきました。

また、さまざまな競技のアスリートに関して、欧米人より体格的に劣っていることが、絶対に不利なのではないかと今まで思われてきましたが、先生は「フィジカルおよびメンタルトレーニング次第でそれを超えることができる」と述べられました。

学術研究発表

1) 簡易足底板によるMP関節痛治療

南総支部 青木 孝悦

2) スリングを利用した体幹筋検査

東部支部 水嶋 敏一

3) 中学野球におけるスリーパーストレッチングの有用性

房総支部 安齋 和仁

4) 階段昇降時の膝の痛みについて

東部支部 田原 賢二

①簡易足底板を用いて足部のアーチを支持することで、MP関節痛に対する有効な結果を得た報告

②スリング（吊り上げ具）を使って体幹筋のバランスを検査し腰痛の発症要因を推測する臨床報告

③スリーパーストレッチング（肩関節後部筋の柔軟性不良に対して行うストレッチング）を用いて関節可動域を改善し良好な治療効果を得た報告

④階段昇降時の膝の痛みを力学的視点から、三角比を用いて分析し検証する

といった、それぞれ独自の発想と視点から研究



▲表彰された発表者

したバラエティーにとんだ研究発表を行いました。

なお、平成27年3月8日(日)「パシフィコ横浜 会議センター」にて神奈川県主管により開催する「公益社団法人日本柔道整復師会第37回関東学術大会神奈川大会」での本会代表発表は、南総支部青木孝悦会員の「簡易足底板によるMP関節治療」に決定いたしました。

(広報員 渡辺 勇)

北信越地域

石川県

第33回野々市じょんからの里 マラソン大会

平成26年10月19日(日)、標記大会が開催され、1,297人のランナーが参加。秋晴れの下、住宅街や田園地帯を力強く快走しました。

前日の18日(土)にはブースの設営や事前研修会でテーピングやストレッチの方法について確認を行い、翌日に備えました。



大会当日、サポート参加会員17名は6時30分に野々市市民体育館に集合。7時から選手たちが次々とブースを訪れ、107人の選手にストレッチやテーピング、アイシングなどを施しました。

今年の大会ではレース前にストレッチを望む声が多く聞かれ、仕事の都合であまり練習ができず、調整がうまくできていないと訴える一般参加選手も少なくありませんでした。仕事に追われながらのレース出場ですが、参加選手たちの顔には疲労感はなく、むしろ爽やかで走ることの楽しみが伝わってくるような表情でした。

今年は天候にも恵まれ、ブース内は選手とサポート参加者の間にも会話が弾み、終始笑顔が絶えない活動となりました。



サポート活動は、ストレッチやテーピングだけでなく選手たちから笑顔が生まれる会話の必要性を改めて感じました。

第33回KOMATSU 全日本鉄人レース

平成26年9月28日(日)、快晴の中KOMATSU全日本鉄人レースが小松市「こまつドーム」をスタート・ゴールに、粟津温泉・木場潟・周辺と鉄人の部で動山(603m)、赤瀬ダム・尾小屋を巡るコースで開催され、過酷な競技を本会、日赤奉仕団サポート接骨石川(SSI)、金沢大学トレーナー部KATT、北信越柔整専門学校の確井貞成校長はじめ講師・学生など総勢80人でサポート活動を行いました。

大会前日の27日に開会式があり、小松ドーム中央のかなり広いスペースにトレーナーブースを設営し28日の大会本番に備えました。

レース当日は、参加選手618人に対して早朝

東海地域

愛知県

モンゴル研修生について

日本柔道整復師会と国際協力機構（JICA）の共同事業として「日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト」が行われており、モンゴルの准医師・看護師らが来日して、接骨院や整形外科で実地研修を受けている。モンゴルの遊牧生活を送る地方では医療インフラが整っておらず、レントゲン撮影もままならない。現地で入手可能な材料を用いて画像に頼らず適切な骨折・脱臼の治療ができるという点において、柔道整復術の習得は大変有用であることから、2011年より実施されている事業である。今回日整より本会に、10月23日から約3週間、3名の研修依頼があり、森川接骨院（森川伸治会長）、さとう接骨院（佐藤泉会員）、加藤接骨院（加藤彰一会員）が研修を受け入れた。

森川接骨院にはバトムンク・アルタンエルデネさん（男性29歳）が、さとう接骨院にはムンフバートル・ボロルチメグさん（女性21歳）が、加藤接骨院にはオユンバートル・ダリンチュルンさん（女性23歳）が、名古屋市中区のホテルに連泊して“通勤”しながら技術を学んだ。3名はモンゴル国立医療科学大学関係で4年間医学を勉強し准医師・看護師の資格を持つ。す



5時から午後2時までに325人の選手にメンテナンスサポートを行い、スタート前の午前5時にはブース受付にテーピングや、コンディションの悪いところをメンテナンスしてほしいと選手が続々と集まりレース前75人、レース後は疲労困憊の選手が250人、のケアサポートをしました。

このサポート活動は今年で19年目となり、毎年選手や大会オフィシャルから絶大なる信頼と実績を評価されています。今回参加された選手の中には一昨年に肩関節を脱臼しトレーナーブースでドクターの診断の下、整復固定し帰宅した選手が2年ぶりに参加され「トレーナーブースがあったおかげでまた競技に参加できます」と報告とケアに来て挨拶していました。選手たちからはこの大会は選手にとってとても手厚いもてなしをしてもらえる大会だと絶賛していただいています。今年は大きなケガをする選手もなくスムーズな運営ができました。これも参加ご協力いただきました皆様のおかげだと思っております。

（広報員 佐藤裕之）

柔道整復術 モンゴルへ 医師3人 名古屋で研修

遊牧生活での落馬や凍結した路面での転倒が多いモンゴルで日本の伝統的な柔道整復術を生かそうと、現地の

医師3人が名古屋市内（C.A.）の草の根技術協会の接骨院で研修している。15日まで市内に滞在し、エックス線設備がなくても骨折や脱臼に対応する技を学ぶ。

国際協力機構（JICA）同市北区大我麻町の森川接骨院では、四度

「学んだことをモンゴルで生かしたい」と話す。院長で県柔道整復師会長の森川伸治さん（左）は「柔道整復術の技術はエックス線設備が普及していない新興国の病院で役立つはず」と意義を語った。バトムンクさんら3人は十月二十日に来日し、十一月十五日に帰国予定。（藤嶋崇）

目の来日というバトムンク・アルタンエルデネさん（右）が十月二十日から研修。骨折の形態を触診で判断して手当てする方法を講習したり、患者の包帯を交換したりしている。バトムンクさんは「学んだことをモンゴルで生かしたい」と話す。院長で県柔道整復師会長の森川伸治さん（左）は「柔道整復術の技術はエックス線設備が普及していない新興国の病院で役立つはず」と意義を語った。バトムンクさんら3人は十月二十日に来日し、十一月十五日に帰国予定。（藤嶋崇）

に3～4回目の来日とのことで日本語も堪能である。全員が柔道整復術のすばらしさを理解し院長に敬意を払って真摯に臨んだ。また研修期間がわずかであるため非常に熱心に学び、その姿勢に他のスタッフも大いに刺激を受けたという。



▲上、右から森川会長・加藤会員・佐藤会員
下、それぞれの研修生、
右からバトムンクさん・ムンフバートルさん・
オユンバートルさん

3名は10月26日の大曾根支部学術研修会にも参加し、4題の会員発表にも熱心に耳を傾けていた。接骨院での研修は11月15日で終わり、16日の東海学術大会静岡大会に出席した後その日に東京へ出立。翌日の日整会館での中間報告会を経て、次の研修先に向かった。

(広報員 長谷川貴一)

三重県

平成26年度県民公開講座・ 第19回学術保険研修会

平成26年9月28日(日)、標記の講座、研修会がアスト津において開催され、本会会員144名、本会会員施所職員6名、社団外45名、保険者3名、一般4名が参加しました(=写真)。

午前は県民公開講座が開催され、第一部『反社会的勢力の情勢と対策について』を野田裕詞三重県警察本部刑事部組織犯罪対策課警部補に大変分かりやすくご講演いただきました。

第二部は(公社)和歌山県柔道整復師会会員の平野相徳先生を迎え『操体法について』をご講演いただきました。操体法の原理、法則説明、施術効果の判定、実技指導、質疑応答と続き、



最後には一般参加者に膝関節の施術を実演いただきました。

午後からは保険集団指導会に移り、全国健康保険協会三重支部、三重県市町村職員共済組合、三重県国民健康保険団体連合会、厚生労働省東海北陸厚生局三重事務所よりご指導をいただきました。

続いて『療養費審査委員から見た施術録と申請書』の報告が、本会保険担当副会長よりありました。療養費審査委員として「施術録の意義と重要性」「申請書の問題点」「個別指導・監査」などについて大変詳しい説明後、質疑応答で締めくくりました。

そして本会市川秀彦会員による『足関節捻挫に対する早期腫脹軽減を目的とした一症例』の研究発表があり、参加者は非常にたくさんの情報を持ち帰りました。



▲操体法 平野先生

(広報員 伊藤昌夫)

近畿地域

滋賀県

第39回近畿学術大会滋賀大会

平成26年10月19日(日)、標記大会が、大津市の琵琶湖の畔に建つ「ピアザ淡海」において盛大に開催された。当日は、秋晴れの穏やかな天候のもと、他府県や近畿ブロックの会員、養成校の講師や学生を合わせ750人を超える参加があり、会場は立ち見が出るほど多くの聴講者で熱気にあふれた。

開会式で工藤鉄男日整会長は、学会開催の祝辞と日整の現況報告や今後の方向性と取り組みを述べられ、また来賓の皆様への謝意も伝えられた。

開会式に引き続き第Ⅰ会場では、滋賀医科大学睡眠学講座特任教授(主任)宮崎総一郎先生による「健やかな眠りのために一柔道整復師に役立つ睡眠学」と題した特別講演が行われた。宮崎先生は、国内で初めて開設された睡眠学講座に赴任され「眠りの森」事業を通じて、睡眠学の普及に取り組んでおられる先生で、この分野の権威であられる。

講演は、睡眠の正しい知識とそのメカニズムを最新のデータと動画やスライドを用いて進められた。

あるオリンピック選手が、試合後に話した「夜の予選だったので体が動いてくれた…」のコメントに触れ、運動に適した時間帯を1日の体温の変化と睡眠のリズムをグラフに示しながら、体温の変化がヒトの運動に及ぼす影響を説き、この選手のコメント内容が、データに裏付けられていることを説かれた。また、睡眠不足が続



▲講演中の宮崎先生

くとインシュリンの分泌が低下し、血糖値が上昇するため、睡眠不足は肥満や糖尿病発症のリスクが高くなることを説明された。ほかにも、睡眠には光が強く影響することや、睡眠は記憶の固定に重要な役割を持っていること、また、睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病の関係など幅広い内容だった。1時間半に及ぶ講演は、常時質問を受け付けながら、宮崎先生と質疑応答を交える先生独自のスタイルで進められ、日常生活での睡眠の役割が正しく理解できた講演であった。

続いて第Ⅰ会場では、近畿各府県の会員による12題の論文発表が行われ、それぞれ研鑽を重ねられた日頃の研究成果を発表された。また、発表者表彰として【15回発表】奈良県 西尾勝彦会員【9回発表】滋賀県 川戸典知会員【6回発表】兵庫県 藤井憲之会員【3回発表】和歌山県 岸田昌章会員が表彰された。

第Ⅱ会場では、養成校によるポスタープレゼンテーションが行われ、この滋賀大会では、21題と多くの発表があった。特に近年広まっているタブレット端末やスマートフォンを使用した発表が印象的で、このような機器を用いての測定評価は、屋内外を問わず比較的短時間で簡単に使えるため、今後アプリケーションの発展次第では、とても有効な手段になるものと思われた。その他、多くの発表者においても興味深い発表が相次ぎ、日ごろの勉学の成果がうかがわれた。

第Ⅲ会場では、近畿超音波画像観察委員会による基本操作法や演題発表、パネルディスカッションが行われた。近年、格段に機能の向上をみる超音波画像観察装置は、導入を考えられて



▲一般論文発表者

いる会員も多く、(株)エス・エス・ビー田崎氏から数ある機種の特徴を分かりやすく紹介された。京都府の今井雅浩会員は、法的問題の改善と超音波画像観察装置の進化により「超音波新時代」が来ると発表された。

養成校でも積極的に講義で画像観察法を取り入れているところもあり、今後も更なる観察技術の向上により、客観的評価の手段として我われの施術の中でも重要となってくると感じた。

そして、第IV会場では、日整保険部介護対策課による介護保険に関する発表と国際部からの活動報告があった。介護保険部からは、地域支援事業・ICF国際分類についての発表があった。ICFはWHOにおいて改定された、人間と環境との相互作用を基本的な枠組みとして、ヒトの健康状態を系統的に分類するモデルであるが、我われが患者を診る医療的側面からの視点ではなく、障害等に対して「できること」「していること」を中心に、環境や個人因子がQOLを高めていくという内容を、我われの業務を例に分かりやすく発表をされた。近年、医療の中でもICFの考えを取り入れる傾向があり、障害を克服するのは治療の可否ではなく、QOLを高めるために個人を取り巻く環境や意欲といったものをいかにうまく活用するかが重要であると説明をされた。

また、国際部からは、モンゴルでの活動についての報告発表、更には今年度から新たに日本理学療法器材工業会による学術セミナーが行われた。

以上のように、各会場では貴重な講演や研究発表、また、活発な質疑応答や意見交換が行われ、参加者への自己研鑽の場が提供できた充実した学術大会となった。

(広報員 岡田博之)

京都府

(公社)京都府柔道整復師会学術部・
京都医健専門学校

第4回合同講習会

平成26年9月21日(日)、13時から京都医健専門学校において標記講習会が行われました。

池辺徹学術部長の司会にて、京都医健専門学



▲実技指導 岸下先生

校常務理事竹本雅信事務局長のご挨拶から始まり、大西辰博会長より昨今の柔道整復師の置かれている状況や保険情勢についてのお話をされました。その後、会員と学生とに分かれ、会員は学校施設の案内をしていただき、学生には柔道整復師会の案内DVD視聴、大西辰博会長より学生への応援メッセージ、入会案内をされました。

引き続き14時から「ストレッチポールを使ったリハビリテーション」と題し、講師に岸下晋先生をお迎えし講習会が開始されました。

岸下先生は種々の資格を取得されており、鍼灸師に始まり日本コアコンディショニング協会認定マスタートレーナー・B級講師・キッズスペシャリスト・シニアスペシャリスト、ピラティス・タイ古式マッサージトレーナー、ヘルパー2級、介護予防運動指導員などの資格を取得されており、たくさんの経験を積まれて「INSTYLE」を開業されています。

講義内容は、まず兼田旭紘会員がモデルとなり、ストレッチポールを使った基本運動(ベーシックセブン)を見せていただきました。続いて来場者全員で基本運動を行い、その後PowerPointを使って各運動の説明をしてもらいました。そして最後にストレッチポールを使った体幹トレーニングとマッサージを行い、質疑応答をもって終了しました。

本会では、定期的に講習会を柔整養成学校と協力して開催し、学生や卒業生に本会の説明をするとともに本会会員との交流を図っています。

(広報員 中川稔貴)

四国地域

香川県

真言宗善通寺派・総本山善通寺 (四国八十八ヶ所霊場75番札所) 宿坊にて研修会

平成26年9月20、21日(土・日)、総本山善通寺「いろは会館」宿坊にて本会の役員研修会が開催された。今年は空海生誕1,200年を記念し、四国八十八ヶ所霊場が全国的にクローズアップされている。特に香川県善通寺市に弘法大師・空海がお生まれになったことはよく知られ、全国から訪れるたくさんのお遍路さんが毎日参拝されている。この宿坊での研修は、(宿坊体験は修行の一つといわれている)日常生活から離れて自分を静観することが目的の一つでもあった。消灯21:00翌朝5:00起床、5:30から静寂の中、本堂で樫原禪澄管長と僧侶たちの読経があり、また講和も拝聴した。その後、戒壇巡り(真っ暗な道を手探りで歩く)も行われた。朝食を終了した後、僧侶によって境内を隈なく案内していただいた。東密(真言宗)の伝統法会(ほうえ)を体験し肌で感じた秘密仏教の作法は言葉では表現できない威厳を感じた。この研修会は、私たち柔道整復師としての新たな活動の起点を促す「心の行」となったように思う。

今後、本会は、いろいろな新しい企画を考案



▲樫原管長と石原会長

し活動を通して一層社会貢献を果たすために努力したいと考えている。

平成26年度 高知香川親善柔道大会・ 四国ブロック柔道強化練習

平成26年9月21日(日)、高知南高等学校武道館にて標記の柔道大会が開催された。開会式では香川県石原誠会長の挨拶、高知県小川八十一会長からは歓迎の挨拶が述べられた。本大会の開催は通算34回目の試合となり、今回、香川県が14年ぶりに高知県を下すことができた。今後も両県の親睦を深め、試合継続に努力したいと思っている。

以下の試合成績となった。

高知県1⑤-4④香川県

試合終了後、四国ブロック強化練習が行われ、この練習では地元の高校生たちも多数参加し充実した稽古が行われた。この後「ホテル南水」に場所を移し懇親会が開催された。この場で石原誠香川県会長の挨拶が述べられ、また浜野士朗愛媛県会長による乾杯が行われた。日整全国柔道大会の松本裕司監督より選手団の紹介とともに、各選手たちからの決意の言葉が述べられた。



▲代表選手紹介

(広報員 武田雄兒)

九州地域

福岡県

福岡マラソン2014 救護ボランティア

平成26年11月9日(日)に第1回目の福岡マラソン2014が開催された。

この大会は、福岡市中央区天神をスタートエリアとして、糸島市役所志摩庁舎付近をフィニッシュとするフルマラソン、そして、百道中央公園をフィニッシュとする5kmの車いす競技・ファンランとが行われ、総勢12,000人を超えるランナーが出場した。

今回、大会主催者である福岡市から本会に対し、ゴール直後の選手のケアを医師と協力して行っていただきたいとの要請があった。

よって、本会ではボランティア参加者を募り、組織的に活動できるように組織図を作成し、事前打ち合わせ会議で、参加者の役割分担を行い救護活動に臨んだ。



▲救護ボランティア活動に参加した会員



▲受付で順番待ちするランナー

マラソン当日は朝から小雨が降ったり止んだりの肌寒い天気となったが、主催者側が設置したテント10梁にベッド32台を持ち込み、50名の会員でランナーのケアに当たった。

救護所がゴール地点から少し離れた分かりにくい場所に設置されていたにもかかわらず、11時を過ぎたころからランナーが次々と訪れ、ピーク時には順番待ちが10人を超える盛況となった。そして、ランナーのケアが全て終わったのはスタート時刻から約7時間が経過した15時過ぎだった。

今回の『福岡マラソン2014』におけるフルマラソン完走者9,898人の内、本会の救護所でケアを受けたランナーは488人(男性384人、女性104人)に上り、4.9%のランナーが本会のケアを受けたという結果となった。

今回の活動はレースの規模が大きかったため、次回に向けて細かな課題はあるものの、大会終了後、ランナーから福岡市に感謝の声が寄せられるなど、本会と柔道整復師を広くアピールする良い機会となった。

(広報員 勢木博之)

世界空手道選手権大会の救護活動を体験して

茨城県 荒井健吉

去る、10月17日から19日の3日間にわたり、日本武道館において、第13回世界空手道選手権大会（公益社団法人日本空手協会主催）が開催され、医師団に加わせていただき、救護活動の貴重な体験をすることができました。

世界50数ヶ国から各国で頂点を極めた空手家が集結した大会の第一日目は、男女21歳以下の部で形競技・組手競技が行われ、東京大学医学部付属病院救急部・集中治療部の先生を中心に、歯科口腔外科の先生と柔道整復師の私の3名で救護活動をいたしました。

主な活動内容は、①組手試合中コート内で発生した負傷選手の応急処置 ②処置後の選手が試合続行可能かどうかの適切な判断 ③負傷・不調のためドクター席に来た選手の治療・相談・指導などで、整形外科の先生不在の初日は、私が四肢運動器外傷を任せられ、責任とやりがいのある日となりました。

外傷は打撃系格闘技特有の、顔面を強打されての脳震盪や挫創、歯の欠損・脱臼、鼻出血と、一般的スポーツ外傷でも発生する骨折・脱臼・捻挫・打撲などでした。

対応は負傷者が発生すると各コートの主審や看護師さんに呼ばれ、瞬時に駆けつけどんな外傷であれ対応し、専門的処置が必要な場合は応援の医師を呼び処置を行いました。私が柔道整復師として専門的処置を行ったのは、南アフリカ共和国の選手の肩関節脱臼の整復を始め、肘関節内顆部骨折の疑いや中手骨骨折の固定やア

イシング処置などでした。

2日目と3日目は男女成人の部、形・組手の個人・団体の各競技が予選から決勝まで行われ、前日より長身でパワーのある選手が出場するだけに、初日のメンバー3名に加え整形外科・口腔外科の先生も加わり5名での救護活動となりました。さすがに各科の先生が揃っているだけにどんな外傷が発生しても行き届いた処置対応ができ、重傷選手が2名出ましたが東大付属病院に円滑な救急搬送をすることができました。今大会の特徴として、外国人選手は鼻が高いので、打撃により鼻が左右に曲がる変形の鼻骨骨折が5名ほどみられ、発生率として国内大会との違いがありました。

各国の国旗に彩られた館内で、応援の仕方もお国柄がありさすが世界大会だなと感じるとともに、日本古来の武道を愛し一生懸命試合をしている外国人選手の姿を見ているうちに、自然と選手に対する感謝の念が湧き起こりました。

当初主催者から本大会の救護依頼をいただいたとき、言葉は大丈夫だろうか？私で役に立つのだろうか？などと不安や迷いがありましたが、何事も体験を通して学び知識を高める「格物致知」という座右の言葉が自分自身にあったため、お引き受けをして充実した世界大会の救護活動を行うことができました。

これからも柔道整復師としての知識や技術を高め、世のため・人のために役立たせて行きたいと思います。



▲ドクター席では多くの選手が処置を受けた



▲各科の先生（後列）と通訳の方々

現場の臨場感を体験

平成26年度原町赤十字病院災害救護訓練

群馬県接骨師赤十字奉仕団
群馬県 中野茂雄



▲災害救護

平成26年9月27日(土)、標記災害救護訓練が東吾妻町の原町赤十字病院で、日本赤十字社群馬県支部救護班、救護班付防災ボランティア、接骨師赤十字奉仕団などが参加して開催された。訓練は「県外の観光バス同士が交差点で衝突し一方のバスが横転、多数の負傷者がいる」との想定で行われ団員の10名が参加した。

印象に残った言葉

訓練に入る前に事前研修が行われた。防災ボランティアによるアイスブレイク（訓練に参加する者相互のコミュニケーションを円滑にするための自己紹介）が行われ、他の団体から参加したボランティアの方が話されていた「訓練にボランティアとして手助けしているのではなく、人の命を救う訓練をさせていただいている。という自覚をもって参加しています」との言葉が印象に残った。

各奉仕団の活動内容の紹介では、県接骨師赤十字奉仕団を代表して、実際の災害救護活動に参加した経験を持つ原沢研祐団員が「群馬県接骨師会は550名の会員が、災害時において地域に貢献できるよう訓練をしています」と述べた。

県接骨師奉仕団員はボランティアセンターで救護活動を行う4名と負傷者役に6名が割り当てられて訓練が開始された。

リアルな傷に痛みを感じる

今回、負傷者役を指示された。負傷名にしたがった負傷箇所のメイクを受け、合成樹脂で作られた傷が下肢に施される。

作り物の負傷箇所を身に付けているだけなのに、そのリアルさに痛みすら感じてしまいそうな気がした。

重傷者は救急車で、中傷者は担架で搬送。軽症者は独歩で病院前でトリアージを受ける。

訓練開始の合図があると負傷者役は、指示されていた演技を始める。「痛い痛い!」、「助けてくれー!」などの言葉が飛び交い本当の災害現場並みの雰囲気が変わり、救護所内には張り詰めた緊張感がただよった。

トリアージを受けた負傷者は、負傷程度により、それぞれの処置場所へ移され、血圧、血中酸素等の測定を行う。

続いて医師による意識確認、問診等により、処置の指示が出され看護師が処置を行う。4名の接骨師奉仕団員も指示を受け、迅速に救護活動を行っていた。

「百聞は一見にしかず」

負傷者として訓練に参加するまで、救護活動を救護を行う側の目線でしかイメージできていなかった。しかし現場で本当に大変な思いをしているのは被災した負傷者であるという、根本的なことに改めて気付かされた。

重大な事故や大規模な災害は起こらないことがベストだが、万が一のときに備え、平常時に訓練を経験しておくことは、まさに「百聞は一見にしかず」であることを実感した。

これまで報道などでしか見たことのない救護現場の臨場感を、救護を受ける立場となって体験できたことは大変貴重な経験となった。

第19回大阪国際親善柔道大会

大阪府 吉永豊貴

平成26年11月16日(日)、堺市立大浜体育館において、NPO法人大阪国際柔道友好会(会長橋本等、理事長松浦明弘)と公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団(理事長西政博)は、標記大会を共催した。

15ヶ国152名の参加者で各部門別に優勝の栄冠を競い合ったのち、Partyで親交を深めた。



▲選手宣誓

ミックカッタージャー (AUS) 選手

50歳代の部			
優勝	小西 康夫 (参 JPN)	Yasuo Konishi	イトウド ヨシヲ
準優勝	Edward Jones (2 GHA)		ルイジ エリカ
第三位	Craig Morishige (4 USA)		Eiji Kinoshita
	木下 英二 (四 JPN)		
60歳以上の部			
優勝	吉永 豊貴 (六 JPN)	Toyoki Yoshinaga	
準優勝	平野 相彦 (七 JPN)	Sotoku Hirano	
第三位	韓興 昌盛 (七 JPN)	Masamori Saiga	
	川上 徳市 (六 JPN)	Tokuichi Kawakami	
女子(57kg以下)の部			
優勝	趙 鏗熙 (2 KOR)	チョウ ケイ	
準優勝	石田 沙織 (三 JPN)	Saori Ishida	
第三位	Tegan David (外 AUS)	ティガン デビッド	
	東出 香代 (三 JPN)	Kayo Higashide	
女子(57kg以上)の部			
優勝	全 振希 (4 KOR)	ソヨン ユン	
準優勝	曹 雅然 (2 KOR)	ソウ アツ	
第三位	Jacqueline Steward (初 AUS)	ジャクウェリン ス્ટューワート	
	山内 理 (参 JPN)	Yamauchi	
女子団体の部			
優勝	釜山柔道友好会	Pusan Judo Club	
準優勝	堺柔道協会 B	Sakai Judo Federation B	
第三位	堺柔道協会 A	Sakai Judo Federation A	
	大新ダイナミツ	Daishin Dynamits	
男子団体の部			
優勝	MJ柔道協会	MONGOL JAPAN JUDO ASSOCIATION	
準優勝	釜山柔道友好会 A	Pusan Judo Club A	
第三位	在日本大韓柔道	Daikan Judo in Japan	
	井上柔道クラブ	Inoue Judo Club	
優秀選手	Genden Bataerdene	ゲンデン バタールデネ	
優秀選手	曹 雅然	ソウ アツ	
選手宣誓	ミック カッタージャー (AUS)	選手と	
	リン セイファン (TPE)	選手です。	

▲成績

平成26年度大阪国際親善柔道大会

目的 柔道を通じての国際親善と相互理解を目的とする
 日時 平成26年11月16日(日) 午前10時開始
 場所 堺市立大浜体育館
 主催 大阪国際柔道友好会(KIWI CLUB OSAKA)
 (公財)堺市教育スポーツ振興事業団
 15ヶ国152名の参加

結果記録

16歳未満の部			
優勝	中村 拓郎 (初 JPN)	Takuro Nakamura	
準優勝	香田 賢志 (初 JPN)	Satoshi Haruta	
第三位	渋谷 武輝 (外 JPN)	Hodaka Shibuya Sain	
	長谷川 順柔 (初 JPN)	Naonari Hasegawa	
16歳以上20歳未満の部			
優勝	趙 鏗熙 (初 KOR)	チョウ ケイ	
準優勝	新保 昌則 (三 JPN)	Masanori Shinoo	
第三位	武田 真弥 (三 JPN)	Shinya Takeda	
	河崎 僚二 (初 JPN)	Ryoji Kawasaki	
20歳以上25歳未満の部			
優勝	武田 一輝 (参 JPN)	Kazuomi Takeda	
準優勝	宋 孝一 (3 KOR)	ソウ ケイイチ	
第三位	朴 孝昌 (2 KOR)	パク ヒョウチャ	
	Monier Iszlam (三 HUN)	モニール イズラム	
25歳以上30歳未満の部			
優勝	鈴木 康太郎 (四 JPN)	Kotaro Suzuki	
準優勝	Nyamaajav Bayarbaatar (外 MGL)	ニヤマアヤフ バヤルバートル	
第三位	ゴエス ビニシウス (初 BRA)	ゴエス ビニシウス	
	長谷川 賢二 (参 JPN)	Kenji Hasegawa	
30歳代の部			
優勝	金 泰潤 (6 KOR)	キム テジュン	
準優勝	金柳 盛哲 (5 KOR)	キム リョウソク	
第三位	Khurelbaatar Erdeneochir (初 MGL)	クレルバートル エルデネチル	
	李 倫因 (4 KOR)	イ ヨウイン	
40歳代の部			
優勝	鈴木 大介 (五 JPN)	Daisuke Suzuki	
準優勝	桂 剛 (六 JPN)	Tsuyoshi Katsura	
第三位	Stuart Parke (初 AUS)	スチュアート パーク	
	Jason Miller (外 AUS)	ジェイソン ミラー	



▲各部門優勝者



▲団体戦優勝者モンゴル

* 総括

大阪国際柔道友好会は、大阪の柔道整復師が中心になり創った組織で、外国人柔道家への支援や国際親善・貢献を目的にしている。堺市教育スポーツ振興事業団は、堺市（市長・竹山修身）の外郭団体である。

堺は、その昔シルクロードの情報が流れ着く

最終港であった。現在その堺で、日本の伝統文化である柔道の国際試合・交流会を開催し、海外に向かって情報発信することは大変意義深いものを感じる。

今、世界は各地で不穏な空気が漂っている。柔道を通じた国際交流で世界平和に貢献しよう！（柔道評論家）

◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールでご送付ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報”〈kouhou@shadan-nissei.or.jp〉

日整広報はつつ発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。（広報部）

号 数	231号	232号	233号	234号	235号	236号
原稿締切	1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日	11月20日
発 行	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日	11月20日	平成28年 1月20日

日整文芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短歌】

夢違観音菩薩拜見す

聖徳太子柄香炉を執る

絵皿有り桐に鳳凰菊の紋

宇佐神宮の勅祭記念

あしひきの山鳥集う臥龍梅

遥かに望む有明の海

福岡県 山下 智章

【俳句】

後の月

山茶花にことばすくなや老夫婦

ひた濡れし女人高野の霧むぐら

姥捨の田水落とせり後の月

群馬県 鈴木 乗風

種守る冬至南瓜の堅さとも

美しき神の貼絵のうろこ雲

色変えぬ松よ奴濤とらうと対峙して

東京都 伊藤 正信

初獵

ほつぺたに鬼灯丸く飛び出せり

秋刀魚焼く煙の中の笑い声

初獵や引き金に脈跳ね返る

福井県 田上 滋良

【川柳】

山親父餌を求めて里に出る

鹿の群国道沿を横切つて

大雪路鹿に激突鹿谷へ

※山親父とは…

北海道ではヒグマのことです

北海道 阿部 篤夫

ひなたぼこ欠伸猫にほつとする

猫背伸び運動不足指摘され

舌嘗めで御馳走様の合図する

石川県 東 勝一

へ一般投稿

【短歌】

ふぜい

秋の色山腹かざるふぜいにや

紅葉ふかし自然にみゆる

まんようやしよしよにそめ色あいを

季節のすがたあらわしいずる

色あえに山のすそのや紅葉に

いろぞえそえて秋期はえる

奈良県 長谷川治三郎

【川柳】

四面楚歌エレベーターに一人乗る

肩書きが名刺枠からこぼれそう

重箱の隅にも少しある主張

高知県 かおる

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広報部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL: 03-3821-3511 FAX: 03-3822-2475
E-mail: kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■新年を迎えました。それぞれ心に秘めた希望と誓いを新たにしていることと思います。今月号の表紙は、鮮やかな和歌山県の「吊るし柿」です。こちら雪国の「吊し柿」の干し方は、1本の縄に柿を付け10個ほど等間隔で結び付け天井などから吊るす方法です。日本も広いものだと実感いたしました。そして、この写真から懐かしく美しい風景が想像されます。夕日に照らされた山並み。ほっこりとした縁側。温かいお茶。先日、日本で柔道整復術を研修されたモンゴルの准医師3名の閉講式を取材いたしました。慣れない日本での生活でも母国のために頑張り、みごと終了証書を手にとられた方々、その報告を聞いて涙が流れました。今頃は、酷寒の地で日本の伝統医療技術を駆使して故国の国民を救っていることと思います。柔道整復術が世界を巡るよう私たちも頑張らなければ。

本年もよろしく拝読のほどを。
(晴天雀)

■広報誌229号で生涯学習講演会「小笠原流礼法」「好印象を持たれるために」等々掲載した。身近な作法

など、到らぬ点を自分なりに実践中だ。そんな中、文部科学省所管の統計数理研究所から日本人の意識を探る「国民性調査」の結果が公表された。時代を反映してか「親切」「勤勉」「礼儀正しい」のポイントが増え、反面「自由を尊ぶ」「理想を求める」のポイントが減少した。また、「他人の役に立とう」が増え、「自分のことだけに」は減少している。わがままで夢を追いかける時代は過ぎ去った。我が業界も未来に向けて「利他の精神」を常とし、足元を固め着実に前進したいものだ。
(多毛家)

■日本柔道整復接骨医学会学術大会が『みる』(視・観・診・看)を大会テーマに開催された。大会会長講演で沖永寛子先生は、この4つの「みる」で患者さんをみるのが今後のあるべき医療の姿勢であると述べられた。「視る」臨床観察は重要であり基本である。「観る」さまざまな状況を想定しながら観察し診断に導く。「診る」言葉でたずねて調べる。「看る」気に掛ける、世話をする。4つの『みる』につ

いては、研修先の恩師もいつも言われていたが、いつの間にか治すことに重点を置いて患者さんの全体を「見る」ことを怠っていたことに気付かされた。初心に返って臨床に励みたい。
(家真舵)

■ユネスコの無形文化遺産に「和紙」が登録された。今回は埼玉県細川紙、岐阜県の本美濃紙、島根県の石州半紙の3地域の和紙が国の重要無形文化財として伝統技術を守る体制が整っているため、政府が登録を推薦した。

本県自慢の「越前和紙」は、技術を継承するための団体がないことから登録が見送られた。1,500年の歴史を誇り、産地として高い評価を得ただけに非常に残念だ。今後、保存団体を立上げ、追加申請を願い出るらしい。

我われの業界も多くの患者さんはもとより国民から信頼される柔道整復師を目指し、後世に伝統と技術を継承することが、先輩柔道整復師の使命だと思う。

(魅家下)

■毎年接骨医学会に日整広報部として取材を兼ねて出席をして、年々医学会のレベルアップを肌で感じ取れます。整形外科学会の出席率は100%であるが、柔道整復師の出席率はまだまだほど遠いことが窺えます。会場によっては満員となる所はありますが、全体を見

るとやはりバラバラです。23回接骨医学会に出席された会員は大変勉強になり、明日からの施術に生かせる内容であったと思います。来年はもっと参加者が増えることを願います。
(尾座和)

■モンゴル人准医師3名の柔道整復術日本研修の閉講式が12月にあった(21ページ参照)。研修成果の報告で共通したことは、問診・視診・触診・徒手検査の大切さであった。特に脊椎圧迫骨折はレントゲン検査で骨折所見が得られなくても、症状で骨折を疑う症例にはギプス固定を行い好結果が得られ、臨床所見の重要性を学んだという。

私も最初のレントゲン検査で骨折が明らかでなくても、症状で疑わしい場合は固定し、数週間後にレントゲン検査を依頼すると、同意医師の先生から「硬化像(骨折が存在した証明)が現れました」と返事をいただくことが時々ある。モンゴル国において柔道整復術がさらに向上することを願っている一人である。
(多夢楽)



「美濃和紙」

〈表紙解説〉

四郷の串柿―新玉の年の初めに夫婦ニコニコ仲睦まじく―

公益社団法人和歌山県柔道整復師会 出崎 素之

和歌山県伊都郡かつらぎ町の東谷、平、滝、広口の4つの村を総称して四郷（しごう）といいます。

お正月の吊るし柿の名産地全国出荷量1位の里として、400年の昔から歴史と伝統を育んできた四郷の山里からは、紀ノ川の清流を眼下に町並みを見渡し、遙か雨引山、龍門山、高野山、大峰山を遠望できます。

「四郷の串柿」は10月下旬から11月下旬にかけて柿の玉が簾のように連なり、日に日に色付く柿が心を和まし風情があります。このときばかりは静かな山里も大勢の見物客で賑わいを見せ、訪れる人びとを楽しませていきます。また、村からの展望は息を呑むほど鮮烈で、時が経つのを忘れてしまうほどです。

一本の串へ10個の柿を並べている串柿の由来は、両端の柿2つが「夫婦ニコニコ」そして、真ん中の6つの柿が「仲むつ（6つ）まじく」という意味があり、家族の和と幸せを願い「新玉の年の初めに夫婦ニコニコ仲睦まじく」という思いが込められています。

年初に、縁起の良い串柿にあやかり、順風満帆な一年でありますように願いをこめて写真に収めました。



夫婦2こ 仲むつ（6つ）まじく 夫婦2こ



平成27年1月20日発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 工藤 鉄男

編集者 永田 官久

制作・印刷所 東京リスマチック株式会社

光と音で知らせます♪

治療点の探索



(原寸大)



ココロケータ

新発売

治療点検索測定器

管理医療機器(特定保守管理医療機器) 販売名:セイリンロケータ 医療機器認証番号:225AABZX00195000

微弱な探索電流により皮膚に刺激を与えることなく、
治療点(低電気抵抗点)を探索します。

機器構成

本体、探索導子・握り導子

使用目的、効能又は効果

皮膚の電気伝導によって患者の皮膚で生じる
導電率を測定及び確認すること。

機器原理

内部電源による治療点検索測定器で、微弱な
探索電流により皮膚に刺激を与えることなく
治療点(低電気抵抗点)を探索します。

製品仕様

定格電源	DC9V、006P型電池(6F22、6LR61または同等品)
出力電流	14.6 μ A(50k Ω)、13.3 μ A(100k Ω)、5 μ A(1M Ω)
出力電圧	0.73V DC(50k Ω)、1.33V DC(100k Ω)、5V DC(1M Ω)
出力周波数	DC
本体の寸法	幅61mm、高さ100mm、奥行き35mm
ケーブル長	1.53m(導子の長さ含む)
重量	75g(本体のみ)、約185g(総重量)

■製造販売業者

セイリン株式会社
ISO13485 認証取得

〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町1007-1
TEL.054-365-5700 FAX.054-365-5139
<http://www.seirin.tv>

0120-100890
(通話料無料ダイヤル)

国民年金基金 は公的な年金制度であり

☆掛金は全額「社会保険料控除」の対象となり
所得税や住民税が軽減されます。

☆受け取る年金にも、「公的年金等控除」があり、
大変有利な扱いとなっています。

税金がこんなに有利！

掛金を収めているときは

掛金は全額社会保険料控除となり、所得税や住民税が軽減されます。

掛金が年額457,560円の方で課税所得が500万円の
35歳0月の男性の場合（年金月額6万円で加入した場合）

1口目A型（12,710円）、2口目以降A型に4口（6,355円×4口）加入した場合

●年間の掛金 …………… 457,560円×（所得税率20.420%+住民税10%）
= 139,190円 軽減

●実質の負担（年間）… 318,370円になります。

所得税率表

課税所得額	195万円以下	195万円超～330万円以下	330万円超～695万円以下	695万円超～900万円以下	900万円超～1,800万円以下	1,800万円超～
税率	5.105%	10.210%	20.420%	23.483%	33.693%	40.840%

※住民税は一律10%です。



65歳から年金を受け取るときも

公的年金等控除の対象となりますので、年金以外に収入がない場合、お一人お一人158万円までは、税金がかかりません。



※国民年金の年金月額6.5万円は、20歳から60歳までの40年間、保険料を納付した時の平成25年度の満額です。
※国民年金基金の年金月額は、夫婦とも35歳0月で1口目終身年金A型、またはB型、2口目以降、終身年金A型・B型と確定年金I型・II型・III型・IV型・V型のうち、7つの型から4口選んだ場合。

【年金額・掛金額例】1口目A型の場合（月額）

性別	加入時年齢	年金月額	掛金月額	性別	加入時年齢	年金月額	掛金月額
	男性	25歳0月	20,000円		8,370円	女性	25歳0月
30歳0月		20,000円	10,170円	30歳0月	20,000円		11,880円
35歳0月		20,000円	12,710円	35歳0月	20,000円		14,850円
40歳0月		15,000円	12,405円	40歳0月	15,000円		14,490円
45歳0月		15,000円	17,235円	45歳0月	15,000円		20,115円
50歳0月		10,000円	17,940円	50歳0月	10,000円		20,930円

※加入の型などお悩みでしたら、ご希望に合うマイプランをお作りすることも可能です。お気軽にお問合せください!!

お問い合わせ

日本柔道整復師国民年金基金 ☎0120-305205

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-22-8 イツカビル8階 ☎03-3253-0701 FAX専用 ☎0120-505405

ホームページ <http://www.juuseikikin.or.jp>

安心のために できることのすべてを

損保ジャパンと日本興亜損保は2014年9月1日に合併し、新会社「損保ジャパン日本興亜」
としてスタートいたしました。日本でいちばん大きな安心をお届けするために、これまでの損保に
できなかったことに取り組み、これからの損保に本当に必要なサービスを提供してまいります。

損保ジャパン日本興亜、誕生。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
Tel:03(3349)3111 <http://www.sjnk.co.jp/>

日本柔道整復師 協同組合員 のみなさまへ

毎月ご加入
できます!

日整協同組合 「新・柔道整復師賠償保険制度」は 「鍼灸師賠償」がオプションとして加入できます!!

「新・柔道整復師賠償保険」では、「柔道整復師業務」の賠償事故だけでなく、任意オプションで
「鍼灸師などの業務」「日常生活」「個人情報漏えい」の賠償事故も補償できます!!

基本プラン

「基本プラン」は以下による賠償事故を補償します!

「柔道整復師業務」

(柔道整復師特約)

「院内施設の不備」

(施設危険担保特約)

「院内施設でのケガ見舞金」

(傷害見舞費用担保特約)

任意オプションプラン (任意に1つからでも選択できます)

「任意オプションプラン」は以下による賠償事故を補償します!

①「鍼灸師などの業務」

(はり師、きゅう師
あん摩・マッサージ・指圧師特約)

②「日常生活」

(個人賠償責任保険)

③「個人情報漏えい」

(個人情報取扱事業者保険)

*「任意オプションプラン」だけのご加入はできません。必ず「基本プラン」とのセットでのご加入となります。

総合補償制度(所得補償・医療補償等)

病気・ケガ・交通事故による所得減・医療費等をトータルで補償します!!

毎月ご加入
できます!

(所得補償保険、新・団体医療保険、交通事故傷害保険)

40%割引!

(団体割引20%+過去の損害率による割引25%)

日整協同組合
ならではの
割引です!

(団体長期障害所得補償保険)

20%割引!

(団体割引20%)

ご契約の際、被保険者数が1,000名未満もしくは5,000名以上になった場合、保険料が変更となります。

この内容は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店にお問い合わせください。

<引受保険会社>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3

団体・公務開発部 第二課

(TEL)03-3593-6453 (FAX)03-3593-6751

<取扱幹事代理店>

アームリンク 株式会社

〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-43-6 真塩ビル2F

(TEL)027-255-3233 (FAX)027-280-4659

SJNK14-06221 (2014.8.6)

「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は、損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併して誕生した会社です。

公益社団法人日本柔道整復師会の皆さまへ

MS&AD

三井住友海上

柔道整復師会総合賠償保険

(柔道整復師特別約款・施設所有(管理)者特別約款)

昭和47年より日本柔道整復師会の会員の皆さまを
柔道整復業務にかかわる事故からお守りしています。

保険期間: 毎年11月1日から1年間

募集期間: 9月～10月下旬

【特徴】

- 日本柔道整復師会と三井住友海上とが会員の皆さまのために開発した保険です。
- 地域支援事業における介護予防事業に従事中の事故も補償いたします。
- 患者様が施術所内でのケガにより通院された場合の患者様へのお見舞金等も補償いたします。

所得補償保険

病気・ケガでの休業を補償いたします。

保険期間: 毎年8月1日から1年間

補償期間: お申込日の翌月1日午後4時～平成27年8月1日午後4時

※随時中途加入のお申込みを受け付けております。

【特徴】

- 業務中・業務外を問わず病気・ケガで就業不能となり、休診された時の収入を補償します。
- 保険料は約**52%割引**であり、個人でご契約されるよりお得です。
(団体割引20%+損害率による割引(注)40%)

(注) 損害率により、毎年割引率が見直しされます。

上記割引率は平成26年に保険期間を開始した契約のものです。

※この内容は保険の特徴を説明したものです。詳しい内容については、専用パンフレット「日本柔道整復師会総合賠償保険のご案内」「日本柔道整復師会所得補償保険・団体長期障害所得補償保険(GLTD)・団体総合生活補償保険(MS&AD型)のおすすめ」をご参照いただくか取扱代理店または三井住友海上の営業店にお問い合わせください。

<団体窓口>

公益社団法人日本柔道整復師会 事務局 TEL03-3821-3511

<引受保険会社>

三井住友海上火災保険株式会社

広域法人部営業第一課

〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台 3-11-1

TEL03-3259-6692 FAX03-3259-7218

<主要取扱代理店>

株式会社ウーベル保険事務所

〒104-0041 東京都中央区新富 2-4-5 ニュー新富ビル 8F

TEL03-3553-8552 FAX03-3553-8553



愛する人のために

谷川俊太郎

保険にはダイヤモンドの輝きもなければ、

パソコンの便利さありません。

けれど目に見えぬこの商品には、

人間の血が通っています。

人間の未来への切ない望みが

こめられています。

愛情をお金であがなうことはできません。

けれどお金に、

愛情をこめることはできます、

生命をふきこむことはできます。

もし愛する人のために、

お金が使われるなら。

日本生命

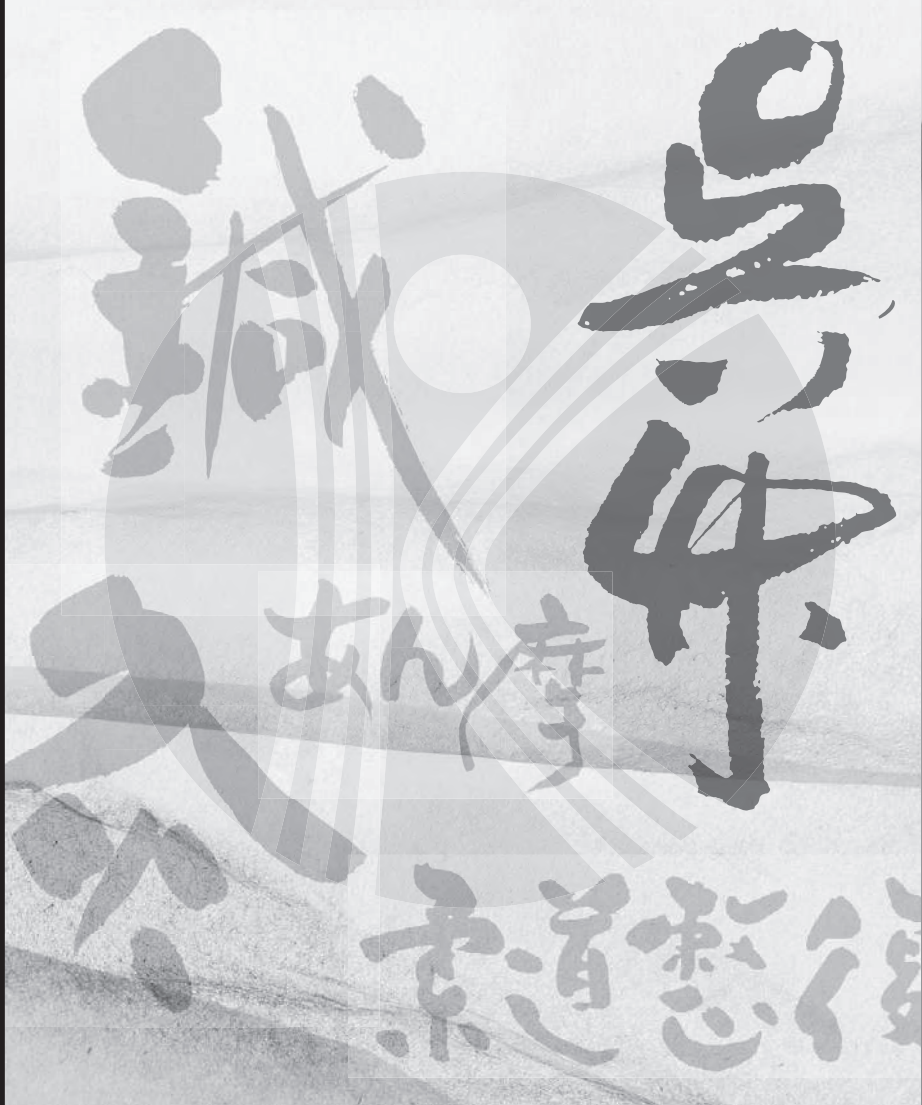


伝統と歴史を刻み、
進化する未来へ。

呉竹学園は、
今までも、これからも、
時代に適応した人材を育成し、
社会に貢献する努力を続けます。



学校法人
呉竹学園
Established 1926



<http://www.kuretake.ac.jp/>

東京医療専門学校

〒160-0008 東京都新宿区三栄町3

TEL:03-3341-4043

伝統医療と現代理論の融合。

東京医療専門学校は、十分な知識・技術を持った上で
柔軟な思考のできる懐の深い医療人の育成を目指します。



呉竹鍼灸柔整専門学校

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-24

TEL:045-471-3731

社会の信頼と尊敬を得る医療人の育成。

呉竹鍼灸柔整専門学校は、人格形成に力を注いだ教育により
社会の信頼と尊敬を得る医療人を育成します。



呉竹医療専門学校

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-185-1

TEL:048-658-0001

社会ですぐに活躍できる“あなた”になるために。

医の東西を問わず十分な知識と技術を備え、
全人的医療を施すことの出来る医療人を育成します。



三四郎くん

は、日本全国で最も多く使われている
接骨院・整骨院専用のレセコンです！



使い勝手の良い操作性はもちろん、
療養費改正等の保険改正にすばやく対応。
迅速サポートでご好評を頂いている『三四郎くん』は、
常に進化を続ける信頼と実績の事務管理ソフトです。

オプションで
さらに便利！



保険証リーダー



サーマルプリンタ



バーコードシステム

超音波画像観察装置

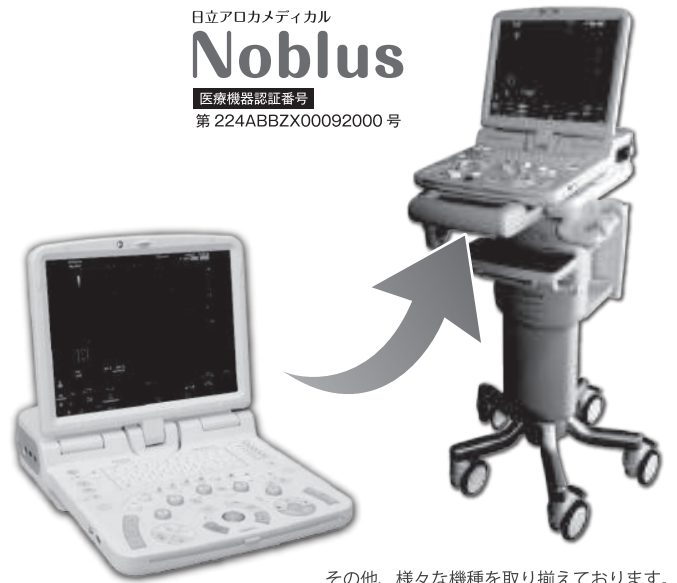
骨・軟骨・筋・腱・靭帯などがリアルタイムに観察できます。



日立アロカメディカル

Noblus

医療機器認証番号
第 224ABBZX00092000 号



SSB 株式会社 **エス・エス・ビー**

WEB | <http://www.sanshiro-net.co.jp>

本社 | 〒305-0853 茨城県つくば市榎戸748-2 沼尻産業ビル
TEL 029-839-0346 / FAX 029-838-0874

営業所 | 札幌、青森、仙台、北陸、長野、名古屋、関西、中国四国、福岡、鹿児島

最新柔整情報が読める!! 柔整ホットニュース

▶▶▶ <http://www.jusei-news.com/>



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。